

2019（令和元）年度

教 育 と 研 究

久留米信愛短期大学

目次

教授

関 聡	・ ・ ・	3
椎山 克己	・ ・ ・	11
山下 浩子	・ ・ ・	21
原 浩美	・ ・ ・	37
山村 涼子	・ ・ ・	49
石井 妙子	・ ・ ・	65
江越 和夫	・ ・ ・	79

准教授

眞部 眞紀子	・ ・ ・	91
--------	-------	----

講師

新井 真実	・ ・ ・	103
増田 吹子	・ ・ ・	117
内野 香	・ ・ ・	129

助手

眞谷 智美	・ ・ ・	137
高松 幸子	・ ・ ・	141

教員研究会資料	・ ・ ・	145
学生の授業評価に基づく優秀科目	・ ・ ・	148
公開授業実施一覧	・ ・ ・	150

所属学科	職名	氏名
幼児教育	学長	関 聡
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
教育原理 モンテッソーリ教育法Ⅰ モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼児教育学科1年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年	幼稚園免許必修 保育士選択必修 保育士選択必修
研究分野		
1、教育哲学の分野 修士論文いらい生涯のテーマである教育活動及び教育学の独自性に関する研究である。教育という人間の営みについて、その領域独自の論理があるという仮説に基づき、教育的思考・教育的関係・教育的価値等について研究している。 2、保育者養成の分野 保育士及び幼稚園教諭の養成に関して、カリキュラム論を中心に研究している。本学の保育者養成に資すること、地域の保育の質の向上につながることを念頭に置いて研究を進めている。養成校における独自の潜在カリキュラムについても言及したい。 3、カトリック保育の分野 カトリック保育とはなにか。その理念・実践・保育者養成について、カトリック短期大学で保育者養成に携わる者として研究を進めている。「信愛保育の創造」をテーマにしたい。信徒ではない（自分も含めて）者がカトリック保育をどう理解し実践するのかを問う。 4、モンテッソーリ教育の分野 モンテッソーリ教育に関する理論的研究。モンテッソーリ教育法について、その成立過程、教育理論、教育方法、現職教育などについて研究を行っている。常にモンテッソーリ教育の実践を意識しながら進めていきたい。 5、保育現場との共同研究の分野 平成23年度から信愛幼稚園教育において、年長クラス男児に剣道の指導を行っている。小学生以上の少年剣道の指導に関しては、いくつかの先行研究及び指導書があるが、幼稚園児指導の研究は見当たらない。信愛幼稚園との共同研究を進めたい。 6、大学教育の分野 大学教育の改革について文部科学省のプロジェクトに沿って研究を行なっている。これまで、「地域参画型短期大学教育」「卒業生のマンパワーを活用したキャリア教育」「10年間継続した就業力育成教育」「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」等について研究・実践を行ってきた。 7、カトリック教育の分野 高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んでいきたい。設立母体である「シヨファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の理解とともに、学生への信愛教育のあり方を省察しながら実践したい。		

令和元年度 研究報告

令和元年度の研究の概要

1. 教育哲学に関する研究

西洋教育思想について研究を行った。『新・教育学のグランドデザイン』（共著）八千代出版、第2章「教育の諸理論」を改訂した。コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・ヘルバルト・ケイ・デューイの各思想について言及した。

2. モンテッソーリ教育に関する研究

①理論研究

モンテッソーリ教育の成立過程について研究する。とくにモンテッソーリ用語の発現・展開の経緯に注目し、モンテッソーリ教育の日本化・現代化の道を探った。

②実践研究

現場保育者の力量の向上について論じ、その研究をもとに、現場のモンテッソーリ教師の講習・リカレント教育を進めた。

③翻訳

平成3年に『新しい世界のための教育』モンテッソーリ著を翻訳し、エンデルレ書店から出版したが、平成30年度に新訳を青土社から出版し、改訂版を執筆中である。

3. 現場との共同研究

久留米信愛幼稚園において実施している幼稚園剣道の指導について研究を進めた。竹刀操作の技能向上だけでなく、年長児の集中力・随意運動・忍耐力及び所作など心身の両面から少年剣道の意義を探った。

4. 子育て支援に関する研究

子育て支援についての研究を行った。とくに現代の育児に必要な子ども観の形成、ファミリーサポート事業に必要とされる人権意識、カトリックに基づいた人間観を論じ、その成果を「ファミリーサポートセンターくめ」による活動に生かした。

5. カトリック教育の分野

高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んだ。設立母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の涵養の方法を追究している。さらにカトリック保育の意義と実践及びカトリック保育の実践者養成に取り組んでいる。

令和元年度の研究の成果

（著書）

- 『新・教育学のグランドデザイン』共著 令和元年11月 八千代出版 （9～22）

平成30年度及び29年度の研究の成果

（著書）

- 『新しい世界のための教育』 M. モンテッソーリ著 青土社 単独翻訳 平成30年10月

（評論）

- 「論壇 安倍内閣の『地方創生』への要望・期待 私学助成に社会貢献係数の導入等要望」単著 平成29年2月『全私学新聞』第2399号

（書評）

- 「現代に生きるマリア・モンテッソーリの教育思想と実践」単著 平成29年3月 『モンテッソーリ教育第48号』日本モンテッソーリ協会（学会）

（司会）

- 「研究発表」平成30年8月 日本モンテッソーリ協会（学会）全国大会 研究発表・司会
- 「研究発表」平成29年8月 日本モンテッソーリ協会（学会）全国大会 研究発表・司会

本教員の主たる研究の成果（5編以内）	
（著書） 1.『新しい世界のための教育』 M. モンテッソーリ著 青土社 単独翻訳 平成 30 年 10 月 2.『新・教育学のグランドデザイン』 共著 八千代出版 令和元年 11 月 3.『教育原理』 共著 保育出版 平成 12 年 4 月 4.『モンテッソーリ教育用語辞典』 共著 学苑社 平成 18 年 10 月 5.『教育方法技術』 共著 八千代出版 平成 5 年 3 月	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本幼児教育学会	学会誌『幼児教育研究』の編集委員を務めている。 令和元年度の全国大会は学校行事のため不参加だった。
日本モンテッソーリ協会（学会）	協会(学会)理事を務めている。 九州支部支部長を務めている。 学会誌『モンテッソーリ教育』の編集委員を務めている。 「K. ルーメル学術奨励賞」の選考委員を務めている。 令和元年度全国大会（於：富山）に参加した。
日本カトリック教育学会	大会等は不参加であった。
令和 2 年度 研究計画	
1. 教育哲学に関する研究 西洋教育思想について研究する。『新・教育学のグランドデザイン』（共著）八千代出版、第 2 章「教育の諸理論」の次の新版発行に向けて準備する。 2. モンテッソーリ教育に関する研究 モンテッソーリ教育の成立過程について研究する。とくにモンテッソーリ用語の発現・展開の経緯に注目し、モンテッソーリ教育の日本化・現代化の道を探りたい。現場保育者の力量の向上について論じ、その研究をもとに、現場のモンテッソーリ教師の講習を実施する。また、モンテッソーリ園の保護者への講演も依頼されている。 3. 現場との共同研究 久留米信愛幼稚園において実施している幼稚園剣道の指導について研究を進める。先行研究を精査するとともに、資料的な発表から始める。竹刀操作の技能向上だけでなく、年長児の集中力・随意運動・忍耐力など心身の両面から少年剣道の意義を探りたい。その成果を研究ノートにまとめ本学紀要にて発表する。 4. 子育て支援に関する研究 子育て支援についての研究を行う。とくに現代の育児に必要な子ども観の形成、ファミリーサポート事業に必要とされる人権意識、カトリックに基づいた人間観を論じ、その成果を「ファミリーサポートセンターくるめ」による活動に生かす。 5. 保育者養成に関する研究 保育者養成の今日的課題について研究し、本学の保育者養成の高度化の一助となれればと考えている。質の高い保育者養成に向けて努力したい。 6. カトリック教育の分野 高等教育におけるカトリック教育の意義と実践について、学長として取り組んでいきたい。設立母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」の理念及び本学の建学の精神の理解とともに、学生への信愛教育のあり方を省察しながら実践したい。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）		
担当科目の成績評価		
科目名	成績評価の内訳	平均
教育原理	AA： 11 名，A： 18 名，B： 21 名，C： 8 名，D： 1 名	3.5
モンテッソーリ教育法Ⅰ	AA： 1 名，A： 1 名，B： 2 名，C： 1 名，D： 0 名	3.6
モンテッソーリ教育法Ⅱ	AA： 1 名，A： 1 名，B： 2 名，C： 1 名，D： 0 名	3.6
各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
教育原理	幼児教育学科 1 年	幼稚園免許必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	学生の授業態度・学修意欲の向上。 「問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった」の評価を 3.9 から 4.0 以上に引き上げる。学生のモチベーションを引き出すような授業内容・方法を工夫したい。つねに学生との双方向性を意識して居眠り等のない授業を心がけたい。 全体の目標として、総合評価 4.4 を 4.5 まで引き上げる。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	○「問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった」の評価を 3.9 から <u>4.0 以上</u>に引き上げる。 <u>4.0</u>であった。学生を名前で呼べると効果が上がるのだが。 ○総合評価 4.4 を <u>4.5</u>まで引き上げる。 <u>4.5</u>であった。「熱意を持って」4.7、「愛情と尊敬の念をもって」4.6 は評価できるが、「質問したり、自分で調べる」は 3.5 と評価が低い。積極的な学修態度の育成が課題である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	「学修の喜びや達成感」を本科目で学生に身に付けてほしい。 問 3「私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）」の自己評価を 4.0 から 4.2 に引き上げる。 学生が理解することを最優先し、内容・進度を学生目線から見直しを行う。学術用語をなるべく避け、学生の生活や経験から授業内容を組み立てていく。虐待・少子化・保育士不足等、身近な社会問題にも目を向けていく。 総合評価は 4.5 以上を目指す。 双方向的な授業の進め方をつねに心がけているが、その際、学生を名前で呼べるようになれば効果が上がるのだが。	

科目名	対象	必修・選択
モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼児教育学科 2 年	保育士資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	総合評価を 4.9 から 5.0 に引き上げる。平成元年度の履修者は例年よりもかなり少ないので授業の質の向上が期待できる。よりよい教育的関係が成立できれば 5.0 の総合評価も不可能ではない。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価は 4.8 であり評価は高い。「居眠り・私語・メール」が 5.0 は評価できる。「わからない時に質問、自分で調べた」が 4.0 である。自主的な学修態度の形成が課題である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・④・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		⑤・4・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・①
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・②・1
厳格な授業評価を実施した		5・④・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	自主的な学修態度の形成を今年度の課題とする。問 2 「わからない時には質問したり、自分で調べたりした」を 4.6 から 4.8 に引き上げる。いつでも質問できるような雰囲気づくりと授業外の学修習慣を身に付けさせたい。	
科目名	対象	必修・選択
モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼児教育学科 2 年	保育士資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	総合評価を 4.8 から 4.9 に引き上げる。 モンテッソーリ園への就職者が減少傾向にある。信愛幼稚園をはじめとくにカトリック園への就職のケアを授業内で行っていききたい。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価は 5.0 を達成した。 受講生 5 名中 3 名がモンテッソーリ園に就職した。うち 1 名は信愛幼稚園に就職した。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		⑤・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		⑤・4・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・①
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・②・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	総合評価 5.0 を維持する。前期に引き続き自主的な学修態度の形成を今年度の課題とする。 モンテッソーリ園への就職者が減少傾向にある。信愛幼稚園をはじめとくにカトリックのモンテッソーリ教育園への就職のケアを授業内で行っていききたい。	

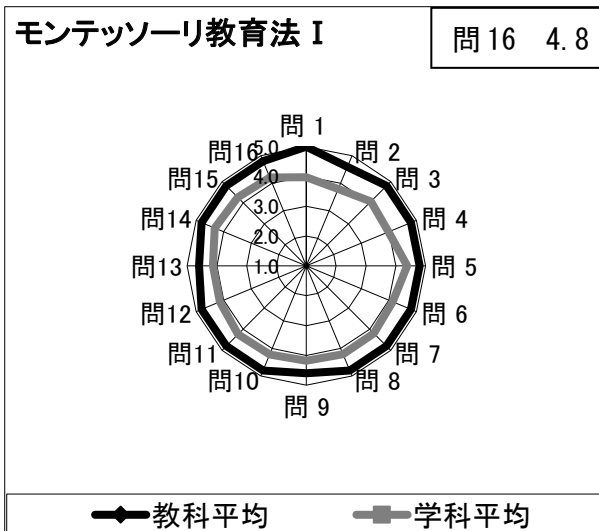
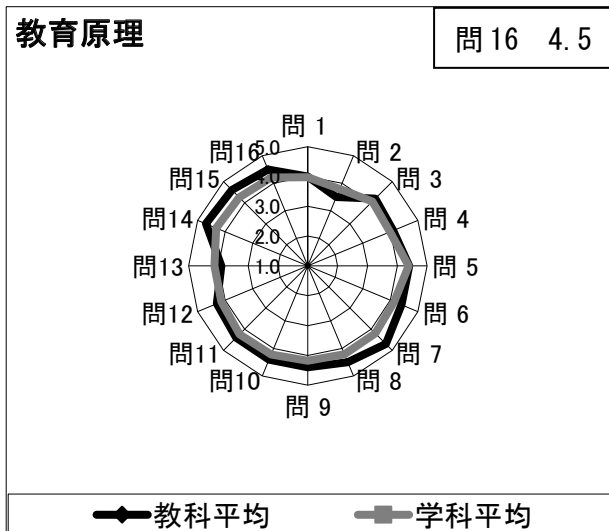
令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
子どもを見る目・子どもの人権	令和元年 5月14日	ファミリーサポート久留米	子育て交流プラザ
子どもを見る目・子どもの人権	令和元年 10月10日	大木町子ども未来課	子育て交流センター
子どもを見る目・子どもの人権	令和2年 1月30日	久留米市子ども未来部	子育て支援センター
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
久留米市東京オリンピック・パラリンピック キャンプ等実行委員会 委員 久留米市学術研究都市づくり推進協議会 委員 高等教育コンソーシアム久留米 理事 九州地区私立短期大学協会 監事 久留米市剣道連盟 監事	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	久留米市 久留米市 コンソーシアム久留米 九州地区短期大学協会 久留米市剣道連盟	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
教育学	平成31年4月1日～ 令和元年9月31日	八女筑後看護高等専門学校	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
○少年剣道指導 久留米市スポーツ少年団指導 久留米信愛幼稚園指導		平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	
令和2年度 社会的活動計画			
○講演等 久留米市子ども未来部の依頼によるもの。3回程度 モンテッソーリ教育に関する現職研修会及び保護者講演会。2回程度 ○他団体等への協力 久留米市東京オリンピック・パラリンピックキャンプ等実行委員会 委員 久留米市学術研究都市づくり推進協議会 委員 高等教育コンソーシアム久留米 理事 九州地区私立短期大学協会 監事 久留米市剣道連盟 監事 ○他大学への非常勤 八女筑後看護高等専門学校 ○少年剣道指導 久留米市スポーツ少年団指導 久留米信愛幼稚園指導			

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

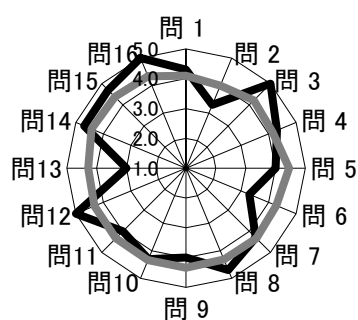
- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない



モンテッソーリ教育法Ⅱ

問 16 5.0



◆教科平均 ■学科平均

	問 17 あなたはこの授業のために一週間あたり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
教育原理（幼 1）	21	23	2	1	0
モンテッソーリ教育法Ⅰ（幼 2）	3	0	0	1	0
モンテッソーリ教育法Ⅱ（幼 2）	2	1	0	0	0

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
教育原理（幼 1）	1	7	19	3	2	12
モンテッソーリ教育法Ⅰ（幼 2）	0	0	2	0	0	3
モンテッソーリ教育法Ⅱ（幼 2）	0	0	1	0	0	2

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	椎山 克己
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
保育内容表現 音楽表現 器楽合奏 保育・教職実践演習（幼稚園） チャイルドプロジェクト	幼児教育学科 1 年 幼児教育学科 2 年 幼児教育学科 2 年 幼児教育学科 2 年 幼児教育学科 2 年	卒業選択、免許・資格必修 卒業選択、免許必修、資格選択必修 卒業必修 卒業選択、免許・資格必修 卒業必修、資格選択必修
研究分野		
1. 音楽教育の分野 ① 幼児期の音楽教育についての研究。幼稚園教育要領・保育指針に示される領域「表現」の観点から、教育実践プログラムの研究を行っている。 ② 吹奏楽を通じた生涯教育としての音楽教育の研究。スクールバンドを主体としたコミュニティによる吹奏楽活動を通して、生涯教育における音楽教育の在り方、吹奏楽指導法について研究を行っている。 2. 保育者養成の分野 保育士および幼稚園教諭の養成に関する研究、カトリック保育について、並びに、子育て支援の活動に対する保育者養成校が果たす役割・課題について研究を行っている。また、保育・教職実践演習（幼稚園）の教育実践を通じた保育者養成教育についての研究を行っている。 3. 演奏の分野 クラリネットの演奏法についての研究。演奏活動を通してクラリネットの奏法、クラリネット作品の研究を行っている。		

令和元年度 研究報告	
令和元年度の研究の概要	
1. 音楽教育に関する研究 ①幼児教育における音楽教育の指導法、マーチングの指導法についての実践研究を行い、教員免許状更新講習において幼稚園教諭に対しての指導を実施した。 ②久留米信愛学院コミュニティー吹奏楽団および久留米児童吹奏楽団の活動を通して、生涯教育における吹奏楽活動に関する実践研究、ならびにマーチング指導に関する実践研究を行った。 2. 保育者養成の分野 ①福岡県下の幼稚園における音楽教育活動、特に歌唱教育についての実態と幼稚園教育要領に示される領域との関連について調査し、「国際幼児教育研究」で発表した。 ②リトミックを取り入れた幼稚園における幼児の表現活動と幼児理解について共同研究を行い、幼稚園教育要領との関連性を本学研究紀要第 42 号で発表した。 ③保育者養成校における子育て支援について、本学で開催する信愛つどいの広場事業の状況について本学研究紀要第 42 号にて報告した。	
令和元年度の研究の成果	
(論文) 1. 「幼児の表現活動と幼児理解についての一考察～領域『表現』の視点から～」 共著 令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号』(19-28) 2. 「歌唱活動の実態調査を通じた幼児音楽教育の在り方に関する研究」 共著 令和元年 9 月 『国際幼児教育研究 第 26 号』(147-158) (指揮) 1. 「久留米信愛学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」 単独 令和元年 8 月 久留米信愛学院コミュニティー吹奏楽団 石橋文化ホール 2. 「マーチング イン 福岡 2019」で久留米信愛学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 単独 令和元年 9 月 福岡マーチングバンド協会 福岡国際センター 3. 「マーチング イン 九州 2019」で久留米信愛学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 単独 令和元年 11 月 九州マーチングバンド協会 島原復興アリーナ (報告) 1. 「『信愛つどいの広場』における子育て支援の実際」 共著 令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号』(63-68)	
平成 30 年度及び 29 年度の研究の成果	
(論文) 1. 「保育・教職実践演習(幼稚園)における能動的学習による授業実践—学生の相互評価における言語表現の変化について—」 単著 平成 30 年 3 月 『国際幼児教育学会 九州・沖縄・山口支部 平成 29 年度発表論文集』(1-5) (発表) 1. 「保育・教職実践演習(幼稚園)における授業実践」 単独 平成 29 年 10 月 国際幼児教育学会 九州・沖縄・山口支部 久留米信愛女学院短期大学 2. 「久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」 単独 平成 29 年 8 月 久留米信愛女学院コミュニティー吹奏楽団 石橋文化ホール 3. 「マーチング イン 福岡 2017」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 単独 平成 29 年 9 月 福岡マーチングバンド・バトントワーリング協会 福岡国際センター 4. 「マーチング イン 九州 2017」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮(銀賞受賞) 単独 平成 29 年 10 月 九州マーチングバンド・バトントワーリング協会 鹿児島アリーナ	

5. 「第 17 回マーチングステージ全国大会」で久留米信愛女学院吹奏楽部を指揮（優秀賞受賞） 単独 平成 30 年 2 月 オリンパスホール 八王子 6. 「久留米信愛学院コミュニティー吹奏楽団演奏会」 単独 平成 30 年 8 月 久留米信愛学院コミュニティー吹奏楽団 石橋文化ホール 7. 「マーチング イン 福岡 2018」で久留米信愛学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞） 共同 平成 30 年 9 月 福岡マーチングバンド協会 福岡国際センター 8. 「マーチング イン 九州 2018」で久留米信愛学院吹奏楽部を指揮（銀賞受賞） 共同 平成 30 年 10 月 九州マーチングバンド協会 別府ビーコンプラザ	
本教員の主たる研究の成果（5 編以内）	
1. 「日本の幼児教育における音楽教育の方向性について ―アメリカにおける音楽教育からの一考察―」（単著） 『国際幼児教育研究第 6 号』 2. 『保育にいかす器楽合奏』（単著） 樺歌書房 平成 16 年 2 月 3. 『保育にいかすマーチング曲集』（単著） 樺歌書房 平成 17 年 2 月 4. 『保育にいかす編曲法』（単著） 樺歌書房 平成 18 年 3 月 5. 「歌唱活動の実態調査を通じた幼児音楽教育の在り方に関する研究」 共著 令和元年 9 月 『国際幼児教育研究 第 26 号（147～158）』	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
国際幼児教育学会	理事会・支部総会に出席、支部研究会参加、常任理事・九州・沖縄・山口支部支部長
日本音楽教育学会	大会等不参加
日本管打・吹奏楽学会	大会等不参加
日本保育者養成教育学会	大会等不参加
令和 2 年度 研究計画	
1. 幼児教育における音楽教育の研究 国際幼児教育学会、日本音楽教育学会に所属し、より幅広い研究に取り組めるよう大会・研究会に参加する。また、国際幼児教育学会九州・沖縄・山口支部の会員での共同研究を進める。 2. 保育者養成に関する研究 日本保育者養成教育学会に所属し、保育者養成についての研究を深めていく。具体的には保育・教育実践演習および実習指導に関する共同研究を行う。また、保育者養成のための音楽のテキストを作成する。 3. 吹奏楽指導法の研究 「スクールバンドを主体としたコミュニティー吹奏楽団の運営」についての実践研究を継続する。また、マーチング作品の創作を行うと共に、指導法について研究を行う。 4. 子育て支援に関する研究 本学で行っているつどいの広場での活動を基に、子育て支援に関する共同研究を継続して行い、発表する。 5. クラリネット奏法の研究 グループ“春の声”コンサート、久留米連合文化会コンサート等にてクラリネットの演奏発表を行う。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）		
担当科目の成績評価		
科目名	成績評価の内訳	平均
保育内容表現	AA： 4名, A： 29名, B 14名, C 11名, D 1名	3.41
音楽表現	AA： 9名, A： 27名, B 15名, C 12名, D 0名	3.52
器楽合奏	AA： 2名, A： 19名, B 32名, C 12名, D 0名	3.16
保育・教職実践演習（幼稚園）	AA： 13名, A： 21名, B 23名, C 6名, D 0名	3.65
チャイルドプロジェクト	AA： 3名, A： 3名, B 0名, C 3名, D 名	3.67
	AA： 名, A： 名, B 名, C 名, D 名	
	AA： 名, A： 名, B 名, C 名, D 名	
	AA： 名, A： 名, B 名, C 名, D 名	
	AA： 名, A： 名, B 名, C 名, D 名	
	AA： 名, A： 名, B 名, C 名, D 名	
	AA： 名, A： 名, B 名, C 名, D 名	
	AA： 名, A： 名, B 名, C 名, D 名	
各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
保育内容表現	幼児教育学科1年	卒業選択、免許・資格必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	FD宣言「学生の学習意欲を高める授業改善」 課題設定の工夫、授業計画内容の再点検を行い改善を図る。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	学生による授業評価の『私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした』の評価がH29年度3.7、H30年度3.9、R元年度4.1と上昇し、『さらに進んだ勉強をしたいと思う』の評価も4.3であり、授業改善の一定の成果があった。ただし、授業時間外での学習は行っていない学生が30%であるので、この点を改善する工夫が必要である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	学修意欲を高める工夫。学生が課題意識をもって授業に取り組む工夫をおこない、全体の目標として学生の授業評価の総合評価を4.5に引き上げる。	

科目名	対象	必修・選択
音楽表現	幼児教育学科 2 年	卒業選択、免許必修、資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	F D 宣言「学習内容についての興味関心を高める授業改善」 学生を自発的な学習へと結びつける課題設定・授業内容の改善を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	学習内容についての興味関心を高める授業改善を目標にしていたが、 『わからない時は質問したり、自分で調べたりした』の評価が H30 年 度と同じ 3.9 にとどまり改善に至らなかった。また授業時間外での学 習を行っていない学生が 50%を超えていることも併せ、さらなる授業 改善の必要がある。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	学生が能動的に学びたいと思える授業改善。授業時間外での学生の自 発的な学習を促す工夫を行い、授業評価の『わからない時は質問した り、自分で調べたりする』の評価を 4.0 以上に引き上げ、授業時間外 の学習を行う学生の割合を 8 割以上に引き上げる。	
科目名	対象	必修・選択
器楽合奏	幼児教育学科 2 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	F D 宣言「一人ひとりの学生に合わせた指導の工夫」 学生の能力に応じた指導を行い、学生の苦手意識の改善を図る。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	学生による授業評価ではどの項目も 4.1 以上あり、一人ひとりの学生 に合わせた指導を行うことができたと言える。ただし、授業時間外の 学習については行っていない学生の割合が 50%以上あり、この科目が 実技的な科目であることから、自発的な学習を促していく必要がある。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	到達意欲を高める授業の実践。学生の能動的な学習意欲を高める工夫 を行い、授業外での学習を行う学生の割合を 8 割以上に引き上げる。 学生の授業評価の総合評価を 4.5 に引き上げる。	

科目名	対象	必修・選択
保育・教職実践演習（幼稚園）	幼児教育学科 2 年	卒業選択、免許・資格必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言「自発的な学習につながる授業改善」 ICT を活用して実践と振り返りの内容を深め、学生の自発的な学習意欲を促す。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	学生による授業評価では『わからない時には質問したり、調べたりした』の評価が H30 年度より 0.2 ポイント上昇し、どの項目も 4.2 以上ではあり、授業改善の効果は見られる。しかし、自発的な学習を授業時間外で行っている学生もほとんどいないことは今後の課題である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・ <u>2</u> ・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	授業時間以外でも自発的な学習に導く授業の展開。保育者として求められる実践力を身に付けていく大切さを授業の中で学生が実感できる授業の展開を図り、学生による授業評価の総合評価 4.5 以上を目指す。	
科目名	対象	必修・選択
チャイルドプロジェクト	幼児教育学科 2 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	前年度はこの科目を担当していない。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	ゼミ形式の授業であるので一人ひとりに対応した指導ができ、学生による授業評価の総合評価も 5.0 であった。ただし授業時間外の学習は予習を行っている学生も行っているが、自発的な学習を行う学生はいなかった点が今後の課題である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	学生の学修意欲を高める工夫を行い、学生による授業評価の総合評価 5.0 を目指す。また、授業外での自発的な学習を促す。	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
・教員免許状更新講習 「保育実践研究 幼児の音楽表現」	令和元年 8 月 30 日	久留米信愛短期大学	久留米信愛短期大学
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
国際幼児教育学会理事, 九州・沖縄・山口支部長 久留米市社会福祉審議会委員（委員長）、同審議会児童福祉専門部会委員（部会長） 久留米市社会教育委員(委員長) 久留米市障害者問題啓発事業選考委員 久留米市子ども・子育て会議委員（会長） 大刀洗町子ども・子育て会議委員（副会長） 久留米学術研究都市づくり推進協議会幹事 高等教育コンソーシアム久留米 運営委員会委員、地域支援部会委員 福岡マーチングバンド協会監事 特定非営利活動法人 久留米音楽協会理事 久留米吹奏楽連盟常任理事 久留米連合文化会洋楽部部長 久留米児童吹奏楽団団長・指揮者	平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	国際幼児教育学会 久留米市 久留米市 久留米市 久留米市 大刀洗町 久留米市 高等教育コンソーシアム久留米 福岡マーチングバンド協会 特定非営利活動法人久留米音楽協会 久留米吹奏楽連盟 久留米連合文化会 久留米児童吹奏楽団	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
令和 2 年度 社会的活動計画			
○他団体への協力 国際幼児教育学会理事・支部長、久留米市等への委員協力、高等教育コンソーシアム久留米運営・地域支援部会委員、久留米音楽協会（NPO）理事、久留米吹奏楽連盟常任理事、福岡マーチングバンド協会監事、久留米連合文化会洋楽部部長，久留米児童吹奏楽団団長 ○吹奏楽指導 久留米信愛学院吹奏楽部（中学・高校・短大）、久留米児童吹奏楽団の指導・指揮			

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

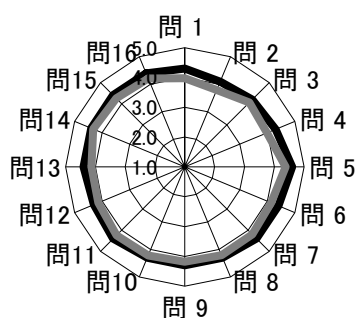
<質問項目>

- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない

保育内容 表現

問 16 4.4

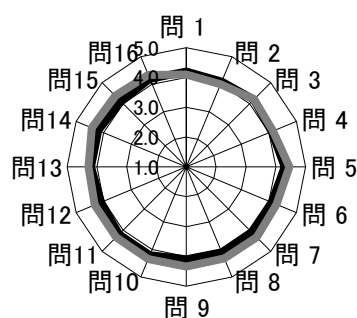


◆教科平均

■学科平均

器楽合奏

問 16 4.2

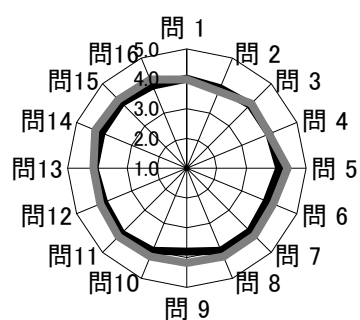


◆教科平均

■学科平均

音楽表現

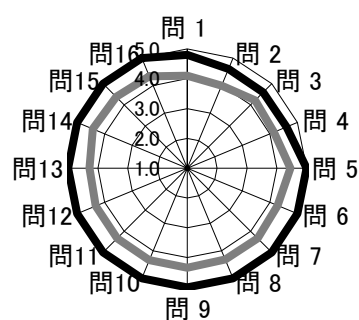
問 16 4.0



教科平均 学科平均

チャイルドプロジェクト

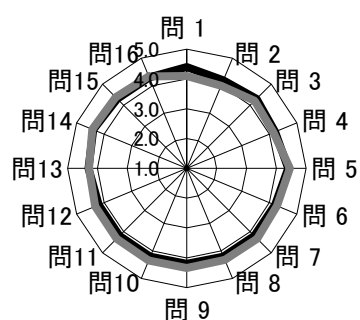
問 16 5.0



教科平均 学科平均

保育・教職実践演習(幼稚園)

問 16 4.3



教科平均 学科平均

	問 17 あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
保育内容 表現 (幼 1)	24	21	2	1	0
器楽合奏 (幼 2)	34	12	12	2	2
音楽表現 (幼 2)	33	11	7	4	3
チャイルドプロジェクト (幼 2)	0	0	0	0	5
保育・教職実践演習 (幼稚園) (幼 2)	22	7	16	3	5

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
保育内容 表現（幼1）	2	9	23	2	1	16
器楽合奏（幼2）	6	5	29	8	2	22
音楽表現（幼2）	2	2	28	4	0	24
チャイルドプロジェクト（幼2）	5	0	0	0	0	0
保育・教職実践演習（幼稚園）（幼2）	6	2	25	4	1	19

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	山下 浩子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
応用栄養学Ⅰ	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修
応用栄養学Ⅱ	フードデザイン学科１年	栄養士必修
栄養指導論	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修
栄養指導演習	フードデザイン学科１年	卒業・栄養士必修
栄養士基礎演習（４回）	フードデザイン学科１年	卒業必修
栄養指導実習	フードデザイン学科２年	栄養士必修
公衆栄養学概論	フードデザイン学科２年	栄養士必修
フードプロジェクトⅢ	フードデザイン学科２年	卒業必修
フードプロジェクトⅣ	フードデザイン学科２年	卒業必修
栄養士総合演習Ⅱ（６回）	フードデザイン学科２年	卒業選択
子どもの食と栄養Ⅰ	幼児教育学科２年	保育士必修
子どもの食と栄養Ⅱ	幼児教育学科２年	保育士必修
研究分野		
１．栄養教育・指導論の分野 栄養教育・指導における理論に基づいた方法や技術に関する研究。対象者を自らの意思で行動変容に導くための方法や食育教材について研究している。 ２．小児栄養学の分野 小児期の栄養のあり方に関する研究。とくに小児生活習慣病予防のための小児肥満改善について研究している。 ３．栄養士養成の分野 栄養士の養成に関する研究。栄養士養成に関するカリキュラム論・方法論について、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。		

令和元年度 研究報告	
令和元年度の研究の概要	
1. 栄養教育・指導論の分野	2019 年度教育改革推進事業として、チャイルドプロジェクト・フードプロジェクト共同で「信愛ひらく食育・保育教材」の開発に取り組んだ。食育絵本『カリブロくん』の発行に至った。 食教育をテーマに、久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食育実践の実態について調査研究を行った。
2. 小児栄養学の分野	久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、受診児の肥満改善のための食事・生活（運動・睡眠）について継続指導を行った。
3. 栄養士養成の分野	『入学から卒業までのガイドブック』（11 訂版）作成に向けて、内容・構成を検討した。 学科内 FD 活動の一環として、「栄養士養成研究」を継続した。
4. 地域企業等との連携事業	久留米リハビリテーション病院地域連携事業「久留米市やまもとのまちづくり」に協力大学とし参画した（フードプロジェクト）。
令和元年度の研究の成果	
(その他)	
1. 『入学から卒業までのガイドブック第 10 号』共著	平成 31 年 4 月 フードデザイン学科（総頁 64）
2. 「「学修成果の可視化」に向けての調査研究」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号』（39～47）
3. 「「学生の成長」の可視化のころみ（2）～ルーブリックの評価項目の再考について～」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号』（49～55）
4. 「聴覚障がい者を対象とした料理教室の取り組みー地域貢献活動に参画してー」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号』（69～73）
5. 「くるめ信愛菓ー地元和菓子店と学生の協働による新商品の企画・開発ー」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号』（75～78）
6. 「フードプロジェクト活動の報告～調理学の観点から～」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号』（79～84）
平成 30 年度及び 29 年度の研究の成果	
(論文)	
1. 「栄養士養成研究（5）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響 - 2」共著	平成 29 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 40 号』（25～34）
2. 「栄養士養成研究（6）6 年間の学習支援取り組みの総括」共著	平成 30 年 7 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号』（19～26）
(その他)	
1. 『入学から卒業までのガイドブック第 8 号』共著	平成 29 年 4 月 フードデザイン学科（総頁 64）
2. 「調理学関連科目の習熟度について 第 1 報」共著	平成 29 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第 40 号』（95～101）
3. 『入学から卒業までのガイドブック第 9 号』共著	平成 30 年 4 月 フードデザイン学科（総頁 64）
4. 「調理学関連科目の習熟度について 第 2 報」共著	平成 30 年 7 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号』（27～33）
5. 「「学生の成長」可視化のころみ（1）」共著	平成 30 年 7 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号』（35～42）
6. 「入学選考方法別による学業成績の追跡調査（2）」共著	平成 30 年 7 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号』（61～66）

本教員の主たる研究の成果（5編以内）	
1. 『子どもの健康』共著 開成出版 平成16年3月 2. 『くるめの元気！食育やさいかるた』食育教材製作 平成18年6月 3. 「総説 子どもの肥満」共著 『久留米醫學會雑誌第73巻第5・6号別冊』 平成22年6月 4. 『子どもの食と栄養 第2版』分担執筆 保育出版社 平成28年9月	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本栄養・食糧学会	大会等不参加。
日本栄養改善学会	大会等不参加。
日本家政学会	大会等不参加。
日本調理科学会	2019年度大会参加。平成30・31年度理事
日本小児保健学会	大会等不参加。
令和2年度 研究計画	
1. 栄養教育・指導論の分野 久留米市内保育所、幼稚園および認定こども園における食教育研究を継続し、調査・研究に携わる。	
2. 小児栄養学の分野 久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、受診児の肥満改善のための食事・生活指導を継続する。	
3. 栄養士養成の分野 『入学から卒業までのガイドブック』（12訂版）作成に向けて、内容・構成を検討する。 学科内FD活動の一環として、「栄養士養成研究」を継続する。	
4. 地域企業等との連携事業 フードプロジェクト活動の一環で、地域企業等との連携事業を継続する。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）

担当科目の成績評価

科目名	成績評価の内訳	平均
応用栄養学Ⅰ	AA：4名，A：10名，B：5名，C：6名，D：0名	3.5
応用栄養学Ⅱ	AA：7名，A：13名，B：3名，C：2名，D：0名	4.0
栄養指導論	AA：7名，A：6名，B：6名，C：6名，D：0名	3.6
栄養指導演習	AA：5名，A：10名，B：5名，C：5名，D：0名	3.6
栄養士基礎演習	AA：2名，A：10名，B：6名，C：7名，D：0名	4.1
栄養指導実習	AA：5名，A：8名，B：4名，C：2名，D：0名	3.8
公衆栄養学概論	AA：2名，A：7名，B：6名，C：3名，D：0名	3.4
フードプロジェクトⅢ	AA：4名，A：7名，B：7名，C：1名，D：0名	3.7
フードプロジェクトⅣ	AA：3名，A：9名，B：3名，C：3名，D：0名	3.7
栄養士総合演習Ⅱ	AA：0名，A：7名，B：7名，C：1名，D：0名	3.4
子どもの食と栄養Ⅰ	AA：13名，A：24名，B：20名，C：7名，D：0名	3.7
子どもの食と栄養Ⅱ	AA：9名，A：42名，B：11名，C：2名，D：0名	3.9

各授業の評価

科目名	対象	必修・選択
応用栄養学Ⅰ	フードデザイン学科1年	卒業・栄養士必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	<FD宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>①前回の復習②今回の目標明示③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	総合評価 3.7（前年度比－0.3）。問2「わからない時に質問または自分で調べた」2.6（－1.0）。この項目の前年度比が一番下がった。授業中に質問しやすい雰囲気や自ら考えたり調べたりする「質問・考察時間の確保」の工夫にもっと努めなければならないと考える。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・(2)・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・(3)・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・(3)・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・(1)
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・(3)・2・1
厳格な授業評価を実施した		(5)・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	<FD宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>とくに「要点の板書」を工夫し、本時内容をわかりやすく明示すること、また「質問・考察時間の定時確保」や「小テスト」によって、理解度の確認に努める。	

科目名	対象	必修・選択
応用栄養学Ⅱ	フードデザイン学科 1 年	栄養士必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>応用栄養学Ⅰと同様に、とくに「要点の板書」の工夫と「質問・考察時間の定時確保」や「小テスト」による理解度確認を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.3 (前年度比-0.6)。問 2「わからない時に質問または自分で調べた」2.7 (-1.1)。この項目の前年度比が一番下がった。応用栄養学Ⅰと同じく、授業中に質問しやすい雰囲気や自ら考えたり調べたりする授業展開の工夫にもっと努めなければならないと考える。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・ <u>2</u> ・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>とくに「要点の板書」を工夫し、本時内容をわかりやすく明示すること、また「質問・考察時間の定時確保」や「小テスト」によって、理解度の確認に努める。	
科目名	対象	必修・選択
栄養指導論	フードデザイン学科 1 年	卒業・栄養士必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>①前回の復習②今回の目標明示③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.5 (-0.3)。問 2「わからない時に質問または自分で調べた」3.0 (-0.4)、問 3「授業の内容を理解することができた」3.5 (-0.3)といずれも前年度比が下がっている。FD 宣言に挙げた授業方法の工夫はできていない。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>①前回の復習②今回の目標明示③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。	

科目名	対象	必修・選択
栄養指導演習	フードデザイン学科 1 年	卒業・栄養士必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>演習課題の内容や仕方について、「質問・考察時間の確保」をして、学生各々の理解度、進度に添った指導を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.1 (−0.5) と、担当科目中最下位だった。栄養指導の基本的事項について演習する科目であるが、演習内容を理解しているのかの把握、また進度の異なる学生への適切な指導はできていたのか、検討する必要がある。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・ <u>2</u> ・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・2・ <u>1</u>
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>演習課題の内容や仕方について、「質問・考察時間の確保」をして、学生各々の理解度、進度に添った指導を行う。	
科目名	対象	必修・選択
栄養士基礎演習	フードデザイン学科 1 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>演習課題の内容や仕方について、「質問・考察時間の確保」をして、学生各々の理解度、進度に添った指導を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.8 (−0.1)。問 2「わからない時に質問または自分で調べた」3.4 (+0.1)、問 4「本授業に関し、さらに進んだ勉強をしたい」3.8 (+0.1) であった。初年次教育として、栄養士養成課程に必要な基本的事項の習得を踏まえ、より丁寧な授業に努める。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>演習課題の内容や仕方について、「質問・考察時間の確保」をして、学生各々の理解度、進度に添った指導を行う。	

科目名	対象	必修・選択
栄養指導実習	フードデザイン学科 2 年	栄養士必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>「今回の目標明示」を行い、実習課題の設定や内容の進め方について、学生各々の理解度、進捗に添った指導を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.3 (−0.7)。各評価項目 3.5 未満で、総合評価の前年度比どおりであった。各実習テーマに沿った指導案を作成するのが難しいようである。もっと図書館の活用を促し、アクティブ・ラーニングで学習意欲が上がるよう工夫しなければならない。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・ <u>2</u> ・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・2・ <u>1</u>
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>「今回の目標明示」を行い、実習課題の設定や内容の進め方について、学生各々の理解度、進捗に添った指導を行う。	
科目名	対象	必修・選択
公衆栄養学概論	フードデザイン学科 2 年	栄養士必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>①前回の復習②今回の目標明示③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.7 (−0.4)。問 3「授業の内容を理解することができた（または実力がついた）」4.0 (+0.2) がやや上がった。学習成果が栄養士実力認定試験結果にも反映することをねらい、「質問・考察時間の確保」を活かした授業展開の改善に取り組む。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>①前回の復習②今回の目標明示③要点の板書④質問・考察時間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。	

科目名	対象	必修・選択
フードプロジェクトⅢ	フードデザイン学科 2 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>「今回の目標明示」を行い、課題の発見・設定や内容の進め方について、学生各々の学習力および行動力を引き出す工夫を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.4（新規科目）。問 7「本時のテーマ・目的を明示」3.1 と、全項目中一番低い。アクティブ・ラーニングの展開になるよう臨んでいるが、学生コメントにも授業の方法に不満足指摘があった。授業内容の充実と適切な授業展開に努めなければならない。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・ <u>2</u> ・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>「今回の目標明示」を行い、課題の発見・設定や内容の進め方について、学生各々の学習力および行動力を引き出す工夫を行う。	
科目名	対象	必修・選択
フードプロジェクトⅣ	フードデザイン学科 2 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>「今回の目標明示」を行い、課題の発見・設定や内容の進め方について、学生各々の学習力および行動力を引き出す工夫を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.3（新規科目）。「フードプロジェクトⅠ～Ⅳ」（2 年間）は課題発見から解決策の企画・実施・評価と学年、学期を経て大成していくことを狙っている。しかし問 5「ほぼ時間通りの授業実施」2.7 と、学生の学習意欲とは開きがあることが課題である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・ <u>2</u> ・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・2・ <u>1</u>
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>「今回の目標明示」を行い、課題の発見・設定や内容の進め方について、学生各々の学習力および行動力を引き出す工夫を行う。	

科目名	対象	必修・選択
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ	フードデザイン学科 2 年	卒業選択
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>「前回の復習」「今回の目標明示」「質問・考察時間の確保」 を行い、学生各々の理解度に添った授業を展開する。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.9 (−0.2)。問 17「この授業のための一週間当たりの予習・ 復習時間」61〜91 分以上が 4 割強であった。栄養士養成課程の総復習 科目（栄養士実力認定試験対策）として、授業時間以外にも学習して いるようで、有効な授業展開をもっと工夫しなければならない。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・(3)・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・(3)・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・3・(2)・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・(1)
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・(3)・2・1
厳格な授業評価を実施した		(5)・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>「前回の復習」「今回の目標明示」「質問・考察時間の確保」 を行い、学生各々の理解度に添った授業を展開する。	
科目名	対象	必修・選択
子どもの食と栄養Ⅰ	幼児教育学科 2 年	保育士必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>①前回の復習②今回の目標明示③要点の板書④質問・考察時 間の確保⑤まとめと理解度の確認を行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 3.9 (−0.4)。問 1「授業中、居眠り、私語、メールをすること が少なかった」3.5 (−0.1) と、例年この項目が低いのが気にかかる。 まさに教育力の不足だと考える。学生の関心が高まり、学習に集中す るような授業を展開しなければならない。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・(3)・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・(3)・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・(3)・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・(1)
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・(2)・1
厳格な授業評価を実施した		(5)・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>「前回の復習」「今回の目標明示」「質問・考察時間の確保」 を行い、学生各々の理解度に添った授業を展開する。	

科目名	対象	必修・選択
子どもの食と栄養Ⅱ	幼児教育学科 2 年	保育士必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>演習科目なので「今回の目標明示」を行い、本時の授業テーマを解説し、内容理解の下に授業の臨めるよう工夫する。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 4.2 (−0.1)。問 2「わからない時に質問または自分で調べた」4.0 (+0.2)、問 3「授業の内容を理解することができた」4.3 (±0)、問 9「板書の仕方や配布資料が効果的」4.2 (±0) であった。子どもの食の実際について調理実習を通して学習する機会にしたい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	<FD 宣言>わかりやすい授業法の工夫と学生の理解度確認を行う。 <計画>演習科目なので「今回の目標明示」を行い、本時の授業テーマを解説し、内容理解の下に授業の臨めるよう工夫する。	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
園児・保護者向けの食に関する資料及び媒体づくりのポイント	1・07・12 1・11・15 2・02・14	久留米市保育所連盟研修推進委員会	えーるピア久留米
魅力あるおいしい学校給食にするために～2020 東京オリンピック開催を祝う～ たべることの大切さ	1・07・29 1・08・09 1・12・03	公益財団法人福岡県学校給食会 久留米市生涯学習センター	公益財団法人福岡県学校給食会 えーるピア久留米
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて栄養指導 食と健康の和協議体における食育教室への参画	平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月（週 1 回） 令和元年 6 月～令和 2 年 3 月	久留米大学医療センター小児科 食と健康の和協議体	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
食と健康（a） 食と健康（b）	令和元年度前期 令和元年度後期	久留米大学 久留米大学	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
平成 30 年度学校給食調理技術講習会講師（福岡県学校給食会） 平成 30 年度食生活改善推進員養成教室講師（久留米市） 平成 30 年度学校給食料理コンクール審査委員長（福岡県学校給食会） 平成 30 年度福岡県学校給食レシピコンクール審査員（福岡県）		平成 30 年 7 月 24 日、29 日 平成 30 年 8 月 7 日 平成 30 年 10 月 18 日 平成 31 年 1 月 24 日	
令和 2 年度 社会的活動計画			
1. 他団体等への協力			
①久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来・栄養指導 (令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月毎週金曜日午後の予定)			
②「第 2 期健康くるめ 21」計画推進協議会委員（委員任期：令和元年 8 月 1 日～令和 4 年 7 月 31 日）			
③久留米市中央卸売市場運営協議会委員（委員任期：令和元年 8 月 9 日～令和 3 年 8 月 8 日）			
④久留米市食育推進会議（副会長）（委員任期：就任～令和 3 年 3 月 31 日）			
⑤久留米市地球温暖化対策協議会委員（委員任期：就任～令和 3 年 3 月 31 日）			
2. 他大学への非常勤等			
①久留米大学「食と健康（a）」・「食と健康（b）」（令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月前期・後期）			

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

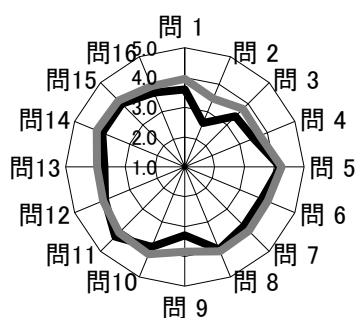
<質問項目>

- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない

応用栄養学Ⅰ

問 16 3.7

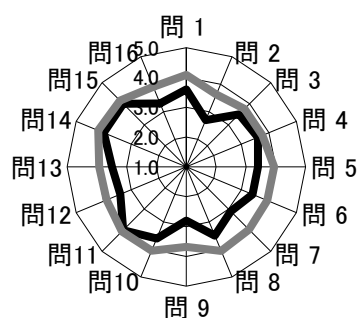


◆教科平均

■学科平均

応用栄養学Ⅱ

問 16 3.3

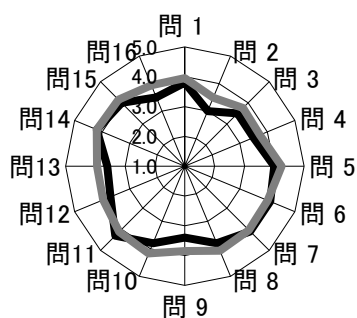


◆教科平均

■学科平均

栄養指導論

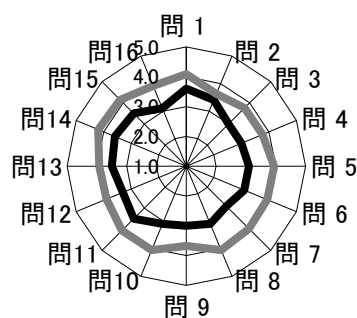
問 16 3.5



教科平均 学科平均

栄養指導演習

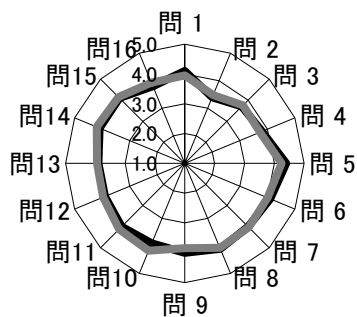
問 16 3.1



教科平均 学科平均

栄養士基礎演習

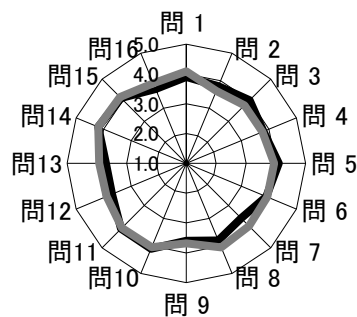
問 16 3.8



教科平均 学科平均

公衆栄養学概論

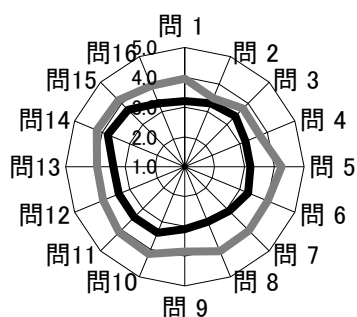
問 16 3.7



教科平均 学科平均

栄養指導実習

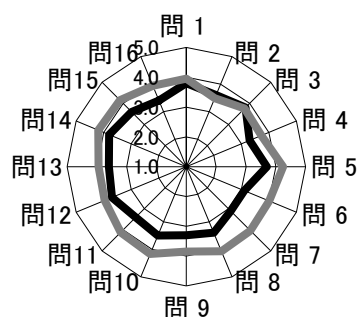
問 16 3.3



教科平均 学科平均

フードプロジェクトⅢ

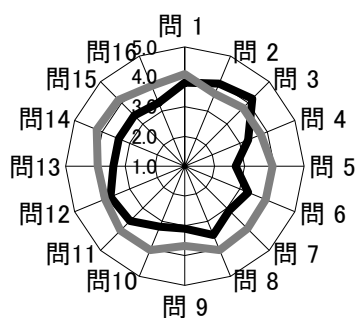
問 16 3.4



教科平均 学科平均

フードプロジェクトⅣ

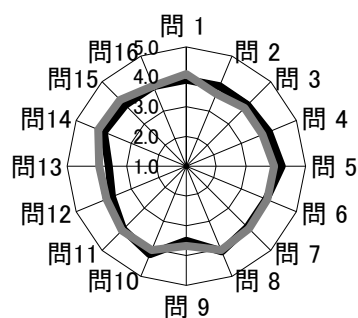
問 16 3.3



教科平均 学科平均

栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ

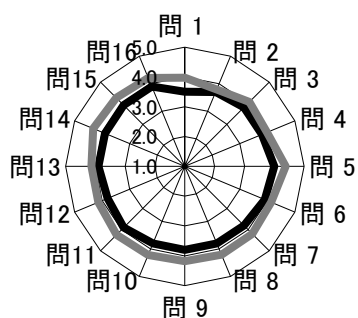
問 16 3.9



教科平均 学科平均

子どもの食と栄養Ⅰ

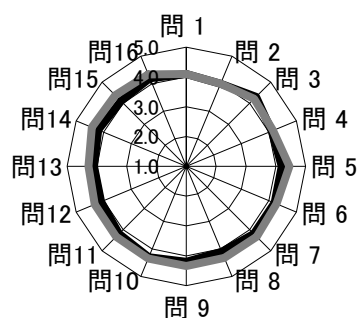
問 16 3.9



教科平均 学科平均

子どもの食と栄養Ⅱ

問 16 4.2



教科平均 学科平均

	問 17 あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
応用栄養学Ⅰ（フ１）	2	16	2	2	1
応用栄養学Ⅱ（フ１）	6	11	7	0	0
栄養指導論（フ１）	5	11	4	2	0
栄養指導演習（フ１）	9	8	6	0	0
栄養士基礎演習（フ１）	8	9	5	0	0
公衆栄養学概論（フ２）	4	4	6	2	0
栄養指導実習（フ２）	9	5	1	1	1
フードプロジェクトⅢ（フ２）	10	2	2	0	0
フードプロジェクトⅣ（フ２）	10	0	2	0	3
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（フ２）	1	3	4	1	5
子どもの食と栄養Ⅰ（幼２）	37	13	9	2	0
子どもの食と栄養Ⅱ（幼２）	38	17	4	2	0

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
応用栄養学Ⅰ（フ１）	1	5	5	14	6	1
応用栄養学Ⅱ（フ１）	1	4	9	15	1	4
栄養指導論（フ１）	1	7	1	12	2	4
栄養指導演習（フ１）	0	2	12	2	0	5
栄養士基礎演習（フ１）	0	6	7	1	3	8
公衆栄養学概論（フ２）	1	4	2	7	0	2
栄養指導実習（フ２）	0	0	7	0	1	8
フードプロジェクトⅢ（フ２）	0	0	4	0	0	7
フードプロジェクトⅣ（フ２）	1	0	2	0	1	9
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（フ２）	2	4	3	7	2	2
子どもの食と栄養Ⅰ（幼２）	1	4	10	24	0	26
子どもの食と栄養Ⅱ（幼２）	5	1	18	16	0	25

所属学科	職名	氏名
幼児教育学科	教授	原 浩美
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
ピアノⅠ ピアノⅡ ピアノ演奏法 音楽保育 チャイルドプロジェクト 教育実習事前事後指導	幼児教育学科1年 幼児教育学科1年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科2年 幼児教育学科1年・2年	卒業必修・免許選択必修 卒業必修 卒業選択・資格選択必修 卒業選択・資格選択必修 卒業選択・資格選択必修 卒業選択・免許必修資格選択必修
研究分野		
1. ピアノ音楽教育の分野 こどもピアノコンクールの審査を通して、ピアノ演奏が音楽教育に果たす役割を考え、ピアノで表現するための演奏技術を子どもに指導し、どのような情緒が生じるのか研究する。 2. ピアノ演奏法の分野 演奏活動を通して自己の表現・技術を深める研究。奏法の研究、作品のアナリゼ、演奏準備（練習）という一連の流れを実践し、演奏の機会を設けて研究する。 3. 保育者養成における音楽表現の分野 保育士および幼稚園教諭の養成において、ピアノが関わる表現分野を研究。保育指導や保育生活の中で必要とされるピアノ演奏を習得させるための有効な指導法や表現を研究する。		

令和元年度 研究報告	
令和元年度の研究の概要	
1. ピアノ音楽教育に関する研究	ピアノコンクールの審査員として、こどものピアノ演奏・表現技術を聴き取り、評価した。
2. ピアノ演奏法に関する研究	久留米において「音楽夏の集い」では、クラシック音楽事情をピアニストとして地域における演奏活動を振り返りとともに、他の分野より地域音楽を見つめた方々とディスカッションできたことは有意義だった。他、「久留米連合文化会創立 70 周年記念演奏会」においても久留米で活躍中の演奏者とのコラボレーションはまたとない音楽会を創出できたように思う。東京においての「アルビレオ音楽展 31」では、東京中心に活躍する作曲家の作品と出会いその演奏には古典的なクラシックにはない現代の奏法を充分に感受できた。それぞれの演奏会の主旨に応じた演奏曲目を選曲し、その作品の意図する内容を充分に表現する演奏手法を研究した。
3. 保育者養成に関する研究	「保育所における音楽表現に関する一考察」をテーマに久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号に投稿し、新しい指針のもと保育所の音楽表現への取り組みを研究することができた。
令和元年度の研究の成果	
1. 「保育所における音楽表現に関する一考察」：久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号（29－37）	
2. 「音楽夏の集い～パネルディスカッションとコンサート」：石橋文化ホール共同ホール	
3. 「アルビレオ音楽展・31」：すみだトリフォニー小ホール	
4. 「カワイ音楽コンクール審査」：石橋文化ホール共同ホール	
5. 「久留米連合文化会創立 70 周年記念演奏会～音楽の贈り物」：石橋文化ホール	
平成 30 年度及び 29 年度の研究の成果	
平成 30 年度 （口頭発表）	
1. 全国大学音楽教育学会第 34 回全国大会仙台大会 「保育所における音楽表現活動について」（共同）	平成 30 年 8 月 24 日
2. 日本音楽教育学会第 49 回岡山大会 「保育士の好きな“子どもの歌”と歌わせたい“子どもの歌”」（共同）	平成 30 年 10 月 7 日
（演奏）	
1. 「田村徹 80 歳記念作曲作品演奏会」 田村徹作曲 「ピアノわらべ歌」（連弾） 「ピアノによる風土記」（独奏）	平成 30 年 11 月 4 日 石橋文化ホール
2. 「第 55 回ひびきの会 50 周年記念演奏会」 隈丸光次作曲 クラリネット、ヴァイオリン、ピアノのための「鳥類譜」ⅠⅡⅢ 田村洋彦作曲 子どものための小曲集「海の情景」 隈丸光次作曲 「殿の倉」「倉下」	平成 31 年 2 月 3 日 石橋文化センター共同ホール
（審査）	
1. Kawai Music Competition カワイこどもピアノコンクール カワイピアノコンクール	平成 30 年 12 月 23 日 平成 30 年 12 月 24 日 石橋文化センター共同ホール

平成 29 年度

(口頭発表)

1. 全国大学音楽教育学会第 33 回岐阜大会

学生のデジタル音への反応 (共同)

平成 29 年 8 月 25 日

ホテルグランヴェール岐山

(演奏)

1. 「久留米連合文化会総会オープニングセレモニー」

ファリャ作曲 スペイン舞曲

平成 29 年 5 月 27 日

ホテルマリターレ創世

2. 「午後のコンサート」

田村 徹作曲 プレリユードとトッカータ

平成 29 年 6 月 3 日

石橋文化会館小ホール

3. 「ファミリーコンサート」 創作音楽劇

～冒険好きのペール、彼が繰り広げる未知の世界へ～ 平成 29 年 11 月 24 日

筑紫野市生涯学習センター

4. 「岡村弘バリトンリサイタル」 ショパン作曲 エチュード

平成 30 年 2 月 3 日

シューマン=リスト編曲 献呈

汐留ベヒシュタイン・サロン

(審査)

1. Kawai Music Competition

カワイこどもピアノコンクール

平成 29 年 12 月 23 日

カワイピアノコンクール

平成 29 年 12 月 24 日

石橋文化センター共同ホール

2. Kawai Music Competition

カワイこどもピアノコンクール

平成 30 年 12 月 21 日

カワイピアノコンクール

平成 30 年 12 月 22 日

石橋文化センター共同ホール

本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)

1. 原浩美久留米市芸術奨励賞 特別賞受賞記念ピアノリサイタル 単独

文化センター共同ホール

平成 5 年 2 月 24 日

2. 『芸術のコミュニケーションテクノロジー 創造理論とその展開』共著 創元社

平成 13 年 9 月

3. 「近・現代日本の「子どもの歌」における特徴的傾向」単著

『国際幼児教育研究 第 14 号』

平成 19 年 3 月

4. 「邦人作品のピアノ曲についての一考察」単著

『九州公私立大学音楽学会音楽研究 創刊号』

平成 23 年 10 月

5. 原浩美ピアノリサイタル～クラヴィーア アーベント vol. 4～ 単独

原浩美ピアノリサイタル実行委員会 えーるピアノ久留米視聴覚ホール

平成 25 年 9 月 7 日

所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
国際幼児教育学会	不参加
九州公私立大学音楽学会	参加
日本保育学会	参加
全国大学音楽教育学会	参加
令和2年度 研究計画	
1. ピアノ音楽教育に関する研究 ピアノコンクールの審査を通して、こどもの演奏・表現技術を習得するための指導方法の研究を継続する。 2. ピアノ演奏法に関する研究 地域に根差した演奏活動を継続する。 3. 保育者養成に関する研究 ①共同研究を継続する。 ②保育指導の中で必要とされるピアノ演奏技術について、特にピアノ経験初心者に習得させるための有効な指導法の研究を継続する。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）		
担当科目の成績評価		
科目名	成績評価の内訳	平均
ピアノⅠ	AA： 4名, A： 3名, B 1名, C 2名, D 0名	3.9
ピアノⅡ	AA： 4名, A： 3名, B 2名, C 1名, D 0名	4.0
ピアノ演奏法	AA： 0名, A： 1名, B 2名, C 1名, D 1名	2.6
音楽保育	AA： 名, A： 名, B 名, C 1名, D 0名	2.0
チャイルドプロジェクト	AA： 2名, A： 2名, B 1名, C 1名, D 0名	3.8
教育実習	AA： 8名, A： 27名, B 23名, C 14名, D 0名	3.4
	AA： 名, A： 名, B 名, C 名, D 名	
各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
ピアノⅠ	幼児教育学科1年	卒業必修・免許選択必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	FD宣言：尊敬と熱意を持って指導し、分かりやすい教示、確実に弾けるようになる方法を個人ごとに考える。授業評価平均4.5を上回る結果を目指す。 個人レッスン室での講義で、視聴覚機器やビデオを使うことが全く無いのが現状である。個人レッスン形態でその使用が教育力向上に繋がるかを非常勤講師とも相談し考えたい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	問11「この授業の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった」問14「先生は熱意を持って授業を行っていた」は4.8、問10「教科書、参考書、配布プリントは、授業を理解するのに役立った」は4.7の評価で安心した。反面、問13「先生は学生の授業態度や私語について、適切に注意していた」は3.7と最低であった。 平均値は、4.4で目標には0.1ポイント届かなかった。次年度も4.5を目標に、授業内容を見直し改善する。非常勤講師と相談は実現していない。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		<u>5</u> ・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		<u>5</u> ・4・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	FD宣言：評価方法、一人あたりのレッスン時間等学生の関心事に対して対応する。 計画：知識の向上としてワークシートを取り入れる。個人の特性を見極めながらコミュニケーション力を磨き、熱意を持って指導する。	

科目名	対象	必修・選択
ピアノⅡ	幼児教育学科1年	卒業必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	FD宣言：尊敬と熱意を持って、分かりやすい指導をし、確実に弾けるよう個人ごとに方法を考える。授業評価平均4.9を上回る結果を目指す。個人レッスン室での講義で、視聴覚機器やビデオを使うことが全く無いのが現状である。個人レッスン形態でその使用が教育力向上に繋がるかを非常勤講師とも相談し考えたい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	問11「この授業の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった」は4.6で一番高い評価であった。学生は評価方法に対して敏感であることが年間を通して伺える。全項目で3.0点代は無かったことが良かった。平均は4.5点でまずまずであったと考える。学生個人の成績がピアノⅠから比較すると上がった者が多数おり良かった。非常勤講師との相談が実現していない。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		<u>5</u> ・4・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	FD宣言：ピアノ演奏法に向けてさらに技術力を習得させる。保育士として音楽表現を身に付けさせる。 計画：個人の望む楽曲を通して技術力をあげる。幼児のうたのピアノ伴奏法を教授する。また、ワークシートを取り入れ知識力を高める。	
科目名	対象	必修・選択
ピアノ演奏法	幼児教育学科2年	卒業選択・資格選択必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	FD宣言：尊敬と熱意を持って指導をし、個人の表現力・創造力を伸ばす。授業評価平均4.8を上回る結果を目指す。子どもと共に音楽を楽しむ気持ち、情緒を育む気持ちをたくさん持ってもらいたいと願う。個人レッスン室での講義で、視聴覚機器やビデオを使うことが全く無いのが現状である。個人レッスン形態でその使用が教育力向上に繋がるかを非常勤講師とも相談し考えたい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	問2以外は全て4.8で、授業評価平均は4.7という結果になった。目標より0.1ポイント及ばなかったが、まずまずと考える。ただし、個人の成績が下がった学生もあり、課題となる。非常勤講師との相談は実現していない。	

授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		⑤・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		⑤・4・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・④・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・③・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言：音楽表現の広がる奏法を身に付けさせる。双方向の授業を心がけ、授業評価 4.8 を目指す。 計画：個人の希望する曲で尚且つ保育の現場で活かせる曲を各自選曲させる。ワークシートを毎回取り入れる。	

科目名	対象	必修・選択
チャイルドプロジェクト	幼児教育学科 1 年・2 年	卒業選択・資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言：尊敬と熱意を持って指導をし、学生の表現力・創造力を伸ばす。授業評価今回平均 4.1 を上回る結果を目指す。 個々の研究を明確にし、そこから出てくる課題を一つ一つ相談しながら自発的に解決していくよう促す。また、複数人で一つの課題を解決するために必要な協調性を養う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	評価の平均は、4.0 で、目標値より 0.1 ポイントの減少となった。 課題を一つ一つ相談しながら自発的に解決していくよう促し、複数人で一つの課題を解決するために必要な協調性を養う力は、学生の行動を見ると上がったと思う。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・④・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・④・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		⑤・4・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		⑤・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・③・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言：個々の研究目的を明確にし、各自の課題に対する達成度を確認するための工夫をする。授業評価 4.0 以上を目指す。 計画：協調性を養うため、共同で演奏する機会を増やす。各自の計画を明確にし達成度を確認するためルーブリック評価の導入を考える。	

科目名	対象	必修・選択
教育実習	幼児教育学科 1 年・2 年	卒業選択・免許必修資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	教育実習は、事前準備を入念に行い、実習中は実習園に訪問し学生が課題を持って実習にどのように携わっているかを面談し、実習後には振り返りを通して自己を改めてみつめ直し考えることが大切と思われる。学生の自己実現への大きなステップとなるよう配慮し、毎年変わる学生の動向を見ながら計画する。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	1 年次に外部実習について説明し、実習園さがしを学生に課している。2 年次は実習に向けてオリエンテーション、指導案、教材研究、実習後の自己評価等、各々が現場経験をとおして保育者としての自覚と保育力を培うカリキュラムになっている。成績評価の平均が 3.4 という結果であった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・(3)・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・(3)・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・(3)・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・(3)・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・(3)・2・1
厳格な授業評価を実施した		(5)・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言：幼稚園教諭 2 種免許の取得に向けた指導を的確に行う。 計画：各実習園の状況に応じて実習計画が立てられ各自で実習担当者と打ち合わせをし、自覚をもち実習に臨む態度を養わせるための工夫をする。	
科目名	対象	必修・選択
音楽保育	2 年	卒業選択・資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	対話を重ね、学生の研究課題をサポートし解決できるように、自身の研究を怠らない。学生の興味関心大切にし、成長できるよう手助けをする。授業評価 5.0 を次年度も保持できることを目指す。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	学生 1 人の受講であった。学生自身の目的目標が揺れる時期が長く、学生の興味関心を引き出すことが出来なかった。授業評価は諸般の都合で出来なかった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・(2)・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・(3)・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・(3)・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・(3)・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・(3)・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・4・(3)・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言：授業評価の平均は 4.0 以上を目指す。計画：研究課題の明確化を 1 回目の授業で実に果たす。そのために丁寧な聞き取りを入念に行う。	

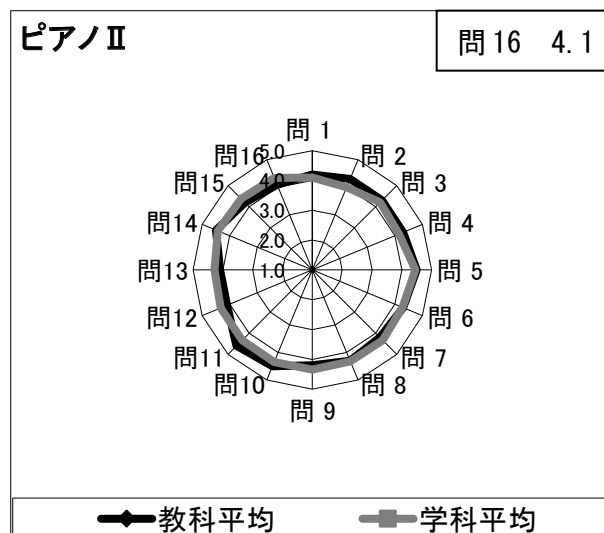
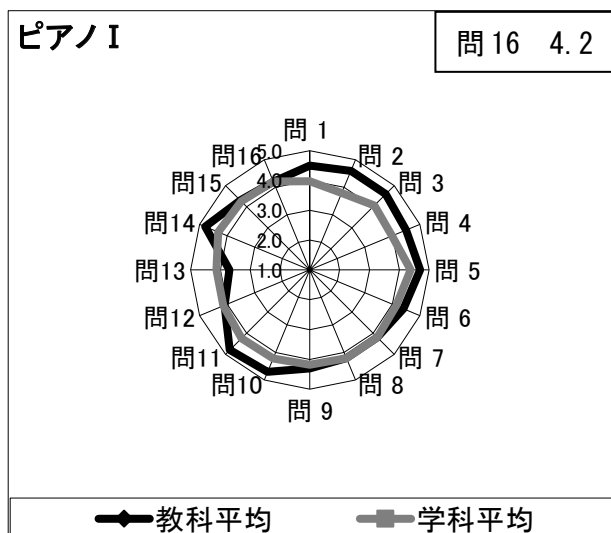
令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
令和元年度 久留米市内単位互換協定校による「共同講義」	令和元年10月8日	高等教育コンソーシアム久留米	くるめりあ六ツ門6F みんなの会議室
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
久留米市文化芸術振興審議会委員	令和元年4月～令和2年3月	久留米市	
久留米音楽協会 NPO 理事	令和元年～令和2年3月	特定非営利活動久留米音楽協会	
カワイこどもコンクール審査・講評	令和元年12月	カワイ音楽コンクール委員会	
久留米連合文化会理事	令和元年4月～令和2年3月	久留米連合文化会	
高等教育コンソーシアム広報交流部会部員	令和元年4月～令和2年3月	高等教育コンソーシアム久留米	
久留米市都市計画審議会委員	令和元年4月～令和2年3月	久留米市	
久留米市都市計画マスタープラン等策定委員	令和元年4月～令和2年3月	久留米市	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
令和2年度 社会的活動計画			
1. 他団体への協力 ①久留米市芸術奨励賞選考委員 ②久留米音楽協会 NPO 理事 ③カワイこども・音楽コンクール審査 ④久留米連合文化会理事 ⑤高等教育コンソーシアム広報交流部会員 ⑥久留米市都市計画審議会委員 ⑦久留米市拠点形成・土地利用推進委員会委員 ⑧九州公私立大学音楽学会理事			

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

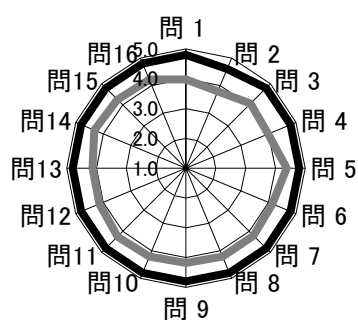
- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない



ピアノ演奏法

問 16 4.8

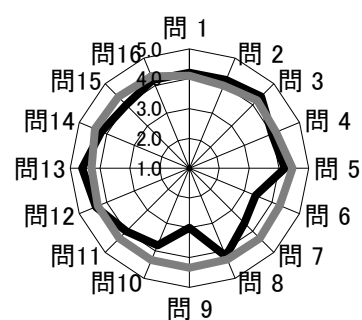


教科平均

学科平均

チャイルドプロジェクト

問 16 4.2



教科平均

学科平均

	問 17 あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
ピアノ I (幼 1)	0	3	3	2	2
ピアノ II (幼 1)	0	3	4	1	2
ピアノ演奏法 (幼 2)	0	0	0	0	4
チャイルドプロジェクト (幼 2)	3	0	2	0	0

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
ピアノ I (幼 1)	7	6	4	7	2	0
ピアノ II (幼 1)	8	7	4	6	2	0
ピアノ演奏法 (幼 2)	2	3	2	3	2	0
チャイルドプロジェクト (幼 2)	1	0	0	0	1	3

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	山村 涼子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
調理学	フードデザイン学科 1 年	卒業・栄養士必修
基礎調理学実習Ⅰ	フードデザイン学科 1 年	卒業・栄養士必修
基礎調理学実習Ⅱ	フードデザイン学科 1 年	卒業・栄養士必修
栄養士基礎演習（7回）	フードデザイン学科 1 年	卒業必修
製菓・製パン演習	フードデザイン学科 1 年	卒業選択
キャリアガイダンスⅠ	フードデザイン学科 1 年	卒業選択
応用調理学実習Ⅰ	フードデザイン学科 2 年	栄養士必修
応用調理学実習Ⅱ	フードデザイン学科 2 年	栄養士必修
給食実務論	フードデザイン学科 2 年	卒業・栄養士必修
校外給食管理実習Ⅰ	フードデザイン学科 2 年	栄養士必修
フードプロジェクトⅢ	フードデザイン学科 2 年	卒業必修
フードプロジェクトⅣ	フードデザイン学科 2 年	卒業必修
栄養士総合演習Ⅱ（2回）	フードデザイン学科 2 年	卒業選択
キャリアガイダンスⅡ	フードデザイン学科 2 年	卒業選択
研究分野		
1. 調理学の分野 学生に対して、食品素材の知識や取り扱い方、調理機能を生かした基本的な調理操作などを習得させるにあたり、師範や指導方法、また指標となるための資料作成などの研究を行っている。		
2. 食教育の分野 管理栄養士という立場から、健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行っている。		
3. 栄養士養成の分野 栄養士養成に関する研究。栄養士養成という立場から、カリキュラム論・方法論について研究を行っている。		
4. キャリア教育の分野 学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系の科目について、より効果的な授業内容や方法等を研究している。		

令和元年度 研究報告	
令和元年度の研究の概要	
1. 調理学に関する研究	・調理学関連科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行った。
2. 食教育に関する研究	・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、患者への食生活指導を行った。 ・健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行った。
3. 栄養士養成に関する研究	・「入学から卒業までのガイドブック十訂版」作成に向け、見直し等を学科の教員間で行い、内容・構成を検討した。 ・フードプロジェクト関連の科目について、学科の教員間でアクティブ・ラーニングを導入した授業内容や方法等の検討を重ねた。
4. キャリア教育に関する研究	・学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行った。
令和元年度の研究の成果	
(研究ノート)	
1. 「「学習成果の可視化」に向けての調査研究」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学紀要第 42 号』(39～47)
2. 「「学生の成長」の可視化のころみ(2)～ループリックの評価項目の再考について～」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学紀要第 42 号』(49～55)
(報告)	
1. 「聴覚障がい者を対象とした料理教室の取り組みー地域貢献活動に参画してー」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学紀要第 42 号』(69～73)
2. 「くるめ信愛菓ー地元菓子店学生の協働による新商品の企画・開発ー」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学紀要第 42 号』(75～78)
3. 「フードプロジェクト活動の報告ー調理学の観点からー」共著	令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学紀要第 42 号』(79～84)
(その他)	
1. 「入学から卒業までのガイドブック十訂版」発行	共著 平成 31 年 4 月 フードデザイン学科
2. 「キャリア形成支援BOOK 2019」発行	共著 平成 31 年 4 月 キャリア形成支援推進室
平成 30 年度及び 29 年度の研究の成果	
(論文)	
1. 「栄養士養成研究(6) 6 年間の学習支援取り組みの総括」共著	平成 30 年 9 月 『久留米信愛短期大学紀要第 41 号』(19～26)
2. 「栄養士養成研究(5) 生活実態が学習支援効果に及ぼす影響ー2」共著	平成 29 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第 40 号』(25～34)
(発表)	
1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」共同	平成 29 年 9 月 17 日 第 43 回福岡県栄養改善学会 ナースプラザ福岡
(研究ノート)	
1. 「調理学関連科目の習熟度について 第 2 報」共著	平成 30 年 9 月 『久留米信愛短期大学紀要第 41 号』(27～33)
2. 「「学生の成長」可視化のころみ(1)ーフードプロジェクト活動を通してー」共著	平成 30 年 9 月 『久留米信愛短期大学紀要第 41 号』(35～42)

3. 「調理学関連科目の習熟度について 第1報」共著 平成29年7月 『久留米信愛女学院短期大学紀要第40号』(95～101) (その他) 1. 「入学から卒業までのガイドブック九訂版」発行 共著 平成30年4月 フードデザイン学科 2. 「キャリア形成支援BOOK 2018」発行 共著 平成30年4月 キャリア形成支援推進室 3. 「入学から卒業までのガイドブック八訂版」発行 共著 平成29年4月 フードデザイン学科 4. 「キャリア形成支援BOOK 2017」発行 共著 平成29年4月 キャリア形成支援推進室	
本教員の主たる研究の成果（5編以内） (論文) ・「小児肥満における腹部CTの有用性」共著 『筑後小児科医会会報第12号別冊』 平成10年10月 ・「保護者の肥満認識と児の生活背景」共著 『小児保健研究第58巻第2号』 平成11年3月 ・「子どもの肥満」共著 『久留米医学会雑誌 第73巻 第5・6号 別冊』 平成22年6月 (発表) ・「小児生活習慣病外来における肥満改善は可能か」共同 第55回日本小児保健学会 於：札幌 平成20年9月	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会 日本栄養士会 日本小児保健協会 日本調理科学会	大会等不参加 福岡県栄養改善学会参加 大会等不参加 2019年度大会参加
令和2年度 研究計画	
1. 調理学に関する研究 ・調理学関連科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行う。 2. 食教育に関する研究 ・久留米大学医療センター小児科小児生活習慣病外来にて、患者への食生活指導を継続して行う。 ・健康的な食生活、生活習慣病予防などを観点に、食教育についての研究を行う。 3. 栄養士養成に関する研究 ・「入学から卒業までのガイドブック」の見直し、および学生への学習支援についての検討を学科の教員間で行う。 ・フードプロジェクト関連の科目について、学科の教員間でアクティブ・ラーニングを導入した授業内容や方法等の研究を行う。 4. キャリア教育に関する研究 ・学生のキャリア形成、就業力育成に向け、キャリア教育系科目について、より効果的な授業内容や方法等の研究を行う。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）		
担当科目の成績評価		
科目名	成績評価の内訳	平均
調理学	AA： 0名，A： 8名，B 4名，C 12名，D 0名	2.8
基礎調理学実習Ⅰ	AA： 0名，A： 10名，B 6名，C 8名，D 0名	3.1
基礎調理学実習Ⅱ	AA： 0名，A： 6名，B 9名，C 5名，D 4名	2.7
栄養士基礎演習	AA： 2名，A： 10名，B 6名，C 7名，D 0名	4.1
製菓・製パン演習	AA： 2名，A： 14名，B 1名，C 3名，D 0名	3.8
キャリアガイダンスⅠ	AA： 5名，A： 9名，B 4名，C 6名，D 1名	3.4
応用調理学実習Ⅰ	AA： 3名，A： 7名，B 4名，C 5名，D 0名	3.4
応用調理学実習Ⅱ	AA： 0名，A： 8名，B 5名，C 6名，D 0名	3.1
給食実務論	AA： 2名，A： 11名，B 1名，C 5名，D 0名	3.5
フードプロジェクトⅢ	AA： 4名，A： 7名，B 7名，C 1名，D 0名	3.7
フードプロジェクトⅣ	AA： 3名，A： 9名，B 3名，C 3名，D 0名	3.7
栄養士総合演習Ⅱ	AA： 0名，A： 7名，B 7名，C 1名，D 0名	3.4
キャリアガイダンスⅡ	AA： 0名，A： 3名，B 2名，C 3名，D 3名	2.5
各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
調理学	フードデザイン学科1年	卒業・栄養士必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業中に学生が質問したり意見を述べられるよう配慮したり、私語や授業態度について適切に注意ができるよう心がけたい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	授業評価の間2（質問、自主学習）、間3（理解度）の前年度との比較は、間2は4.0→3.5（-0.5）、間3は4.4→3.8（-0.6）と低かった。「小テストは多いが大切な内容ばかりなので丁度良い」という意見もあったので、さらに学習意欲の向上に向けた取り組みを続けたい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	学生の学習意欲・理解度の向上とともに、双方向の授業内容を検討する。授業の予習・復習になるような課題を設定し、自主学習の機会を与える。授業中に学生が質問や意見を述べられるよう、コミュニケーションを取りやすいような雰囲気作りに配慮する。	

科目名	対象	必修・選択
基礎調理学実習Ⅰ	フードデザイン学科1年	卒業・栄養士必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	学生の自主的な学びや技術の向上につながるような実習内容を検討したい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	一週間あたりの学習時間で30分以上の割合は前年度が70%弱に対し40%弱と低かった。授業時間以外の学習を行っていないと回答したのも4人おり、自主的な学びは難しかったと考える。毎回レポート提出も課してはいるが、実習内容や課題についての検討が必要である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	自宅での復習等を促すような授業を行いたいが、復習自体が難しいのであれば、授業の中でしっかり取り組めるような実習内容にしたり、時間外にもレポート作成や調理の練習に取り組めるよう工夫したい。	
科目名	対象	必修・選択
基礎調理学実習Ⅱ	フードデザイン学科1年	卒業・栄養士必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業時間内に実習が終わるような内容の検討、適切な指導を心がける。また学生同士が、コミュニケーションを取りながら協力して実習に取り組むことができるような環境作りにも配慮したい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	一週間あたりの学習時間で30分以上の割合は前年度が約70%に対し30%にも満たなかった。また0分が7人もおり、実習に参加しただけで終わっており、問2（質問、自主学習）3.9、問3（実力）4.0と低かった。学習意欲や技術の向上に向けた取り組みが必要と考える。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	実習班の中で、学生一人ひとりが自覚と責任感を持って実習に取り組み、コミュニケーションを取りながら効率よく実習できるよう、また意欲を持って実習に臨み、技術が向上するような指導を心がけたい。	

科目名	対象	必修・選択
栄養士基礎演習	フードデザイン学科1年	卒業必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	担当教員とも連携を取りながら、学生の学習意欲、理解度の向上に向けて授業改善に努めたい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	授業評価の問2（質問、自主学習）、問3（理解度）、問16（総合評価）の前年度との比較は大差なかったが、授業時間以外の学習を行っていないと回答したのが8人おり、自主的な学びは難しかったと考える。学習意欲を引き出すような工夫が必要であると考え。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	栄養士養成課程の初年次教育科目でもあるので、担当教員間で連携を取りながら、学生の学習意欲、理解度の向上に向けて、授業改善に努めたい。	
科目名	対象	必修・選択
製菓・製パン演習	フードデザイン学科1年	卒業選択
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	開講当初の目的であったお楽しみの要素も残しつつ、技術の向上やさらなるステップアップにつながるよう、授業内容を検討したい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	授業評価は前年度とほとんど変わらなかったが、問5（授業の開始・終了時間）が4.3→3.7（-0.6）と低かった。製パンの際、学生の希望内容を実施したが、予想以上に時間がかかったので、次回からは時間配分等の見直しが必要と考える。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	選択科目なので通常の授業とは違って、実習内容や班構成など学生の意見等も反映しつつ、専門的な知識や技術の習得につながるよう、授業内容を検討する。	

科目名	対象	必修・選択
キャリアガイダンスⅠ	フードデザイン学科1年	卒業選択
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業評価の問1（居眠り・私語・メール）、問2（質問、自主学習）、問3（理解度）、問4（さらに進んだ勉強）の評価が向上するよう、授業内容や方法の見直しを図る。学習意欲を引き出せるような工夫を検討したい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	授業評価の問1、2、3、4の前年度との比較は、問1は3.8→4.2(+0.4)、問2は3.6→3.6(±0)、問3は3.8→3.9(+0.1)、問4は3.9→4.0(+0.1)であり、総合評価は4.2→4.0(−0.2)であった。受講姿勢は少し改善がみられたと思う。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業評価の問10（教材・資料）について、理解度が向上するような教材や資料の選択や活用方法に留意する。また問11（成績評価方法の説明）については、通年の授業なので後期開始時にも改めてオリエンテーションを行うなど改善したいと考える。	
科目名	対象	必修・選択
応用調理学実習Ⅰ	フードデザイン学科2年	栄養士必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業時間内に実習が終わるような内容の検討、適切な指導を心がける。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	授業評価の問5（授業の開始・終了時間）の前年度との比較は3.9→4.4(+0.5)と上がり、前年度の計画がうまく実行できたと考える。その他の授業評価も前年度より高かったので、引き続き実習内容の検討や適切な指導を心がけたい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業評価の問2（質問、自主学習）、問3（理解度）、問4（さらに進んだ勉強）のさらなる向上、また栄養士としての実践的な知識と技術が身につくよう効果的な授業内容や方法等を検討する。	

科目名	対象	必修・選択
応用調理学実習Ⅱ	フードデザイン学科2年	栄養士必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業評価の間2、3、4のさらなる向上、また栄養士としての実践的な知識と技術が身につくよう効果的な授業内容や方法等を検討する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	授業評価の間2、3、4の前年度との比較は、問2は4.4→4.4(±0)、問3は4.6→4.3(−0.3)、問4は4.6→4.4(−0.2)で、総合評価も4.4→3.9(−0.5)と低かった。調理技術がもっと向上するような授業内容をとの意見もあったので、今後の課題としたい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業評価の間3(実力がついた)、12(質問・意見への配慮)、13(適切な注意)が向上するような授業内容や方法等を検討する。栄養士としての実践的な知識と技術が身につくよう効果的な指導を実践する。	
科目名	対象	必修・選択
給食実務論	フードデザイン学科2年	卒業・栄養士必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	栄養士免許必修科目である「校外給食管理実習Ⅰ」の事前・事後指導の科目であるので、学生が目的意識を持って授業に臨むことができるよう、学習意欲を引き出し、理解度の向上につながるような授業内容を検討し、授業評価の間1、2、3、4の評価を向上させる。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	授業評価の間1(居眠り・私語・メール)、問2(質問、自主学習)、問3(理解度)、問4(さらに進んだ勉強)の前年度との比較は、問1は3.9→4.5(+0.6)、問2は3.9→4.3(+0.4)、問3は3.9→4.4(+0.5)、問4は3.7→4.2(+0.5)と高くなったので、改善できたと考える。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	栄養士免許取得のための学外実習に目的意識を持って臨めるよう、授業内で事前・事後の取り組みをしっかりと行えるよう指導する。授業評価の間4(さらに進んだ勉強)、問13(適切な注意)が向上するような授業内容や方法等を検討する。	

科目名	対象	必修・選択
フードプロジェクトⅢ	フードデザイン学科2年	卒業必須
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	次年度から学期ごとの科目になるため、今回の結果を参考に、授業のテーマや目的等をきちんと説明し、学生の意見も聞きながら主体的に取り組むことができるような授業内容を検討し、改善に取り組む。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	新規開講科目で初めて取り組む内容だったので、教員側も試行錯誤な部分もあり、十分な成果を上げられなかったと思う。授業評価でも問6（目標説明）、問7（テーマ・目的）が3.1、総合評価も3.4と低かった。今後の課題として教科担当者間で検討したい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	科目の目標や授業のテーマ、目的等について、学生の理解が得られるようきちんと説明する。学生の意見も聞きながら主体的に取り組むことができるような内容を検討し、計画的に実践できるようにする。	
科目名	対象	必修・選択
フードプロジェクトⅣ	フードデザイン学科2年	卒業必須
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	次年度からは学期ごとのフードプロジェクト活動に踏襲されるため、今回の結果を参考にしながら、学生が主体的に取り組むことができるような授業内容を検討し、取り組みたい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	「フードプロジェクトⅢ」と同様、新規開講科目で外部との協働的な内容も多く、計画通りに進めることが難しかった。授業評価の問5（授業の開始・終了時間）は2.7、問7（テーマ・目的）は3.1、総合評価も3.3と低かったため、今後の課題として教科担当者間で検討したい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	科目の目標や授業のテーマ、目的等について、学生の理解が得られるようきちんと説明する。学生が主体的に取り組むことができるような内容や指導方法を検討し、計画的に実践できるようにする。	

科目名	対象	必修・選択
栄養士総合演習Ⅱ（2回）	フードデザイン学科2年	卒業選択
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	担当教員とも連携を取りながら、学生の学習意欲、理解度の向上に向けて授業改善に努めたい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	一週間当たりの学習時間は、30分以上学習した人が2人（14人中）→10人（14人中）、90分以上は1人（14人中）→5人（14人中）、授業時間以外に学習していない人は6人→2人と、の前年度と比較して良い傾向だった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・ <u>1</u>
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	栄養士必修科目の総まとめという意図を学生に理解させ、学習意欲、理解度を向上させるような授業内容・方法を工夫し、授業改善に努めたい。	
科目名	対象	必修・選択
キャリアガイダンスⅡ	フードデザイン学科2年	卒業選択
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業評価の間1、2、3、4の項目の評価が向上するよう、授業内容や方法の見直しを図る。学習意欲を引き出せるような工夫を検討したい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	授業評価の間1（居眠り・私語・メール）、間2（質問、自主学習）、間3（理解度）、間4（さらに進んだ勉強）の前年度との比較は、間1は3.9→3.9（±0）、間2は3.7→4.1（+0.4）、間3は3.8→4.2（+0.4）、間4は3.8→4.0（+0.2）、総合評価は3.9→4.2（+0.3）であり、やや改善できたと考える。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	授業評価の間1（居眠り・私語・メール）、間4（さらに進んだ勉強）間12（質問・意見への配慮）の項目の評価が向上するよう、授業内容や方法の見直しを図る。	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
食物アレルギーの基礎知識 乳幼児の食事について 「授乳・離乳の支援ガイド」における 食物アレルギーの予防について 若い世代の食育～めざせ！栄養バラン スの取れた豊かな食生活～ 食物アレルギー対応の調理実習 食物アレルギーについての意見交換会	令和元年7月9日 令和元年8月22日 令和元年9月10日 令和元年10月4日 令和元年11月21日 令和2年2月21日	柳川市保育協会 筑後地方保育協会 柳川市保育協会 高等教育コンソー シウム久留米 柳川市保育協会 柳川市保育協会	柳川市「水の郷」 久留米アリーナ 柳川市「水の郷」 くるめりあ 柳川市「水の郷」 柳川市「水の郷」
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
小児生活習慣病外来にて栄養指導（週1回） JAくるめ広報誌「With You」 レシピ掲載 西日本新聞くるメディア レシピ掲載 久留米市食育推進委員会 地産地消部会 久留米市中央卸売市場 青果取引委員会 高等教育コンソーシウム久留米小中高連携部会	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	久留米大学医療センター 小児科 JAくるめ 西日本新聞社 久留米市 久留米市 高等教育コンソーシウム 久留米	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
「健康教育実習」	令和元年5月～6月（前期6回）	久留米大学	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
なし			
令和2年度 社会的活動計画			
○講演等 ・柳川市保育協会からの依頼によるもの（4回） ○他団体等への協力 ・久留米大学医療センター小児科 小児生活習慣病外来・栄養指導（毎週金曜日午後） ・久留米市食育推進委員会 地産地消部会員（令和2年4月1日～令和3年3月31日） ・久留米市中央卸売市場取引委員会 青果取引委員会委員（令和2年4月1日～令和2年11月30日） ・高等教育コンソーシウム久留米 小中高連携部会委員（令和2年4月1日～令和3年3月31日） ・JAくるめ広報誌「With You」（令和2年4月号～令和3年3月号） ・西日本新聞くるメディア（令和2年4月～令和3年3月） ○他大学への非常勤 ・久留米大学「健康教育実習」（6回）			

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

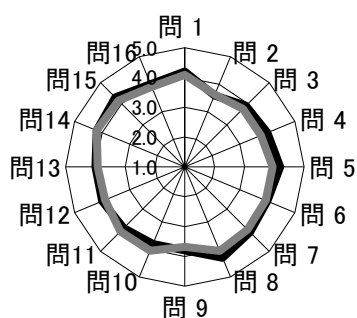
<質問項目>

- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない

キャリアガイダンス I

問 16 4.0

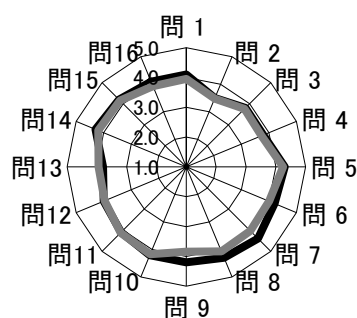


◆教科平均

■学科平均

調理学

問 16 4.1

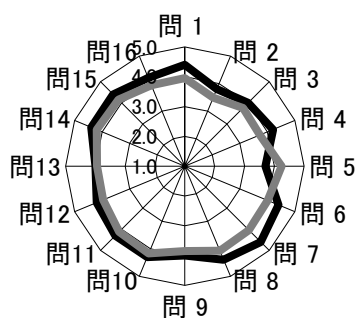


◆教科平均

■学科平均

基礎調理学実習 I

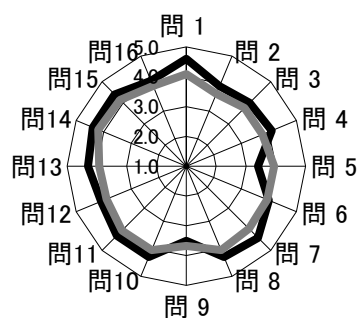
問 16 4.2



教科平均 学科平均

基礎調理学実習 II

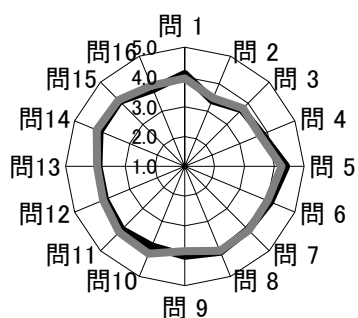
問 16 4.1



教科平均 学科平均

栄養士基礎演習

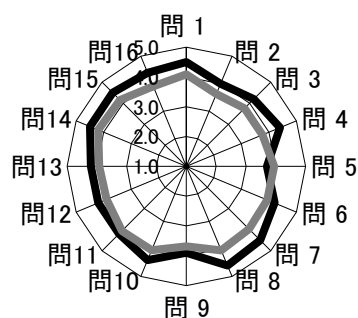
問 16 3.8



教科平均 学科平均

製菓・製パン演習

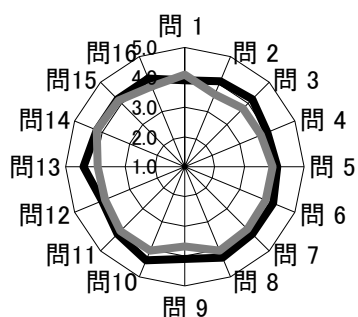
問 16 4.4



教科平均 学科平均

キャリアガイダンス II

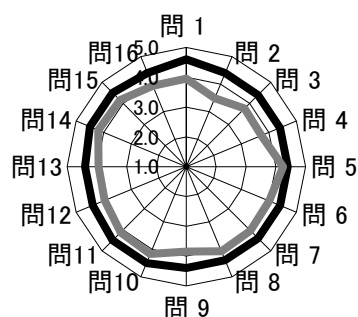
問 16 4.2



教科平均 学科平均

応用調理学実習 I

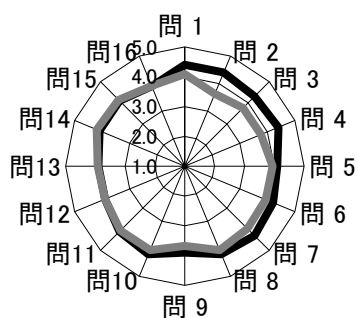
問 16 4.4



教科平均 学科平均

応用調理学実習Ⅱ

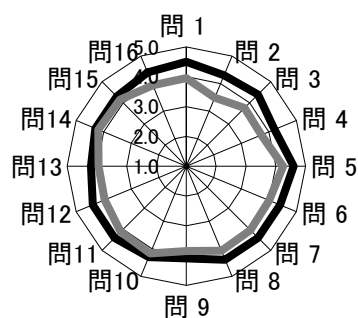
問 16 3.9



教科平均 学科平均

給食実務論

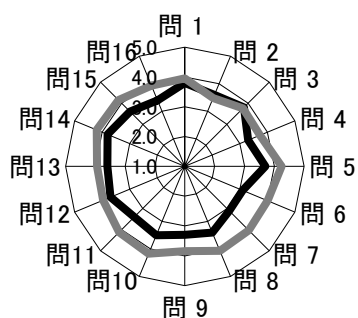
問 16 4.4



教科平均 学科平均

フードプロジェクトⅢ

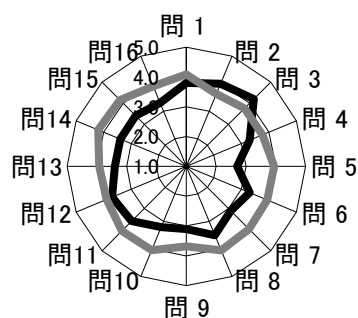
問 16 3.4



教科平均 学科平均

フードプロジェクトⅣ

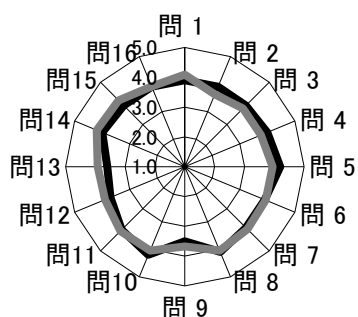
問 16 3.3



教科平均 学科平均

栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ

問 16 3.9



教科平均 学科平均

	問 17 あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
キャリアガイダンスⅠ（フ１）	7	10	4	0	0
調理学（フ１）	4	10	5	3	0
基礎調理学実習Ⅰ（フ１）	6	9	2	6	1
基礎調理学実習Ⅱ（フ１）	7	9	5	1	0
栄養士基礎演習（フ１）	8	9	5	0	0
製菓・製パン演習（フ１）	8	8	2	0	0
キャリアガイダンスⅡ（フ２）	10	1	0	0	0
応用調理学実習Ⅰ（フ２）	1	5	5	5	2
応用調理学実習Ⅱ（フ２）	1	4	6	2	3
給食実務論（フ２）	9	1	3	3	2
フードプロジェクトⅢ（フ２）	10	2	2	0	0
フードプロジェクトⅣ（フ２）	10	0	2	0	3
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（フ２）	1	3	4	1	5

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
キャリアガイダンスⅠ（フ１）	0	1	13	1	0	4
調理学（フ１）	1	6	2	12	4	3
基礎調理学実習Ⅰ（フ１）	2	4	15	9	4	4
基礎調理学実習Ⅱ（フ１）	4	2	13	9	1	2
栄養士基礎演習（フ１）	0	6	7	1	3	8
製菓・製パン演習（フ１）	1	3	7	0	1	6
キャリアガイダンスⅡ（フ２）	0	1	0	0	0	9
応用調理学実習Ⅰ（フ２）	0	4	11	2	0	1
応用調理学実習Ⅱ（フ２）	0	4	11	4	0	1
給食実務論（フ２）	0	0	10	1	3	4
フードプロジェクトⅢ（フ２）	0	0	4	0	0	7
フードプロジェクトⅣ（フ２）	1	0	2	0	1	9
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（フ２）	2	4	3	7	2	2

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	石井 妙子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
臨床栄養学概論	フードデザイン学科 2 年	卒業選択・免許必修
臨床栄養学実習	フードデザイン学科 2 年	卒業選択・免許必修
給食計画論	フードデザイン学科 1 年	卒業必修・免許必修
給食管理実習Ⅰ	フードデザイン学科 1 年	卒業選択・免許必修
給食管理実習Ⅱ	フードデザイン学科 2 年	卒業選択・免許必修
栄養士基礎演習	フードデザイン学科 1 年	卒業必修
栄養士総合演習Ⅱ	フードデザイン学科 2 年	卒業選択
校外給食管理実習Ⅱ	フードデザイン学科 2 年	卒業選択
研究分野		
1. 糖尿病の分野 糖尿病療養支援のために糖尿病療養指導士会（CDEJ ならびに LCDE）の組織運営を通じてその方法や対策について研究。対象者を自らの意思で行動変容に導くための方法や医療従事者相互の連携について研究している。 2. 高齢者栄養の分野 高齢者の低栄養や重症化予防対策のための多職種連携や摂食・嚥下についての研究。とくに在宅高齢者支援について研究し、一般社団法人日本在宅栄養管理学会に属して理事として活動、在宅訪問栄養食事指導を月 1 回行っている。 3. 栄養士養成の分野 栄養士の養成に関する研究。栄養士養成に関する方法論について、栄養士養成に携わっている立場から研究を行っている。 4. 栄養士会活動 （公社）福岡県栄養士会理事としての活動を通じて、地域包括ケアシステムのなかで栄養士が組織の一員として位置付けられるべく、活動している。		

令和元年度 研究報告
令和元年度の研究の概要
1. 糖尿病の分野 「福岡糖尿病療養指導士会（LCDE）」の中央認定委員・試験官・広報委員・会計監査、“ふくおか市民糖尿病教室”の実行委員などの活動を通じ、糖尿病予防啓発活動と療養支援を推進した。 2. 高齢者栄養の分野 糸島市の地域ケア会議と訪問C事業の報告書確認とステップアップ研修会（5回実施）を企画・運営した。在宅訪問歯科診療に同行し栄養食事指導を実施。「日本在宅栄養管理学会」の理事ならびに九州・沖縄ブロック福岡支部長。年次学術集会の実行委員長として活動。 3. 栄養士会活動 福岡県栄養士会理事として、運営については理事会、総会、栄養士大会並びに栄養改善学会など。福岡支部として企画運営会議（2か月に1回）を開催。昨年に引き続き、糸島市事業の発展と充実ならびに多職種連携に勤めた。 4. 栄養士養成の分野 栄養士界についての情報とその魅力について学生に伝え、就職支援や援助を積極的に実施。
令和元年度の研究の成果
（研究ノート） 1. 「学修成果の可視化」に向けての調査研究 共著 令和元年9月 『久留米信愛短期大学研究紀要第42号』（30～47） （報告） 1. 視覚障がい者を対象とした料理教室の取り組み・地域貢献活動に参画して・ 共著 令和元年9月
平成30年度及び29年度の研究の成果
（論文） 1. 「栄養士養成研究（5）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響」共著 平成29年7月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第40号』（25～34） 2. 「栄養士養成研究（6）「6年間の学習支援取り組みの総括」共著 平成30年9月 『久留米信愛短期大学研究紀要第41号』（19～26） 3. 食塩摂取量「見える化」研究…2年間実施した調査結果を解析して、高血圧学会、日本栄養改善学会で発表し、「Self-monitoring of urinary salt excretion as a method of salt-reduction education:a parallel、randomized trial involving two groups」のタイトルで英文投稿 共著 平成29年12月『Public Health Nutrition』PHN-RES-2017-1035.R2 （研究ノート） 1. 「調理学関連科目の習熟度について 第1報」共著 平成29年3月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要第40号』（95～101） 2. 「調理学関連科目の習熟度について 第2報」共著 平成30年3月 『久留米信愛短期大学研究紀要第41号』（27～34） 3. 「学生の成長」可視化のころみ（1）ーフードプロジェクト活動を通してー共著 平成30年9月 『久留米信愛短期大学研究紀要第41号』（35～42）
本教員の主たる研究の成果（5編以内）
1. 「K-2Sに変更後、難治性下痢が改善した重症肺炎」共著平成23年3月日本病態栄養学会雑誌

所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本病態栄養学会 日本在宅栄養管理学会 日本栄養士会 日本糖尿病学会・九州地方会 日本糖尿病学会・糖尿病学の進歩 福岡摂食嚥下カンファレンス 沖縄リハビリテーション栄養研究会 在宅ネットワーク福岡中央	学術集会参加。学術評議員。 学術集会参加。九州・沖縄ブロック研修会 2 回参加。理事。 総会参加。(公社)福岡県栄養士会理事 不参加。 (COVID-19 の感染拡大により中止) 年 2 回講演会に参加。世話人 参加。 講演会参加。世話人
令和 2 年度 研究計画	
(その他) 1. 高齢者栄養の分野 「日本在宅栄養管理学会」理事として、年次学術集会実行委員長としての活動の継続。在宅高齢者に対する地域ケアの一員としての位置づけが定着できるように努力したい。 2. 糖尿病の分野 糖尿病療養指導士活動の継続。糖尿病予防啓蒙活動と多職種連携、講演会企画に注力したい。永年リーダーとして活躍していた「ふくおか市民糖尿病教室」については世代交代を視野に考えている。 3. 栄養士養成に関する研究 「入学から卒業までのガイドブック」の見直し、および学生への学習支援についての検討を学科の教職員間で行う。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）

担当科目の成績評価

科目名	成績評価の内訳	平均
臨床栄養学概論	AA： 2名, A： 11名, B 3名, C 3名, D 0名	3.6
臨床栄養学実習	AA： 1名, A： 7名, B 8名, C 3名, D 0名	3.3
給食計画論	AA： 3名, A： 5名, B 8名, C 9名, D 0名	3.1
給食管理実習Ⅰ	AA： 4名, A： 8名, B 5名, C 8名, D 0名	3.3
給食管理実習Ⅱ	AA： 2名, A： 8名, B 4名, C 5名, D 0名	3.4
栄養士基礎演習	AA： 2名, A： 10名, B 6名, C 7名, D 0名	3.3
栄養士総合演習	AA： 0名, A： 7名, B 7名, C 1名, D 0名	3.4
校外給食管理実習	AA： 0名, A： 7名, B 0名, C 0名, D 0名	4.0
	AA： 2名, A： 11名, B 3名, C 3名, D 0名	

各授業の評価

科目名	対象	必修・選択
臨床栄養学概論	フードデザイン学科2年	卒業選択・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	引き続き「わかりやすい」授業を目標に、授業の組み立てやレジュメの工夫をする。学生の自主的な学習意欲を高めるために、課題を課して積極的な取り組みをさせる。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	総合評価4.4で、項目全て4点以上と昨年より上がった。「わかりやすい授業」を目標に、急性期の病院勤務で経験した病態の例を示したり、学生が興味を持つようなエピソードを挙げたりするように、工夫した効果があったのではないかなと思う。昨年同様、授業の最初に前回の振り返りを行うことで、要点を確認し把握しやすくした。また、クイズ形式の質問で学生との双方向の授業を展開したが、限られた学生しか答えないという傾向があったので、順に当てていくようにした。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・④・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・④・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・④・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・④・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	「わかりやすい授業」と学生の興味を引く内容を目標にする。事前に疾病別の課題を出して、病態の概要を予習して授業に臨み、具体的な症例検討を通じて、理解を深めるような授業にする。従来通りのクイズ形式の質問による双方向の授業展開や病院栄養士としての経験を通じて得た情報ならびに学会等での新しい知見について伝えていく。	

科目名	対象	必修・選択
臨床栄養学実習	フードデザイン学科2年	卒業選択・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	学生が興味を示すような授業の媒体や展開を工夫する。学生の授業評価の全ての項目4.0以上を目指す。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	全ての項目が4点以上で、総合的評価は4.5だった。実習の授業であり、グループで実習する関係で学生個々人に対する評価や理解度の確認が難しい。「臨床栄養学概論」で学んだ内容との関連で、病態と治療食について根拠に基づいて正しく理解することが出来たかどうかをレポート等で確認する。実習を通じて治療食を作る時、食べる側に寄り添って美味しく食べて貰う工夫をする等の心構えを伝えるようにしたい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・④・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・④・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・③・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・④・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	臨床栄養学の見地から基礎的な内容の把握について確認するとともに、実習を通して応用のスキルをつける指導をする。座学としての臨床栄養学概論と実践としての臨床栄養学実習をリンクさせて理解したかどうかの確認をしていく。	
科目名	対象	必修・選択
給食計画論	フードデザイン学科1年	卒業必修・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	学生が興味を示すような授業の媒体や展開を工夫する。学生の授業評価の全ての項目4.0以上を目指す。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	総合的な評価は4.0で昨年の4.3より下がった。特に(問2)質問や自発的学習が2.8と低く、授業のやり方を根本的に見直す必要を感じた。また(問3)理解、(問4)学習意欲(問9)板書などの効果的利用、の項目が4.0に達していなかった。栄養士にとって実務に直結した内容の科目であるだけに、興味を持たせたいと思う。授業の工夫、とくにレジュメや板書や双方向の授業の仕掛けを考えたいと思う。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・③・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・④・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・④・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・③・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・④・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1

次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	学生が将来活躍したいと考えているフィールドの実際について課題を出して、授業では学生発表を軸に質問や補足をする形式の展開をしつつ、理解を深めていく仕掛けをしたいと考える。媒体としてもレジュメを丁寧に作成していたが、パワーポイントや板書の活用を工夫したいと思う。
-----------------------------	---

科目名	対象	必修・選択
給食管理実習 I	フードデザイン学科 1 年	卒業選択・免許必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	実習の授業なので板書する機会は少ないが、学生が 1 年生の時に受講した「給食計画論」の内容と関連づけを、実習計画や供食やまとめのプロセスで丁寧に確認していき、学習効果を上げたいと思う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価は 3.9 であり、昨年より下がった。(問 9) 板書などの効果的利用 3.3、(問 2) 質問 3.7、(問 3) 理解 3.9、(問 4) 学習意欲 3.9、(問 5) 授業時間 3.7、(問 10) 配布資料 3.8、(問 12) 学生に対する配慮 3.8 が 4.0 以下の評価であった。実習の授業でかつチームで協力して大量調理を作成し供食するので、自分の役割分担をしっかりと果たす必要がある。そのための事前学習は必須で、学生にはレシピをよく読みこんで、実際の実習では付帯作業も含めてタイムスケジュール通り実習するように指導している。他方、板書の機会は少なく、グループワークが主の授業なので、自主的な作業により授業展開している。授業時間も実習実施日とそうでない日は終了時間が違うので、オリエンテーション時に説明して調整している。実習を通して給食管理を理解し、栄養士の仕事を目指すようにしたいと思う。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	学生が 1 年生前期に受講した「給食計画論」の内容との関連づけを、実習計画や供食やまとめのプロセスで丁寧に確認していき、学習効果を上げたいと思う。	

科目名	対象	必修・選択
給食管理実習Ⅱ	フードデザイン学科2年	卒業選択・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1年生の「給食管理実習Ⅰ」に積み重ねが出来るような実習展開を工夫する。校外実習に備えても衛生管理・作業管理・食材管理をはじめ施設・設備管理についても理解を深めるように指導する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	総合評価は4.5と昨年より0.1下がった。項目はすべて4.0以上であり、昨年わずかに4.0に届かなかった(問2)分からない時の質問、(問9)板書などは改善した。1年生の給食管理実習Ⅰと比べて食数も増えて、内容もさらに高度になるが理論・技術ともに進歩するように指導したいと考える。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1年生の「給食管理実習Ⅰ」に積み重ねが出来て実力がついたと感じるように指導する。校外実習に備えても衛生管理・作業管理・食材管理をはじめ施設・設備管理についても理解を深めるように指導する。学生からの質問がしやすいように配慮し、丁寧に対応したいと思う。	
科目名	対象	必修・選択
栄養士基礎演習(1回)	フードデザイン学科1年	卒業必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	担当は「栄養士の基本7:求められる栄養士像について学ぶ」の1回のみであるが、栄養士の仕事のフィールドの広さと魅力を伝える。学生が自分の未来についての夢や方向性を考える機会になるように授業を展開する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	昨年と比較して少し評価が上がり、総合評価で3.9であった。オムニバスの授業であるが、昨年同様に問2)学生の自主的な学習の評価が低く、授業を受けっぱなしにしていることが想像される。学生が興味をもつように工夫してみたが、更なる見直しが必要だと思った。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		<u>5</u> ・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1

次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	担当は「栄養士の基本 7：求められる栄養士像について学ぶ」の 1 回のみであるが、栄養士の仕事のフィールドの広さと魅力を伝える。学生が自分の未来についての夢や方向性を考える機会になるように授業を展開する。
-----------------------------	--

科目名	対象	必修・選択
栄養士総合演習Ⅱ（6回）	フードデザイン学科 2 年	卒業選択
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	卒業前の総まとめとして、前向きに学生が取り組むように誘導して信愛栄養士としての質の担保に努めたい。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	栄養士実力認定試験を踏まえて、「臨床栄養学概論」3 回と「給食管理論」3 回が担当である。事前に前年の栄養士実力認定試験をして、学生の理解度に合わせて詳しく説明したのちに類似問題を作成し確認している。学習意欲に関しては学生によって温度差があるように思う。引き続き、関心がない学生に卒業前の集大成として取り組ませるようにしたいと思う。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・④・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・④・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・③・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		⑤・4・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	卒業前の総まとめとして、前向きに学生が取り組むように誘導して信愛栄養士としての質の担保に努めたい	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
【座長】 肥満と糖尿病～病態・食事・運動、薬物・心身面・教育～ 在宅で行う栄養ケアとその支援方法 退院支援 【司会】 福岡 LCDE（糖尿病療養指導士会）総会	2019. 7. 20 2019. 9. 28 2020. 2. 16 2020. 1. 21	西日本肥満研究会 日本在宅栄養管理学会九州・沖縄ブロック研修会 日本在宅栄養管理学会九州・沖縄ブロック研修会 福岡 LCDE 認定会	九州大学百年講堂 中村学園大学 中村学園大学 あいれふ
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
【栄養士会関係】 福岡県栄養士会理事 福岡県栄養士会福岡支部企画運営 ふくおか市民糖尿病教室 福岡市民の健康を歯と口から守る集い 糸島地域ケア会議コーディネータステップアップ研修会 【糖尿病関係】 福岡 LCDE（中央認定委員、試験官、広報委員、会計監査） 福岡 CDEJ 連絡協議会顧問（運営会議、講演会） 筑紫野市居宅介護支援事業者連絡会 【高齢者栄養関係】 日本在宅栄養管理学会 理事・福岡支部長 学術集会 九州・沖縄ブロック研修会 2020 年学術集会実行委員長 福岡食支援の会 世話人 在宅ネットワーク福岡中央 世話人 福岡摂食嚥下カンファレンス 世話人	年間 年間 2019. 11. 3 2019. 5. 29～6. 9 年間 年間 年間 2019 年 11 月 21 日 年間 年間 2019. 7. 13～14 （駒沢女子大） （9 月、2 月） 2019. 4. 20～現在に至る 年間（6. 22 研修会） 年間（2019. 6. 25 研修会） 年間	福岡県栄養士会 福岡市医師会 福岡市歯科医師会 糸島市 福岡 LCDE 福岡 CDEJ 連絡協議会 筑紫野市 日本在宅栄養管理学会 福岡食支援の会 在宅ネットワーク福岡中央 福岡摂食嚥下カンファレンス	

【その他】 食と健康の和	年間（2019. 12. 21 柳川）	「食と健康の和」協議会
他大学への非常勤等		
科目名	期間	出向先
その他特記事項		
内容	年 月 日	
令和2年度 社会的活動計画		
糖尿病関係、高齢者栄養関係など活動を継続し発展させたいと思っている。とりわけ、日本在宅栄養管理学会の2020年学術集会は、初めての試みで「九州・沖縄ブロック」と「関西・中国・四国ブロック」の共催で開催され、学術集会の実行委員長になっているので、成功させるべく努力していきたい。令和元年から日本在宅栄養管理学会の理事・評議員に任命されている。ライフワークの在宅高齢者に対する栄養管理・サービスと、糖尿病分野で栄養士はもとより他職種と連携して活動の予定である。昨年スタートした「食と健康の和」協議会は久留米信愛短期大学とNPO法人栄養ケアちっごと筑後市社会福祉協議会で構成する団体で聴覚障害者対象の料理実習を地域ごとに開催し聴覚障害者の健康の保持と地域との共生を目指す事業であるが、令和元年も継続して活動することが承認されたので、メンバーの1人として発展させていきたいと思っている。		

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

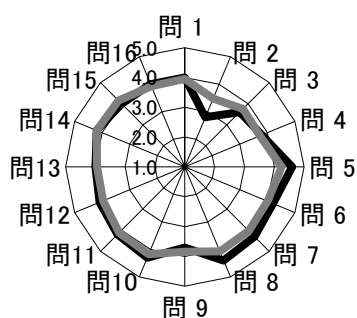
<質問項目>

- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない

給食計画論

問 16 4.0

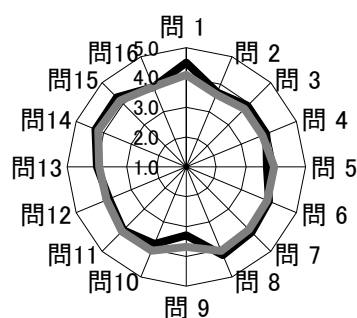


◆教科平均

■学科平均

給食管理実習 I

問 16 3.9

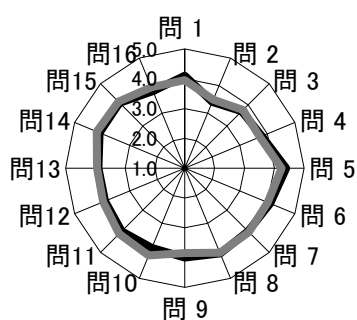


◆教科平均

■学科平均

栄養士基礎演習

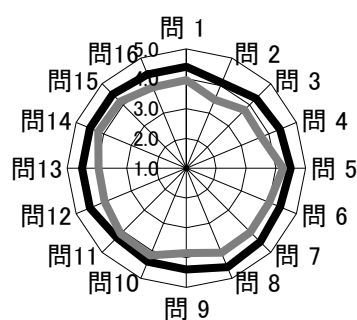
問 16 3.8



教科平均 学科平均

臨床栄養学概論

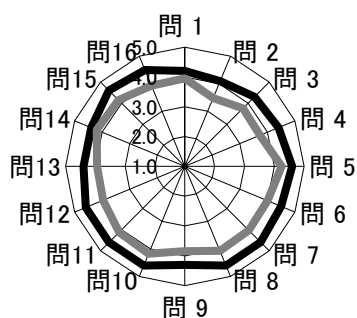
問 16 4.4



教科平均 学科平均

臨床栄養学実習

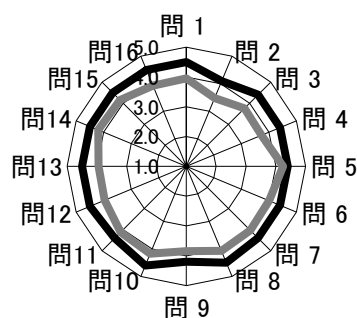
問 16 4.5



教科平均 学科平均

給食管理実習Ⅱ

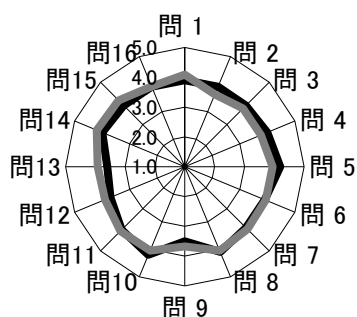
問 16 4.5



教科平均 学科平均

栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ

問 16 3.9



教科平均 学科平均

	問 17 あなたはこの授業のために一週間あたり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
給食計画論（フ 1）	5	9	7	1	1
給食管理実習Ⅰ（フ 1）	5	9	7	0	0
栄養士基礎演習（フ 1）	8	9	5	0	0
臨床栄養学概論（フ 2）	6	3	5	2	2
臨床栄養学実習（フ 2）	7	5	3	1	2
給食管理実習Ⅱ（フ 2）	6	3	4	1	1
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（フ 2）	1	3	4	1	5

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
給食計画論（フ 1）	1	5	3	13	3	2
給食管理実習Ⅰ（フ 1）	2	2	10	12	0	3
栄養士基礎演習（フ 1）	0	6	7	1	3	8
臨床栄養学概論（フ 2）	1	3	2	9	3	5
臨床栄養学実習（フ 2）	0	4	5	4	1	5
給食管理実習Ⅱ（フ 2）	4	1	5	0	1	6
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（フ 2）	2	4	3	7	2	2

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	教授	江越 和夫
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
食品学総論	フード１年	卒業必修・免許必修
食品学各論	〃	卒業選択・免許必修
食品学実験	〃	卒業選択・免許必修
食品衛生学	〃	卒業必修・免許必修
食品衛生学実験	〃	卒業選択・免許必修
栄養士基礎演習（化学を３回担当）	〃	卒業必修
食品加工学実習	フード２年	卒業選択・免許必修
栄養士総合演習Ⅰ（６回担当）	〃	卒業選択
研究分野		
１．食品衛生学分野 変異原性物質（発がん作用を有する）による危害の軽減を目指して、「抗変異原性を有する食品の検索」、「食物繊維や乳酸菌による変異原性物質の吸着」に関する研究を行っている。 さらに、「身体の黄色ブドウ球菌分布」及び「ジャガイモのクロロフィル含量とソラニン・チャコニン量との相関性」を調べている。 ２．食品学分野 「食と健康」の観点から、各種食品中の機能性成分（メラトニン、EPA、DHA、ポリアミン等）の分析を検討している。 ３．食品加工学分野 加工食品の食感向上を目指して、加工方法や食品添加物等について検討している。 ４．教材研究 学生の理解度を深めるための実験・実習用資料について検討している。 ５．栄養士養成について 「学習成果の可視化」に関する取り組みを調査研究している。		

令和元年度 研究報告
令和元年度の研究の概要
1. 食品衛生学分野 フードデザイン学科生を対象に「身体の黄色ブドウ球菌検査実験」を行い、データを積み重ねた。 2. 食品学分野 野菜類の酸化型ビタミンCの定量方法を確立した。研究計画に挙げた機能性成分（EPA、DHA、パプリカ色素）の定量分析については、実施しなかった。 3. 食品加工学分野 豆腐の凝固剤グルコノデルタラクトン添加量について検討した。 4. 教材研究 食品学実験・食品衛生学実験・食品加工学実習用の配布資料（103 ページ）を作成した。 5. 栄養士養成について 「学習成果の可視化」に関する各大学の取り組みを調査研究し、フードデザイン学科における、今までの取り組み及び今後検討が必要な事項についてまとめ、研究紀要に投稿した。
令和元年度の研究の成果
(その他) 1. 「学習成果の可視化に向けての調査研究（共著）」令和元年 9 月『久留米信愛短期大学研究紀要』第 42 号（39-47） 2. 担当 3 科目（食品学実験、食品衛生学実験、食品加工学実習）の実験・実習用配布資料（計 103 頁）の作成
平成 30 年度及び 29 年度の研究の成果
(論文) 1. 「HPLC によるジャガイモ芽のクロロフィル及びグリコアルカロイドの定量（共著）」平成 29 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 40 号（1～7） 2. 入学者選考方法別による学業成績の追跡調査（共著）」平成 29 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 40 号（19～24） 3. 「栄養士養成研究（5）生活実態が学習支援効果に及ぼす影響－2（共著）」平成 29 年 7 月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』 第 40 号（25～34） 4. 「ジャガイモにおけるポテトグリコアルカロイドとクロロフィルの相関性（共著）」平成 30 年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要』第 41 号（1-7） 5. 栄養士養成研究(6)6 年間の学習支援取り組みの総括（共著）平成 30 年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要』第 41 号（19-26） (その他) 1. 「学生の成長」可視化のこころみ(1)-フードプロジェクト活動を通して（共著）-平成 30 年 9 月『久留米信愛短期大学研究紀要』第 41 号（35-42） 2. 「入学選考別による学業成績の追跡調査(2)」平成 30 年 9 月『久留米信愛短期大学研究紀要』第 41 号（61-66）
本教員の主たる研究の成果（5 編以内）
1. 「Adsorption of Heterocyclic Amines by Low Molecular Weight Cellulose（共著）」『食品衛生学雑誌』, 1997 年 12 月 2. 「ラット排泄物中での Trp-P1 及びその代謝物の挙動（共著）」『食品衛生学雑誌』, 2001 年 7 月 3. 「HPLC による生乳中メラトニンの定量（共著）」『日本食品科学工学会誌』, 2007 年 3 月 4. 「ラットにおける Trp-P1 の代謝排泄に及ぼすゴボウとキャベツ粉末の影響（共著）」『日本食品科学工学会誌』, 2009 年 4 月 5. 「高速液体クロマトグラフを用いた米飯中メラトニンの定量法（共著）」『日本食品科学工学会誌』, 2012 年 3 月

所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
1. 日本食品衛生学会	不参加
2. 日本食品科学工学会	不参加
令和2年度 研究計画	
1. 食品衛生学・食品学・食品加工学分野 ・学会誌等を調査し、有益な事項や新知見を学生に紹介する。 ・パプリカの還元型・酸化型ビタミンCを分析する。 2. 教材研究 ・担当3科目の実験・実習用配布資料の改訂を行う。 ・視覚的な授業を目指して、ビデオ・スライド・パワーポイント等の資料を作成する。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）

担当科目の成績評価

科目名	成績評価の内訳	平均
食品学総論	AA： 名, A： 5名, B 8名, C 11名, D 名	2.8
食品学各論	AA： 名, A： 6名, B 5名, C 11名, D 2名	2.6
食品学実験	AA： 名, A： 7名, B 7名, C 10名, D 名	2.9
食品衛生学	AA： 1名, A： 8名, B 3名, C 12名, D 名	2.9
食品衛生学実験	AA： 3名, A： 10名, B 5名, C 6名, D 名	3.4
食品加工学実習	AA： 0名, A： 4名, B 8名, C 7名, D 0名	2.8
栄養士基礎演習	AA： 2名, A： 10名, B 6名, C 7名, D 0名	4.1
栄養士総合演習 I	AA： 0名, A： 7名, B 7名, C 1名, D 0名	3.4

各授業の評価

科目名	対象	必修・選択
食品学総論	フードデザイン学科1年	卒業必修・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い16評価4以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画 ①授業の最後に5分間程重要事項を確認する。②重要事項は栄養士実力認定試験問題等を紹介する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	問い16の総合評価は4.0で、FD宣言の目標を達成したが、問2（質問）の評価が3.0、問4（さらに）が3.3と低かった。 教育力向上に向けての計画の①、②及び③については、例年通り実施した。	

授業についての自己評価

←できた できなかった→

最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した

5・4・3・2・1

教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた

5・4・3・2・1

自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した

5・4・3・2・1

ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた

5・4・3・2・1

振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った

5・4・3・2・1

厳格な授業評価を実施した

5・4・3・2・1

次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画

1. FD宣言：問2（質問）、問4（さらに）評価の向上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①授業の最後に5分間程重要事項を確認する。②重要事項は栄養士実力認定試験問題等を紹介する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。

科目名	対象	必修・選択
食品学各論	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い16評価4以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①授業の最後に5分間程重要事項を確認する。②重要事項は栄養士実力認定試験問題等を紹介する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	平成30年度の授業評価と比較して、問い16総合評価（4.3）は0.4上昇した。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い16評価4.2以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①授業の最後に5分間程重要事項を確認する。②重要事項は栄養士実力認定試験問題等を紹介する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。	
科目名	対象	必修・選択
食品学実験	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い2、3及び16の評価上昇を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①授業の最後に実験結果を解説する。②実験レポートはコメントや評点を記入し速やかに返却する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	平成30年度の評価と比較して、問2（質問）は0.2低下し（令和元年度評価3.7）、問い3（理解）は0.1上昇（3.4）、問い16（総合評価）は0.2上昇した（3.9）。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い16の評価4以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①授業の最後に実験結果を解説する。②実験レポートはコメントや評点を記入し速やかに返却する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。	

科目名	対象	必修・選択
食品衛生学	フードデザイン学科1年	卒業必修・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い16評価4以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画 ①授業の最後に5分間程重要事項を確認する。②重要事項は栄養士実力認定試験問題等を紹介する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	平成30年度の授業評価と比較して、問い16総合評価（4.2）は0.3上昇したが、問2及び問3の評価がともに3.5と低かった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・④・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・④・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・②・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・④・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い2及び問い3の評価向上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画 ①授業の最後に5分間程重要事項を確認する。②重要事項は栄養士実力認定試験問題等を紹介する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。	
科目名	対象	必修・選択
食品衛生学実験	フードデザイン学科1年	卒業選択・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い2評価の向上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画 ①授業の最後に実験結果を解説する。②実験レポートはコメントや評点を記入し速やかに返却する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	平成30年度の授業評価と比較して、問い16総合評価（4.3）は0.2上昇したが、FD宣言の目標とした問い2の評価は変わらなかった（3.8）。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・④・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・④・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・④・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・②・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・④・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い2評価の向上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画 ①授業の最後に5分間程重要事項を確認する。②重要事項は栄養士実力認定試験問題等を紹介する。③視覚的な授業を行う。④学会誌等から得た新知見を紹介する。	

科目名	対象	必修・選択
食品加工学実習	フードデザイン学科2年	卒業選択・免許必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い16評価4.5以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①実習レポートはコメントや評点を記入し速やかに返却する。②視覚的な授業を行う。③学会誌等から得た新知見を紹介する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	平成30年度の授業評価と比較して、問い16総合評価（4.6）は0.1下がったが、FD宣言の目標は達成した。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い16評価4.5以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①実習レポートはコメントや評点を記入し速やかに返却する。②視覚的な授業を行う。③学会誌等から得た新知見を紹介する。	
科目名	対象	必修・選択
栄養士基礎演習（化学）	フードデザイン学科1年	卒業必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い16評価4以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①毎回、確認問題を解かせる。②分かりやすい授業を進める。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	平成30年度の授業評価と比較して、問い16総合評価（3.8）は0.1下がった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	1. FD宣言：問い16評価4以上を目指す。 2. 教育力向上に向けての計画 ①毎回、確認問題を解かせる。 ②分かりやすい授業を進める。	

科目名	対象	必修・選択
栄養士総合演習 I	栄養士総合演習 I	卒業選択
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	1. FD 宣言：問い 16 評価 4 以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①「受講者が管栄試験問題等を解説する」学生参加型の授業を行う。②学会誌等から得た新知見を紹介する。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	平成 30 年度の授業評価と比較して、問い 16 総合評価（3.9）は 0.2 下がった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	1. FD 宣言：問い 16 評価 4 以上を目指す。2. 教育力向上に向けての計画①「受講者が管栄試験問題等を解説する」学生参加型の授業を行う。②学会誌等から得た新知見を紹介する。	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
特になし			
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
山塩漬のビタミンC定量分析	令和元年10月、12月	三井中央高校	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
特になし			
その他特記事項			
内容		年 月 日	
特になし			
令和2年度 社会的活動計画			
特になし			

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

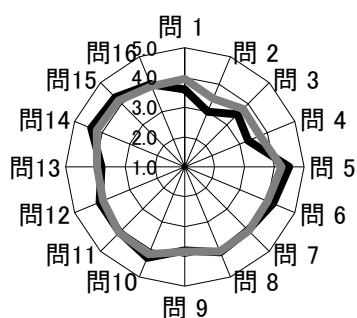
<質問項目>

- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない

食品学総論

問 16 4.0

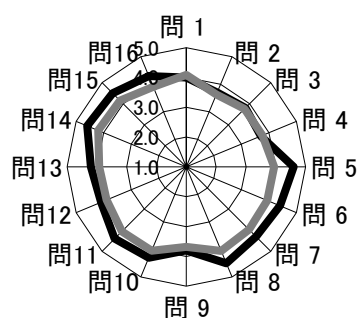


◆教科平均

■学科平均

食品学各論

問 16 4.3

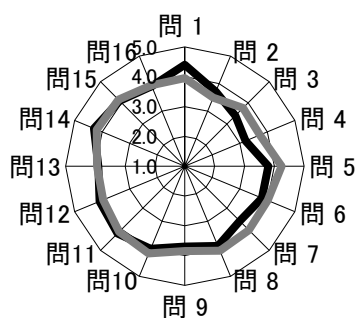


◆教科平均

■学科平均

食品学実験

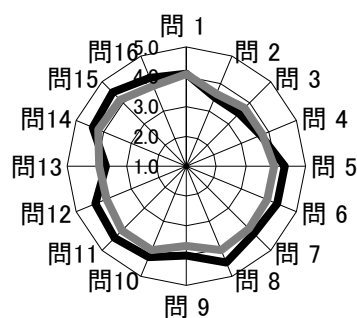
問 16 3.9



教科平均 学科平均

食品衛生学

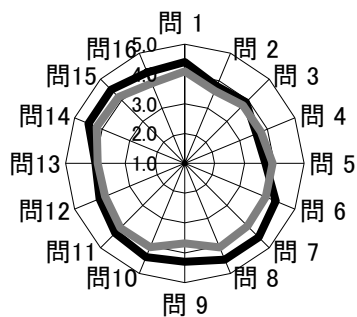
問 16 4.2



教科平均 学科平均

食品衛生学実験

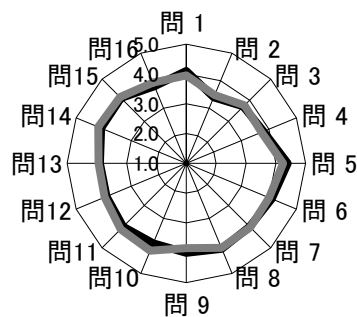
問 16 4.3



教科平均 学科平均

栄養士基礎演習

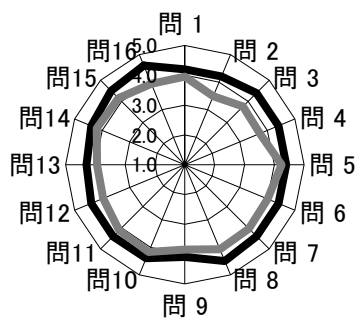
問 16 3.8



教科平均 学科平均

食品加工学実習

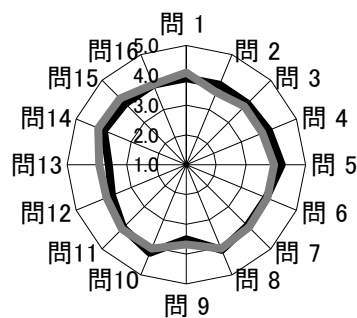
問 16 4.6



教科平均 学科平均

栄養士総合演習 I・II

問 16 3.9



教科平均 学科平均

	問 17 あなたはこの授業のために一週間あたり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
食品学総論（フ 1）	5	11	2	4	0
食品学各論（フ 1）	4	7	7	1	1
食品学実験（フ 1）	8	5	1	5	5
食品衛生学（フ 1）	5	6	9	0	1
食品衛生学実験（フ 1）	6	4	4	0	1
栄養士基礎演習（フ 1）	8	9	5	0	0
食品加工学実習（フ 2）	3	4	6	4	1
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（フ 2）	1	3	4	1	5

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
食品学総論（フ 1）	1	6	2	11	2	3
食品学各論（フ 1）	1	6	3	12	1	3
食品学実験（フ 1）	2	4	15	0	1	6
食品衛生学（フ 1）	1	7	7	12	1	2
食品衛生学実験（フ 1）	2	3	13	0	1	3
栄養士基礎演習（フ 1）	0	6	7	1	3	8
食品加工学実習（フ 2）	0	3	12	2	1	2
栄養士総合演習Ⅰ・Ⅱ（フ 2）	2	4	3	7	2	2

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	准教授	眞部 真紀子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
基礎統計学	幼児教育学科・フードデザイン学科 1 年	卒業選択必修
栄養士情報処理演習	フードデザイン学科 1 年	卒業選択・資格必修
フードプロジェクトⅠ	フードデザイン学科 1 年	卒業必修
フードプロジェクトⅡ	フードデザイン学科 1 年	卒業必修
フードプロジェクトⅢ	フードデザイン学科 2 年	卒業必修
フードプロジェクトⅣ	フードデザイン学科 2 年	卒業必修
フードインターンシップ	フードデザイン学科 2 年	卒業選択
医療事務総論	フードデザイン学科 1 年	卒業選択・資格必修
情報処理演習	フードデザイン学科 1 年	卒業選択・資格必修
医療秘書実務実習	フードデザイン学科 2 年	卒業選択・資格必修
情報科学	幼児教育学科 1 年	卒業選択・資格必修
研究分野		
1. 学生の成長の可視化について 学生の成長を把握する手法について研究する。 2. 栄養士養成分野について 栄養士養成に関する研究。 3. 食と感性について 料理は彩りや盛り付け、器などの見た目の美しさも大事である。また嗅覚や視覚に左右される味の印象や味わいも変化する影響について研究する。		

令和元年度 研究報告
令和元年度の研究の概要
1. 学生の成長の可視化について 学生自身が自分の成長を認識することができるように、科目のルーブリック評価を行い、本学研究紀要第 42 号に報告した。また、評価が測定しやすい技術的な科目で導入した。 2. 栄養士養成分野について 『入学から卒業までのガイドブック』の見直しおよび信愛栄養士の育成に向けて学科で検討した。 3. 食と感性について 学会に参加予定していたが中止となった。その他、資料収集を行った。
令和元年度の研究の成果
(研究ノート) 「学修成果の可視化」に向けての調査研究 共著 久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号 令和元年 9 月 (pp39-47) 「学生の成長」の可視化のころみ (2) ～ルーブリックの評価項目の再考について～ 共著 久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号 令和元年 9 月 (pp49-55) (報告) 聴覚障がい者を対象とした料理教室の取り組みー地域貢献活動に参画してー共著 久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号 令和元年 9 月 (pp69-73) くるめ信愛菓ー地元和菓子店と学生の協働による新商品の企画・開発ー共著 久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号 令和元年 9 月 (pp75-78) フードプロジェクト活動の報告ー調理学の観点からー共著 久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号 令和元年 9 月 (pp79-84) (その他) 栄養士養成分野について 『入学から卒業までのガイドブック』(十訂版) 共著 久留米信愛短期大学フードデザイン学科 令和元年 4 月 (総 56 ページ)
平成 30 年度及び 29 年度の研究の成果
(論文) 「栄養士養成研究 (6) 6 年間の学習支援取組の総括」共著 久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号 平成 30 年 9 月 (研究ノート) 「学生の成長」可視化のころみ (1) ーフードプロジェクト活動を通してー共著 久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号 平成 30 年 9 月 (その他) 『入学から卒業までのガイドブック』(十訂版) 共著 久留米信愛短期大学フードデザイン学科 平成 30 年 4 月 (総 56 ページ)
本教員の主たる研究の成果 (5 編以内)
1. 『社会人に必要な Office2007 の基礎 Word2007, Excel2007, PowerPoint2007 編』共著 開成出版 平成 21 年 4 月 2. A Study of Prosodic Features of Emotional Speech Based on the Auditory Impressions 『近畿大学生物理工学部紀要第 23 号』 平成 21 年 3 月 3. Accent-Type-Dependency of Agreement Rates of Emotions in Japanese Word Speech 『International Journal of Affective Engineering V01.12 No.2 pp.185-190』 平成 25 年 6 月 4. 種々の度合の感情音声における発話者の意図と聞き手の受容の一致率と韻律的特徴との関係 『日本感性工学会論文誌第 13 号 2 号』平成 26 年 7 月

所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本感性工学会	第 15 回日本感性工学会春季大会申込（中止）（福岡工業大学）
日本音響学会	参加実績なし
日本家政学会	参加実績なし
福岡県栄養改善学会	参加
令和 2 年度 研究計画	
1. 食と感性について 学会参加や文献収集に努め、計画を立てる。 2. 学生の成長の可視化について 担当科目におけるルーブリックを学生に公開し、学生のルーブリックによる自己評価と他者評価の運用を試みる。 3. 栄養士養成分野について 『入学から卒業までのガイドブック』の見直し及び信愛栄養士の育成に向けて学科で検討する。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）		
担当科目の成績評価		
科目名	成績評価の内訳	平均
基礎統計学	AA： 3名, A： 0名, B 2名, C 1名, D 0名	3. 8
栄養士情報処理演習	AA： 4名, A： 6名, B 8名, C 7名, D 0名	3. 3
フードプロジェクトⅠ	AA： 6名, A： 10名, B 3名, C 6名, D 0名	3. 6
フードプロジェクトⅡ	AA： 4名, A： 12名, B 2名, C 7名, D 0名	3. 5
フードプロジェクトⅢ	AA： 4名, A： 7名, B 7名, C 1名, D 0名	3. 7
フードプロジェクトⅣ	AA： 3名, A： 9名, B 3名, C 3名, D 0名	3. 7
フードインターンシップ	AA： 1名, A： 0名, B 0名, C 0名, D 0名	5. 0
医療事務総論	AA： 2名, A： 4名, B 6名, C 7名, D 0名	3. 1
情報処理演習	AA： 4名, A： 9名, B 7名, C 4名, D 0名	3. 5
医療秘書実務実習	AA： 0名, A： 11名, B 3名, C 0名, D 0名	3. 8
情報科学	AA： 7名, A： 20名, B 25名, C 7名, D 0名	3. 5
	AA： 0名, A： 0名, B 0名, C 0名, D 0名	

各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
基礎統計学	幼児教育学科・フードデザイン学科 1 年	卒業選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／「毎回のテーマを宣言する（問 7）」は 4.2 と目標に達した。 「板書の仕方の工夫（問 9）」は 4.0 と目標の 4.1 以上に達しなかった。 教育力向上に向けての計画／講義ノート作成に時間をかけた。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	「成績評価の説明（問 11）」が 4.0 と 6 名の受講生のうち 1 名しか「そう思う」と回答しておらず、説明不足とわかった。また、「板書の仕方の工夫（問 9）」では半数の 3 名が「どちらともいえない」と回答しており、改善していないことがわかった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・④・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・③・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・③・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		⑤・4・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／「テーマや目的（問 7）」に「どちらともいえない」を 0 名にする。「板書の仕方（問 9）」を 4.1 以上、「成績評価の説明（問 11）」を 4.5 以上。 教育力向上に向けての計画／理解度を確認する。	
科目名	対象	必修・選択
栄養士情報処理演習	フードデザイン学科 1 年	資格必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／「毎回のテーマを宣言する（問 7）」は 4.0 と昨年度の 3.3 より改善されたが、目標の 4.2 に達しなかった。 教育力向上に向けての計画／ゆっくりしゃべり、ゆっくり説明することは実践できた	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	「他科目との関連（問 6）」が 3.8 と一番低く、「どちらかと言えばそう思わない」が 2 名もいた。また、（問 12）から（問 16）に「どちらかと言えばそう思わない」が 1 名いた点は真摯に受け止めている。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・④・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		⑤・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・④・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		⑤・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・③・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／問 14、問 15 に「どちらともいえない」以下の回答がないように学生一人ひとりと向き合う。 教育力向上に向けての計画／丁寧に説明する。	

各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
フードプロジェクトⅠ	フードデザイン学科 1 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／授業計画の確立（すべての問を 4 点台）。 教育力向上に向けての計画／十分な準備の時間を確保する。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	16 問のうち 8 問しか 4 点台とならなかった。「自分で調べた（問 2）」と「さらに進んで勉強したい（問 4）」が 3.6、「他の科目との関連（問 6）」が 3.7 と低かった。準備時間は確保できたと思う。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		⑤・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・④・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		⑤・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・③・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／授業計画の確立と実施（すべての問を 4 点台）。 教育力向上に向けての計画／板書の仕方の工夫	
科目名	対象	必修・選択
フードプロジェクトⅡ	フードデザイン学科 1 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／問 11 と問 12 を 4 点台にあげる。 教育力向上に向けての計画／つねにシラバスの評価の配分について確認し、変更が生じたときは説明をする。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	問 11 は 3.9、問 12 は 3.8 といずれも 4 点台にあげることはできなかった。「時間通りに終わった（問 5）」で「そうは思わない」につけたのが 3 名もいた。科目の性格上、起こりえることだと思うので、事前の説明を丁寧に行いたい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・④・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		⑤・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・③・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		⑤・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・③・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／問 5、問 6、問 7、問 11 を 4 点台にあげる。 教育力向上に向けての計画／つねにシラバスの評価の配分について確認し、変更が生じたときは説明をする。	

各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
フードプロジェクトⅢ	フードデザイン学科 2 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画		
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	問 6 と問 7 は 3.1 とかなり低かった。 説明不足と学生とのコミュニケーション不足だと大いに反省する。 しかし、問 3「内容の理解・実力がついた」が 3.8 で学科平均並みであることから、学生が理解していることがわかった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・3・ <u>2</u> ・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		<u>5</u> ・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・2・ <u>1</u>
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／すべてを 3.8 以上にする。 教育力向上に向けての計画／学生への細やかな説明と学生間・担当者 間のコミュニケーションの向上	
科目名	対象	必修・選択
フードプロジェクトⅣ	フードデザイン学科 2 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画		
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	問 5「時間通り」が 2.7 とかなりかなり低い結果であるが、外部参画の ため仕方ないが、事前の学生とのコミュニケーションが少な かったことも大きな反省点である。しかし、問 2 と問 3 は 4.0 を超え ており、本科目の本来の目的を達成した評価もできる。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		<u>5</u> ・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／すべてを 3.8 以上にする。 教育力向上に向けての計画／学生への細やかな説明と学生間・担当者 間のコミュニケーションの向上	

各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
医療事務総論	フードデザイン学科 1 年	資格必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／問 7「テーマや目的」と問 9「板書の仕方」を 3.8 にあげる。 教育力の向上に向けての計画／準備の時間を確保する。講義ノート の全面的な見直しを行う。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	問 9「板書の仕方」が 3.7 と低く、昨年度より下がってしまった。配布 資料とテキストで進めるのであまり板書はしないが、その中での特典 を考えると、かなり工夫が必要である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／問 3「実力がついた」を 4 点台にする。 教育力の向上に向けての計画／準備の時間を確保する。講義ノート の全面的な見直しを行う。	
科目名	対象	必修・選択
情報処理演習	フードデザイン学科 1 年	資格必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／毎回のテーマ宣言（問 6 と問 7 を 4 点台）。 教育力向上に向けての計画／しつこいぐらいの説明を心掛ける。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	問 6 は 3.6 と改善できなかったが、問 7 は 4 点台に改善した。しかし、 「そうは思わない」をつけた学生が 1 名いることは見逃せない点であ る。同じく問 6 にも 1 名いることは、丁寧さが欠けていたのだと推察 する。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		<u>5</u> ・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／「そうは思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を 0 名にする。 教育力向上に向けての計画／学生一人ひとりと向き合える授業の工夫	

各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
情報科学	幼児教育学科 1 年	卒業必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／問 11「評価方法」と問 12「質問できる配慮」を 2 クラスとも 4.1 にする。 教育力向上に向けての計画／授業の最後に質問の時間を取れるようにする。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	問 11 は 4.3、問 12 は 4.2 と改善できた。しかしどちらも「どちらともいえない」と 10 名程度いることも見逃せないことである。他に「理解できた（問 3）」の「どちらともいえない」の学生へのフォローができていなかったこともわかった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		⑤・4・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		⑤・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・④・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		⑤・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・③・2・1
厳格な授業評価を実施した		⑤・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	FD 宣言／「どちらともいえない」を 5 名以下にする。 教育力向上に向けての計画／丁寧な説明と、理解度の把握に努める。	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
久留米市保育所給食専門研修会パワーポイント及びワードの基礎的講習	令和元年9月13日	久留米市保育所給食専門研修会	本学マルチメディアセンター
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
グリーンコープ生活協同組合連合会 レシピ掲載	平成31年4月～令和2年3月	グリーンコープ生活協同組合連合会	
高等教育コンソーシアム久留米 e-learning 部会員	平成31年4月～令和2年3月	高等教育コンソーシアム久留米	
食と健康の和協議体における食育教室への参画	令和元年6月～令和2年3月	食と健康の和協議体	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
情報処理入門	平成31年4月～令和2年3月	久留米大学	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
なし			
令和2年度 社会的活動計画			
グリーンコープ生活協同組合連合会 レシピ掲載 高等教育コンソーシアム久留米 e-learning 部会員 久留米大学非常勤講師「情報処理入門Ⅰ・Ⅱ」			

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

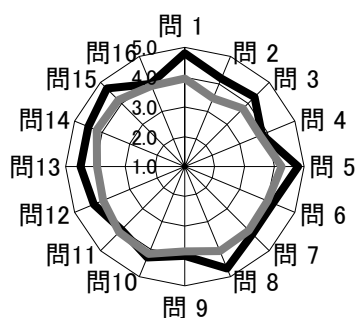
<質問項目>

- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない

基礎統計学

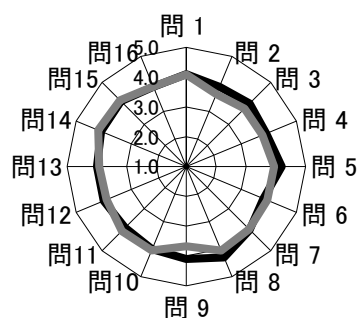
問 16 4.0



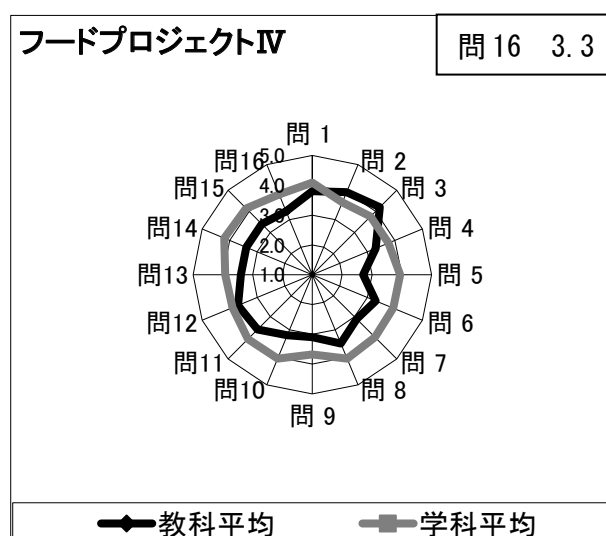
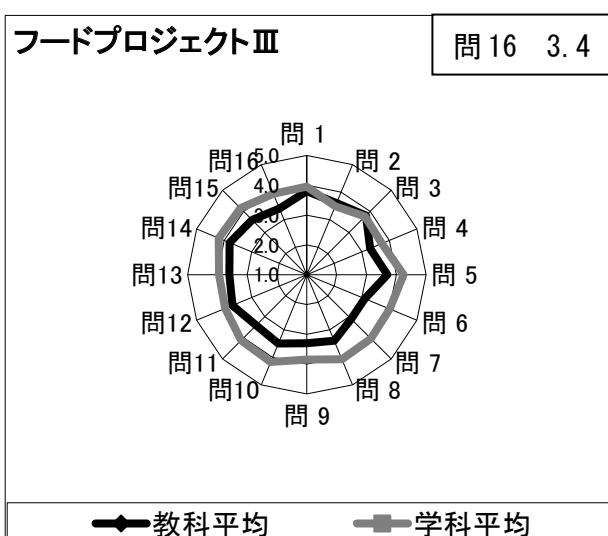
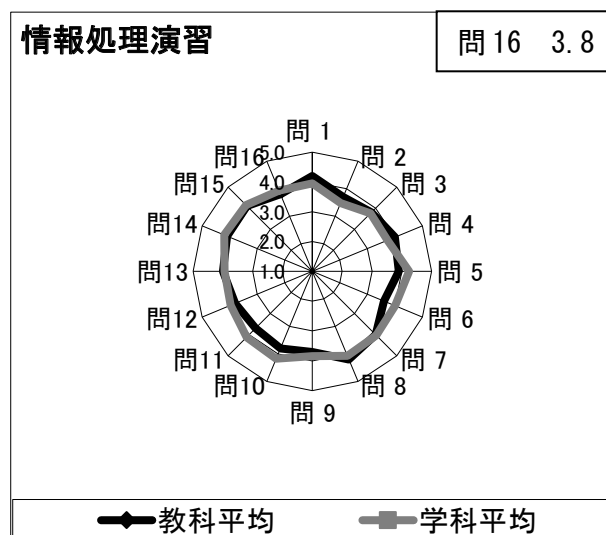
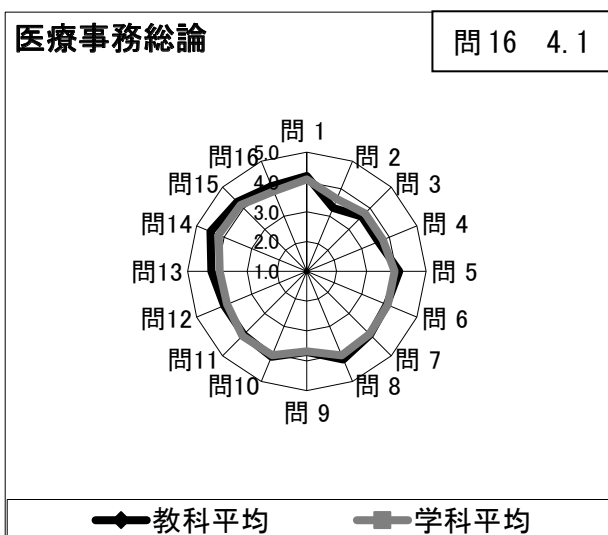
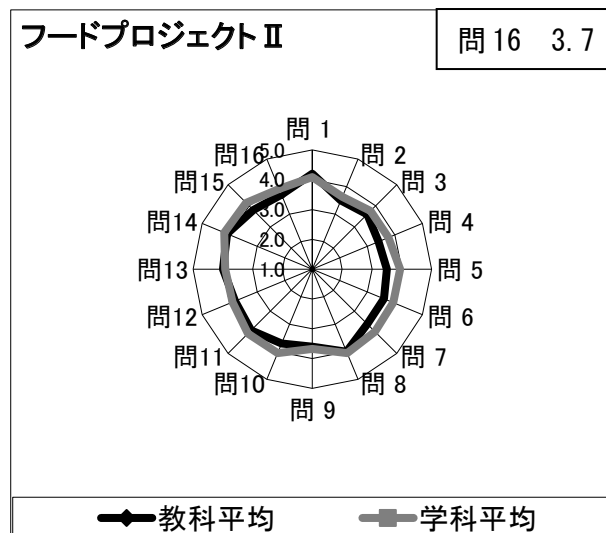
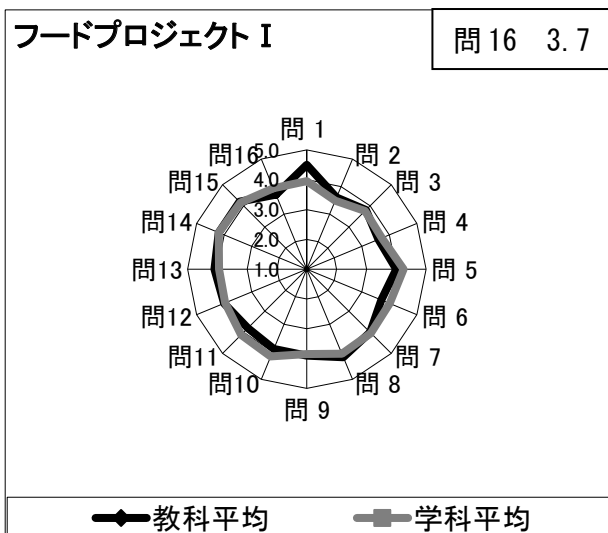
●教科平均 ■学科平均

栄養士情報処理演習

問 16 3.9

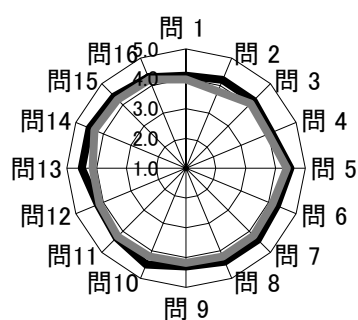


●教科平均 ■学科平均



情報科学

問 16 4.3



◆教科平均

■学科平均

	問 17 あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
基礎統計学（フ１）	0	4	2	0	0
栄養士情報処理演習（フ１）	5	10	7	0	0
フードプロジェクトⅠ（フ１）	10	10	3	2	0
フードプロジェクトⅡ（フ１）	12	10	2	0	0
医療事務総論（フ１）	9	4	3	0	0
情報処理演習（フ１）	8	6	7	0	0
フードプロジェクトⅢ（フ２）	10	2	2	0	0
フードプロジェクトⅣ（フ２）	10	0	2	0	3
情報科学（幼１）	27	21	2	1	1

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
基礎統計学（フ１）	0	2	1	5	1	0
栄養士情報処理演習（フ１）	0	4	14	5	1	3
フードプロジェクトⅠ（フ１）	0	3	11	0	2	10
フードプロジェクトⅡ（フ１）	1	1	7	0	1	12
医療事務総論（フ１）	1	4	5	4	1	5
情報処理演習（フ１）	0	5	4	6	1	6
フードプロジェクトⅢ（フ２）	0	0	4	0	0	7
フードプロジェクトⅣ（フ２）	1	0	2	0	1	9
情報科学（幼１）	1	6	26	10	1	12

所属学科	職名	氏名
幼児教育	講師	新井 真実
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
生活とスポーツⅠ	幼児教育学科1年	卒業必修 免許・資格必修
生活とスポーツⅡ	幼児教育学科1年	卒業必修 免許・資格必修
教育実習(事前・事後指導)	幼児教育学科1年	卒業選択 免許・資格選択必修
体育	幼児教育学科2年	卒業必修 免許・資格選択必修
身体表現	幼児教育学科2年	卒業必修 免許・資格選択必修
スポーツ・レクリエーション概論	幼児教育学科2年	資格必修
チャイルドプロジェクト (からだあそび研究会)	幼児教育学科2年	卒業必修 免許・資格必修
研究分野		
1. 舞踊・身体表現の分野 上演型舞踊、民俗舞踊等の舞踊文化について、それぞれの舞踊が根差す社会における価値の理念型やパフォーマーの表現意識に着眼した研究を行っている。 2. 保育者養成の分野 保育士及び幼稚園教諭の養成に関して、特に身体表現分野についてその目的と意義、方法について研究を行っている。 3. 子育て支援の分野 子育て中の母親が抱えがちな身体的・精神的なマイナートラブルの緩和、ボディ・ワークの構築に向けた研究を行っている。特に、産後の母親と乳児を対象としたメソッドの検討を行っている。 4. レクリエーション・生涯スポーツの分野 現代社会における身体教育活動の意義・目的について、レクリエーションや「ゆるスポーツ」等の各種運動を活用した教育プログラムの検討を行っている。 5. コミュニティアート、ソーシャリー・エンゲージド・アートの分野 地域社会における芸術活動のあり方と意義について研究している。特にコミュニティダンスを通じて多様な人々の出会いの場の創造、地域活性化のプロセスと教育的効果について着目している。		

令和元年度 研究報告	
令和元年度の研究の概要	
1. 幼児期の運動機能に関する研究	子どもの発達の順序性を踏まえた保育という観点から、乳幼児期（特に幼児期）の運動機能に関する研究を進めている。
2. ダンスと言葉の関わりに関する研究	“ことば（言語感覚）とからだ（身体感覚）を結ぶものとしてのダンス” にフォーカスした研究を進めている。
3. 教職体育における表現運動系及びダンス指導に関する研究	学習指導要領の改訂、体育科・保健体育科の改訂の趣旨を踏まえ、教職体育における表現運動系及びダンスの教授法に関する研究を行っている。
4. ダンスを活用した食育推進事業の試み	行政からの依頼を受け、振付および上演指導、教則ビデオの制作・配信、モデル園での実践等を行い、それらを通じたダンスによるアクティブ・ラーニングに関する研究として、活動概要とその成果についてまとめた。
5. ダンスを通じた中心市街地活性化に関する研究	久留米市、久留米市教育委員会、久留米商工会議所等と連携することにより、ワークショップやイベント等に多数参画し、中心市街地の新たな魅力と賑わいの創出と、健康教育の普及に取り組んだ。
6. 日中働く成人女性を対象とするエクササイズおよびボディーワークに関する研究	主に 30 代～50 代の日中働く女性を対象とした、ストレッチ・骨盤ケア・体幹トレーニングクラスの検討を行った。中心市街地における夜の市民向け講座での実践、受講者アンケートの実施を行った。
7. 海外における保育制度および身体教育の現状に関する研究	ニュージーランド・オークランドにおける保育制度に関する研究を行い、現地視察を踏まえ、身体教育分野の現状に関する考察を行った。
令和元年度の研究の成果	
(著作)	
1. 教則 DVD『くるめさん、ぐるめさん ダンスムービー』	振付監修・出演 令和 2 年 4 月 29 日 RANGE picture
(審査)	
1. 「令和 2 年度 福岡市文化芸術振興財団 ステップアップ助成プログラム 2 次審査」	令和 2 年 2 月 13 日 福岡市文化芸術振興財団 福岡アジア美術館あじびホール
平成 30 年度及び 29 年度の研究の成果	
(著書)	
1. 『子どもの発達の連続性を支える保育の心理学』 共著 平成 31 年 3 月 教育情報出版	(106～109：6 章 身体機能と運動機能の発達について学ぼう)
(論文)	
1. 「コピペからのアレンジ力」としての「re-creation スキル」に着眼したからだあそび試論 —身体表現教育とレクリエーション教育の融合に関する一考察— (公益財団法人日本レクリエーション協会 課程認定校研究連絡連絡協議会 「自由時間研究」第 43 号)	

※【公益財団法人日本レクリエーション協会平成 29 年度研究助成事業】採択

2. ダンスが拓くソーシャル・インクルージョンの地平（2）
—信愛オリジナル・コミュニティダンス「ココ、カラダ。」の振付プロセスに着目して—
平成 30 年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号』（9～18）
3. 身体表現教育とレクリエーション教育の融合の可能性に関する一考察
—「コピペからのアレンジ力」としての「re-creation スキル」に着眼したからだあそび試論—
平成 30 年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号』（43～50）
4. 保育者養成課程における「身体表現」に関する一考察
—「コピペ思考」の脱却と「re-creation スキル」の有効性に着眼して—
(公益財団法人日本レクリエーション協会 課程認定校研究連絡協議会「自由時間研究」第 42 号)

※【公益財団法人日本レクリエーション協会平成 28 年度研究助成事業】採択

5. 「コピペからのアレンジ力」としての「re-creation スキル」に着眼したからだあそび試論
—身体表現教育とレクリエーション教育の融合を目指して—
(公益財団法人日本レクリエーション協会 課程認定校研究連絡協議会「自由時間研究」第 43 号)

※【公益財団法人日本レクリエーション協会平成 29 年度研究助成事業】採択

(発表)

1. 「コピペからのアレンジ力」としての「re-creation スキル」に着眼したからだあそび試論
—身体表現教育とレクリエーション教育の融合に関する一考察—
平成 30 年 6 月 平成 30 年度公益財団法人日本レクリエーション協会・課程認定校研究連絡協議会
全国大会 助成研究成果発表 立教大学
2. 保育者養成課程における「身体表現」に関する一考察
—「コピペ思考」の脱却と「re-creation スキル」の有効性について—
平成 29 年 6 月 平成 29 年度公益財団法人日本レクリエーション協会・課程認定校研究連絡協議会
全国大会 助成研究成果発表 京都学園大学

(報告)

1. 久留米信愛短期大学からだあそび研究会「プロジェクト HOTM! X (ホトムクス) 2018」
活動報告 平成 31 年 3 月 久留米市市民活動活性化・絆づくり推進事業補助金事業報告書
※【平成 30 年度＜久留米市市民活動活性化・絆づくり推進事業補助金＞（主催：久留米市・協働
推進部協働推進課）事業】（協働推進部門・所管部署：久留米市農政部農政課）採択
2. 「プロジェクト HOTM! X (ホトムクス) 2017」平成 29 年度活動報告
久留米信愛女学院短期大学からだあそび研究会（新井セミナー）
※【平成 29 年度＜久留米市キラリ輝く市民活動活性化補助金事業＞（主催：久留米市 協働推進
部協働推進課）事業】採択

本教員の主たる研究の成果（5 編以内）

(著書)

- ・『子どもの発達の連続性を支える保育の心理学』 共著 教育情報出版 2019
(106～109：6 章 身体機能と運動機能の発達について学ぼう)

(論文)

- ・「「晒す」身体表現の位相」『お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科 人文学専攻論文要録』2006
- ・「戦略的パフォーマンスとしてのストリップ試論」第 16 回舞踊学会例会 2011
- ・「保育者養成課程における「身体表現」に関する一考察—「コピペ思考」の脱却と「re-creation スキル」の有効性に着眼して—」公益財団法人日本レクリエーション協会 課程認定校研究連絡協議会『自由時間研究 第 42 号』2017

(報告)

- ・「エイブル・アート・オン・ステージ（障害のある人との舞台芸術活動支援事業）に関する活動報告」
日産自動車 日産 NPO ラーニング奨学金制度活動報告会, 2005

所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
舞踊学会	不参加
日本子ども学会	不参加
全国保育士養成協議会	不参加
日本レクリエーション協会	不参加
課程認定校研究連絡協議会	不参加
日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門 舞踊研究会	第 39 回 全国創作舞踊研究発表会（岡山シンフォニーホール）参加
令和 2 年度 研究計画	
1. 幼児期の運動機能に関する研究 子どもの発達の順序性を踏まえた保育という観点から、乳幼児期（特に幼児期）の運動機能に関する研究を進める。 2. ダンスと言葉の関わりに関する研究 “ことば（言語感覚）とからだ（身体感覚）を結ぶものとしてのダンス” にフォーカスした研究を進める。 3. 教職体育における表現運動系及びダンス指導に関する研究 学習指導要領の改訂、体育科・保健体育科の改訂の趣旨を踏まえ、教職体育における表現運動系及びダンスの教授法に関する研究を継続する。 4. ダンスを活用した市民活動活性化に関する研究 振付および上演指導、教則ビデオの制作・配信、モデル園での実践等を行い、それらを通じたダンスによるアクティブ・ラーニングに関する研究として、活動概要とその成果についてまとめる。 5. ダンスを通じた中心市街地活性化に関する研究 久留米市、久留米市教育委員会、久留米商工会議所等と連携し、中心市街地の新たな魅力と賑わいの創出と、健康教育の普及に取り組む。 6. 海外における保育制度および身体教育の現状に関する研究 現地視察を踏まえつつ、身体教育分野の現状に関する考察を更に深める。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）		
担当科目の成績評価		
科目名	成績評価の内訳	平均
生活とスポーツⅠ	AA： 2名，A： 43名，B 10名，C 6名，D 0名	3.7
生活とスポーツⅡ	AA： 8名，A： 27名，B 14名，C 8名，D 0名	3.6
体育	AA： 4名，A： 23名，B 29名，C 8名，D 0名	3.4
身体表現	AA： 11名，A： 31名，B 19名，C 3名，D 0名	3.8
チャイルドプロジェクト	AA： 2名，A： 10名，B 0名，C 0名，D 0名	4.2
教育実習(事前・事後指導)	AA： 8名，A： 15名，B 23名，C 14名，D 0名	3.3
各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
生活とスポーツⅠ	幼児教育学科1年	卒業必修 免許・資格必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	学生が7.5回という授業回数で無理なく理解できるよう、講義内容について、優先順位をつけて整理する。授業内で詳細まで扱えないテーマについては、学生が興味関心をもって自ら調べることでできるよう、効果的な働きかけを意識する。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	講義内容の取捨選択により、前年度より効率的に授業を行うことができた。到達度の確認も振り返り学習の時間と小テストにより丁寧に行ったが、自発的な調べ学習を促すことが十分にはできなかったことが反省点である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		<u>5</u> ・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		<u>5</u> ・4・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	引き続き、振り返り学習と小テストによる到達度の確認を丁寧に行うと共に、自発的な調べ学習を促すことに注力する。同時に「生活とスポーツⅡ」（実技）に向けての意欲を高める講義のあり方を意識的に行う。	
科目名	対象	必修・選択
生活とスポーツⅡ	幼児教育学科1年	卒業必修 免許・資格必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	毎回テーマに沿って様々な道具を用いた運動あそびを行っているが、次年度は応用・アレンジについて学びを深める時間を、厚く持っていきたい。また、実技試験に向けての幼児体操・ダンスを通した動作の熟達にはひきつづき力を入れ、学生の動きの洗練化につなげたい。	

学生の授業評価を踏まえた自己評価	基本の運動あそびを提供したあと、応用・アレンジを考える時間を厚く持つよう心掛けたことで、学生の主体性が高まった。また、「テスト(実技試験)が楽しかった」という学生の授業評価(自由記述)が示すように、課題に取り組むプロセスに学生が意義を見出した点良かった。	
授業についての自己評価	←できた できなかった→	
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した	5・4・ 3 ・2・1	
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた	5・ 4 ・3・2・1	
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した	5 ・4・3・2・1	
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた	5 ・4・3・2・1	
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った	5・ 4 ・3・2・1	
厳格な授業評価を実施した	5・ 4 ・3・2・1	
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	引き続き、応用・アレンジを考える時間を厚く持つことを心掛ける。また、テスト(実技試験)に積極的になれない学生も一部見受けられるため、ペアやグループ単位でマスターしてもらうなどの工夫を講じつつ、学生の動きの洗練化に向け、細やかな指導を心掛けたい。	
科目名	対象	必修・選択
体育	幼児教育学科2年	卒業必修 免許・資格選択必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	教員自身の立案について紹介したり、教員自身が実践する姿をしっかりと見せることにより、学生たち自身のワークに向けた意欲を醸成していきたい。モデルに引きずられ自主性・独創性が損なわれることを懸念するばかりではなく、学生が「手本」の効用を体感することで、幼児体育への理解を深めることを目指したい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	教員自身の立案の紹介や実践が、十分にはできなかった。また、前期中に消化できなかった授業の補講が後期に立て込んだことも影響して、学生たちの集中が保てず、グループ課題の完成度も満足度も低かった点を反省する。	
授業についての自己評価	←できた できなかった→	
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した	5・4・ 3 ・2・1	
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた	5・4・ 3 ・2・1	
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した	5・4・ 3 ・2・1	
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた	5・4・ 3 ・2・1	
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った	5・4・ 3 ・2・1	
厳格な授業評価を実施した	5・4・ 3 ・2・1	
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	教員自身の立案の紹介や実践を、意識的に行う。また、グループ発表の完成度と満足度が高められるように、保育の現場で活用するイメージが持ちやすくなるような工夫をする。例えば映像資料で子どもたちへの実際の運動指導の様子を見せる等、取り入れていきたい。	

科目名	対象	必修・選択
身体表現	幼児教育学科2年	卒業必修 免許・資格選択必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	学生が固定観念から解き放たれ「こんな表現があるんだ!」という驚きに出会える授業をデザインしていきたい。創造的な身体表現や舞台作品に、映像等で触れられる機会を持ったり、またグループでの作品づくりにおいても、オリジナリティを発揮しやすい枠組みづくりを検討したい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	創造的な身体表現や舞台作品に、映像等で触れられる機会を持つことができなかった。過去、学生(先輩)たちが創作した作品を紹介したところ、模倣の域から出ないグループもみられ、意欲的で斬新な作品に取り組んだグループとは完成度・満足度共に大きく差が開いた。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		<u>5</u> ・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	例示することによって、学生の創造力を狭めてしまうことを自戒しながらも、多様な表現に触れる機会をもてるよう検討していきたい。グループワークが大半を占める授業計画の中で、毎回進捗状況の確認はしているが、一部の学生に任せきりになってしまうケースもあったため、より細やかに働きかけを意識したい。	
科目名	対象	必修・選択
チャイルドプロジェクト (からだあそび研究会)	幼児教育学科2年	卒業必修 免許・資格必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	行政や、各種団体からの依頼を受けてのイベント参加、補助金の下での活動について、学生の中でしっかりと理解が進まないまま、活動が走り出してしまっている感がある。年度の終わりには理解できるようだが、できれば活動の過程でもっとそのことに触れられるよう工夫したい。時間的になかなか難しいが、市役所や商工会議所の方との打ち合わせの場に同席することなど、検討していきたい。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	今年度は自身が夏に一時不在であったこともあり、行政等との協働の枠組みについて、十分に説明する時間を持つことができなかった。活動を進めていく中で、自ら気づき、学び取っていく学生もいる一方で、そこまでに至らない学生もいた事が反省点である。	

授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ 4 ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5 ・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ 4 ・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5 ・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ 2 ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ 4 ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	行政や、各種団体との協働の枠組みについて、活動の過程で触れていけるよう工夫したい。また、コロナ禍で従前の活動ができないことが予測される中、自ら問題意識をもち、新たなアイデアを練り出せるようサポートする。	

令和元年度 社会的活動報告

講演等

題名	講演年月日	主催者	場所
1. 福岡海星女子学院高等学校 キャンパス訪問 体験授業	令和元年12月9日	福岡海星女子学院高等学校	久留米信愛短期大学
2. 南筑ライフデザインカレッジ 「子どもと楽しむからだあそび」	令和元年5月27日	久留米市立南筑高等学校	久留米信愛短期大学
3. 久留米市立北野中学校 「保育・幼児教育フィールド」体験授業	令和元年6月24日	久留米市立北野中学校	久留米市立北野中学校
4. 久留米市立明星中学校 「保育・幼児教育フィールド」体験授業	令和元年9月6日	久留米市立明星中学校	久留米市立明星中学校
5. 久留米商工会議所 ＜第12回 久留米まちゼミ＞ 「美姿（びし）っと！ ダンス and エクササイズ」講師	令和元年6月19日	久留米商工会議所	Ohana（一番街）
6. 久留米商工会議所 ＜第13回久留米まちゼミ＞ 「レッツダンス！ くるめさん、ぐるめさん」講師	令和元年12月1日	久留米商工会議所	ほとめきサロン（六ツ門）

他団体等への協力

協力内容	協力期間	協力先
【委員】		
1. 久留米市スポーツ振興会委員	令和2年1月1日～令和4年3月31日	久留米市
2. 久留米市中心市街地活性化協議会委員・幹事	令和2年4月1日～令和4年3月31日	久留米商工会議所
3. 久留米広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員 分科会（都市機能・生活関連機能サービス検討分科会）会長	平成30年6月29日～令和3年3月31日	久留米市
4. 高等教育コンソーシアム久留米 地域支援部会	令和2年度	高等教育コンソーシアム久留米
5. 公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団 ステップアップ助成プログラム ダンス部門アドバイザー	令和2年1月1日～令和3年12月31日	福岡市

他大学への非常勤等		
科目名	期間	出向先
久留米大学 人間健康学部 スポーツ医科学科 「体育実技（ダンス）」非常勤講師	令和元年度 後期	久留米大学
久留米工業大学 工学部 機械システム工学科 ／建築・設備工学科／情報ネットワーク工学科 ／教育創造工学科 「生涯スポーツⅣ」非常勤講師	令和元年度 後期	久留米工業大学
その他特記事項		
内容	年 月 日	
特になし		
令和２年度 社会的活動計画		
１．非常勤講師 ・令和２年度後期 久留米大学 人間健康学部 スポーツ医科学科「体育実技（ダンス）」非常勤講師 ・令和２年度後期 久留米工業大学 工学部 機械システム工学科／建築・設備工学科 情報ネットワーク工学科／教育創造工学科「生涯スポーツⅣ」非常勤講師 ２．教員免許状更新講習会講師 ・令和２年（期日未定） 教員免許状更新講習会「幼児の身体表現」講師 ３．出前講座・公開講座講師 ・令和２年７月１９日 久留米信愛短期大学オープンキャンパス体験授業 講師 ・令和２年６月１５日 南筑高等学校 南筑ライフデザインカレッジ 講師 ・令和２年（期日未定）久留米市立北野中学校 出前講座 講師 ・令和２年（期日未定）明光学園高等学校 チャレンジプログラムキャンパスデザイン講座 講師 ・令和２年（期日未定）久留米信愛学院高等学校 ミ・ラ・イフィールド 講師 ・令和２年（期日未定）久留米信愛学院高等学校 信愛接続プログラム 講師 ・令和２年（期日未定）福岡海星女子学院高等学校 ガイアの時間 講師 ４．子育て支援講座講師 ・令和２年１２月１２日 信愛つどいのひろば子育て支援講座 「ママのためのゆるストレッチ and ダンス」 講師 ５．地域参画活動（中心市街地活性化 等） ・令和２年４月２４日 第１３８回 福岡県市長会総会 アトラクション出演【中止】 ・令和２年４月２９日 第５回 久留米楽衆国まつり ステージ出演【中止】 ・令和２年（期日未定）＜第１４回 久留米まちゼミ＞講師 ６．文化芸術振興活動 ・福岡市芸術文化振興財団「令和２年度 ステップアップ助成プログラム」審査 及び採択団体へのアドバイザー業務		

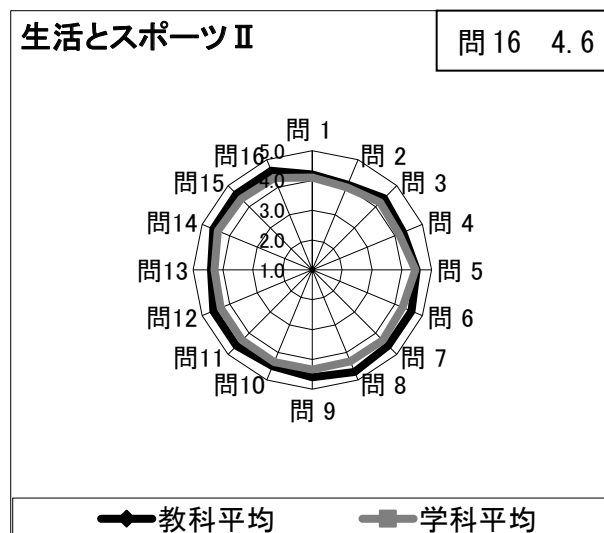
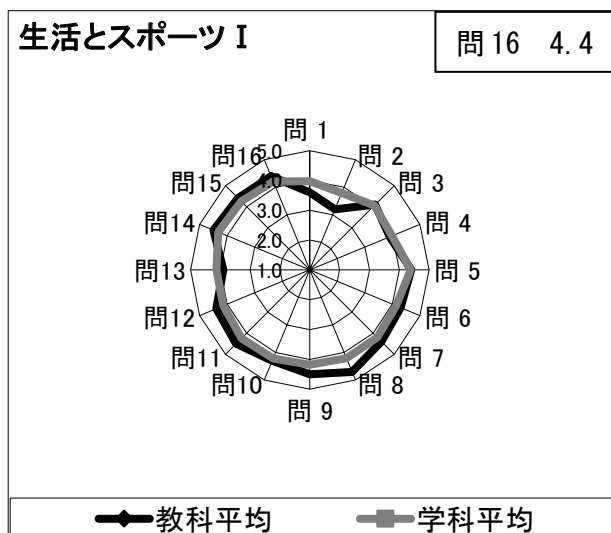
ほか

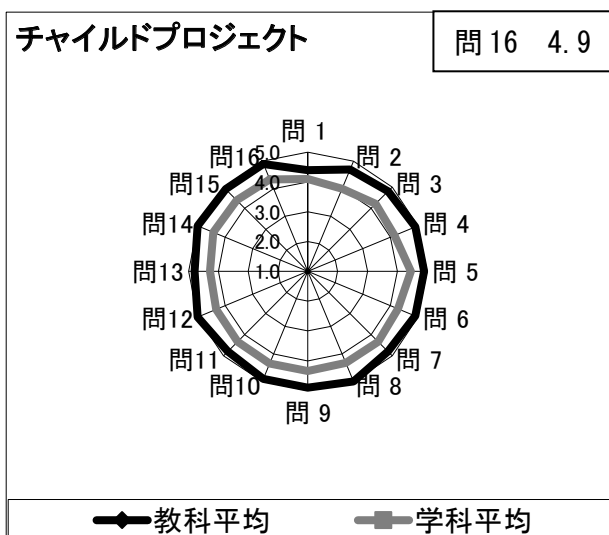
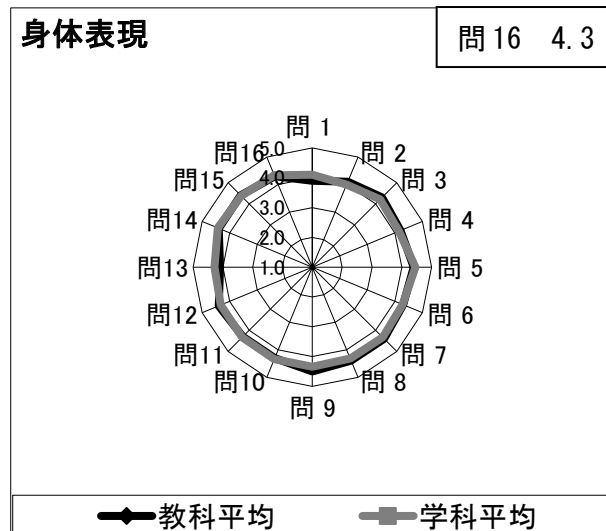
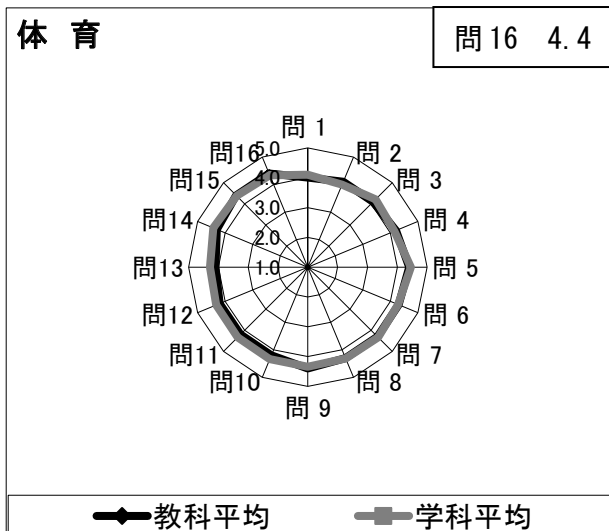
令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

<質問項目>

- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない





	問 17 あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
生活とスポーツⅠ（幼１）	27	20	4	0	1
生活とスポーツⅡ（幼１）	26	13	4	0	1
体育（幼２）	24	7	8	1	2
身体表現（幼２）	28	10	4	2	5
チャイルドプロジェクト（幼２）	4	2	3	0	2

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
生活とスポーツⅠ（幼１）	1	5	12	11	0	26
生活とスポーツⅡ（幼１）	4	4	20	8	0	14
体育（幼２）	2	5	17	2	0	14
身体表現（幼２）	5	6	27	4	4	19
チャイルドプロジェクト（幼２）	6	4	3	0	5	3

所属学科	職名	氏名
幼児教育	講師	増田 吹子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
保育内容総論	幼児教育学科 1 年生	卒業選択、免許・資格必修
教職基礎論	幼児教育学科 1 年生	卒業選択、免許・資格必修
教育課程論	幼児教育学科 1 年生	卒業選択、免許・資格必修
キャリアガイダンスⅠ	幼児教育学科 1 年生	卒業選択、資格選択必修
保育内容 環境	幼児教育学科 2 年生	卒業選択、免許・資格必修
保育実習指導Ⅱ	幼児教育学科 2 年生	卒業選択、資格選択必修
保育実習Ⅱ	幼児教育学科 2 年生	卒業選択、資格選択必修
チャイルドプロジェクト	幼児教育学科 2 年生	卒業必修、資格選択必修
キャリアガイダンスⅡ	幼児教育学科 2 年生	卒業選択、資格選択必修
研究分野		
1. 保育内容・幼児教育の分野 幼稚園教育要領・保育所保育指針等を基盤とした保育の展開による保育の質の向上について研究している。特に、乳幼児期における思考力の発達に焦点をあて、乳幼児の思考力を育てる保育の在り方についての考察を行っている。また、レッジョ・エミリアやテ・ファリキなどの海外の幼児教育や非認知能力の育成など世界的な幼児教育の動向について研究している。 2. 保育者養成の分野 保育者養成について、実習指導を中心に研究を行っている。本学では保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱを担当し、より効果的な実習の方法について研究し、実習指導・実習実施についてのマニュアルの改訂などに取り組んでいる。 3. 保育現場との共同研究の分野 保育の質の向上に取り組んでいる園の保育実践を見学し、事例を収集したり先生方への半構造化面接調査を行ったりしている。保育内容の研究分野についての事例や実践の現場での知見を収集することで、幼稚園教育要領や保育所保育指針を現場の保育にどう生かすかといったことについての考察を行っている。		

令和元年度 研究報告
令和元年度の研究の概要
1. 保育内容・幼児教育の分野 戦後の「保育要領」から現行の「幼稚園教育要領」まで、改訂されてきた全ての幼稚園教育要領において幼児期の思考力の育ちについて幼稚園教育要領の中でどのように扱われてきたかということについて考察した。論文「幼稚園教育要領における『思考力』の考え方—保育要領から平成 29 年度版幼稚園教育要領までの変遷—」を久留米信愛短期大学研究紀要第 43 号に投稿中である。 2. 保育者養成の分野 保育者養成について、実習指導を中心に研究を行っている。本学の保育実習・幼稚園教育実習の目的・内容の整理を行った。 3. 保育現場との共同研究の分野 北九州市にある森林幼稚園に見学・調査に伺った。ねらいに基づいた保育の展開、行事も含めた長期間にわたる遊びの継続性、自然の素材を造形活動に生かす保育等について学ばせていただいた。今後も継続して事例収集や先生方への半構造化面接調査をさせていただく。
令和元年度の研究の成果
(論文) 1. 「保育内容としての伝統行事—領域「環境」を中心として」単著 久留米信愛短期大学研究紀要第 42 号 令和元年 9 月 1 日 (著書) 1. 『基礎から学べる保育内容（人間関係）ワークブック』共著 あいり出版 令和 2 年 2 月 29 日 2. 『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z』共著 萌文書林 令和 2 年 3 月 30 日
平成 30 年度及び 29 年度の研究の成果
(論文) 1. 「5 領域を重視した指導の計画と実践—カリキュラム・マネジメントの確立に向けて—」 共著 鹿児島純心女子短期大学研究紀要第 48 号 平成 30 年 1 月 31 日 2. 「保育内容としての伝統行事—領域「環境」を中心として—」単著 久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号 令和元年 9 月 1 日 (報告) 1. 「『信愛つどいの広場』における子育て支援の実際」単著 久留米信愛短期大学研究紀要第 41 号 令和元年 9 月 1 日 (発表) 1. 「領域評価シートを活用した行事指導改善の試み」 単独 平成 30 年 2 月 25 日 日本保育学会九州地区 第 2 回研究集会

本教員の主たる研究の成果（5編以内）	
1. 「高度経済成長期における家庭の教育機能の変化に関する一考察」 単著 乳幼児教育学研究 平成12年12月 2. 「保育の質を向上させる保育内容についての検討」 共著 鹿児島純心女子短期大学研究紀要第47号 平成29年1月31日 3. 「幼稚園教育実習の事後指導における個別面談によるフィードバックの試み」 単著 鹿児島純心女子短期大学 鹿児島純心女子短期大学研究紀要 第47号 平成29年1月31日 4. 「5領域を重視した指導の計画と実践—カリキュラム・マネジメントの確立に向けて—」 共著 鹿児島純心女子短期大学研究紀要 第48号 平成30年1月31日 5. 「保育内容としての伝統行事—領域「環境」を中心として」 単著 久留米信愛短期大学研究紀要第42号 令和元年9月1日	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本保育学会	令和元年度第72回大会 参加
	令和元年度 九州・沖縄地区研究集会 参加
日本乳幼児教育学会	令和元年度第29回大会 不参加
令和2年度 研究計画	
1. 保育内容・幼児教育の分野 乳幼児期の思考力の発達を支える保育の展開についての研究を継続する。ピアジェなどの心理学の基礎理論の整理と並行して、日本における保育内容の変化とその歴史的変遷についての考察を継続していきたいと考えている。 2. 保育者養成の分野 本学で担当している保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱを中心に、実習指導の内容や方法について検討し、実習実施についてのマニュアルの改訂などを継続する。 3. 保育現場との共同研究の分野 森林幼稚園での事例収集・半構造化面接調査を継続する。また新たに福岡県庄内生活体験学校の事業に研究部員として参加予定である。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）		
担当科目の成績評価		
科目名	成績評価の内訳	平均
保育内容総論	AA： 4 名， A： 24 名， B： 18 名， C： 17 名， D： 0 名	3.2
教職基礎論	AA： 15 名， A： 18 名， B： 10 名， C： 21 名， D： 0 名	3.4
教育課程論	AA： 4 名， A： 13 名， B： 20 名， C： 20 名， D： 3 名	2.9
キャリアガイダンスⅠ	AA： 18 名， A： 20 名， B： 5 名， C： 16 名， D： 0 名	3.7
保育実習指導Ⅱ	AA： 32 名， A： 18 名， B： 6 名， C： 6 名， D： 0 名	4.2
保育実習Ⅱ	AA： 18 名， A： 26 名， B： 16 名， C： 3 名， D： 0 名	3.9
チャイルドプロジェクト	AA： 9 名， A： 4 名， B： 0 名， C： 0 名， D： 0 名	4.7
キャリアガイダンスⅡ	AA： 10 名， A： 11 名， B： 15 名， C： 10 名， D： 16 名	2.8
	AA： 名， A： 名， B 名， C 名， D 名	
	AA： 名， A： 名， B 名， C 名， D 名	
	AA： 名， A： 名， B 名， C 名， D 名	
	AA： 名， A： 名， B 名， C 名， D 名	
各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
保育内容総論	幼児教育学科 1 年生	卒業選択・免許資格必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	授業アンケートの結果、理解度の項目は評価が高いが、問 2「わからない時には質問したり、自分で調べたりした」が 3.8 と低い。自分で学びたいという気持ちを高めることで、0.2 ポイントアップを目指す。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	問 2 は 4.1 ポイントと昨年より 0.3 ポイントアップしており、目標を達成できた。全ての項目において 4.1 以上の評価を受けており、概ね意欲的に学習に取り組み理解ができていると考えられる。今年度からパワーポイントを使用したことが良い結果につながった可能性がある。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		<u>5</u> ・4・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		<u>5</u> ・4・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	今年度、受講した学生は素直で社会人を中心に学習意欲が高い傾向があった。どんな学生が受講したとしても丁寧な指導を心掛け、今年度同様の評価（総合評価 4.6）を得たいと思う。	

科目名	対象	必修・選択
教職基礎論	幼児教育学科	卒業選択、免許・資格必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	学生にとっては直接的な必要性を感じにくく難しい印象をもちがちな講義科目なので、板書（問 9）・配布資料（問 10）を工夫し、両項目で 4.2 以上を目指す。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	板書（問 9）は 4.7、配布資料（問 10）は 4.8 と非常に良い評価を得た。総合評価も 4.6 と高い。また、アンケートの自由記述欄に「人として成長できる授業でした」という記述があり、教職として肝心な人間性の成長を感じてもらえたことが喜ばしい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		<u>5</u> ・4・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	授業評価は問 2「わからない時には質問したり、自分で調べたりした」以外はすべて 4.0 以上、総合評価 4.6 ポイントを得たので、次年度も同様の評価を得たい。	
科目名	対象	必修・選択
教育課程論	幼児教育学科 1 年生	卒業選択、免許・資格必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	硬い印象を与えがちな科目なので、パワーポイントや映像資料等の活用により、問 9（板書）において 4.2 ポイント、問 10（資料）において 4.2 ポイント以上の評価を目指す。また、公開授業の際にご助言をいただいた「色の使い方」を工夫する。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	問 9・問 10 共に 4.7 ポイントと高評価を得ることができ、目標を達成できた。今年度よりパワーポイントを使用したことが良い結果につながったと考えられる。また、実際に製作活動を経験して計画を立てるという内容を加えたことで、硬い印象を少し払拭できたと考える。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		<u>5</u> ・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		<u>5</u> ・4・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	授業評価では、全ての項目で 4.2 以上、総合評価 4.5 と高い評価を得た。パワーポイントの使用と製作活動の導入を継続し、引き続き今年度同様の評価を得たいと思う。	

科目名	対象	必修・選択
キャリアガイダンスⅠ	幼児教育学科 1 年生	卒業選択、資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	前年度記述なし	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	総合評価 4.4 と高い評価を得ているが、欠席・未提出が多く成績が悪くなる学生が散見された。1 年次はキャリア形成についてのイメージが湧きにくいので、まずはこの科目の重要性を伝えることに重点を置き、キャリア形成への意欲を高めたい。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・3・ <u>2</u> ・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		<u>5</u> ・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	外部講師の講話が中心となる授業であり、シラバス作成の際の内容の吟味や外部講師の選定が重要な科目である。授業評価は外部講師の話に左右されるため数値目標を設定しにくい、学生に必要な内容を考えて授業計画を立てる。	
科目名	対象	必修・選択
チャイルドプロジェクト	幼児教育学科 2 年生	卒業必修、資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	平成 30 年度は 1 年間しか関わりがなかった学生への指導であったことによる難しさがあったが、令和元年度の受講生とは関係性ができている。計画的に進めることを心掛け、総合評価 4.0 以上を目指す。	
学生の授業評価を踏まえた自 己評価	前年度より計画的に進めることができ、問 4「さらに進んだ勉強をしたい (4.8)」を除いてすべて 4.9、総合評価 4.9 と非常に高い評価を得ることができた。しかし、これはほぼ担任をしているクラスの学生が受講し、学生との関係性が良好だったことによるものである。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・ <u>3</u> ・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	学生自らが調べ考え実践する形式を継続する。学外のイベントへの参加等の外部的な条件を加味して計画的に進める。学生との関係性が今年度より薄いことを考慮し、総合評価 4.5 以上を目指す。	

科目名	対象	必修・選択
キャリアガイダンスⅡ	幼児教育学科 2 年生	卒業選択、資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	前年度記述なし	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	授業評価は総合評価 4.1 と決して悪くないが、必修単位でないため内定を得た後は授業に参加しなくなる・ノートやレポートを提出しなくなるといった学生が多く、D 評価が多かった。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
教授内容が実際の社会や実践場でどのように機能しているかを伝えた		5・4・ <u>3</u> ・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・3・ <u>2</u> ・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		<u>5</u> ・4・3・2・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・4・3・ <u>2</u> ・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	キャリアガイダンスⅠと同様、外部講師の講話が中心となるため計画段階での内容の厳選が必要である。また、カリキュラムの中での位置づけも含め、内定後の授業参加へのモチベーションを上げる工夫が必要となる。	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
九州保育三団体研究大会 鹿児島大会分科会 助言者 免許状更新講習講師	令和元年 7月11日～13日 令和元年8月27日	九州保育三団体協議会 久留米信愛短期大学	鹿児島市民文化ホール 久留米信愛短期大学
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
職業実践専門課程委員会 委員	令和元年4月～ 令和2年3月	麻生医療福祉&観光カレッジ	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
保育内容総論	令和元年4月～7月	九州大谷短期大学	
言語表現スクーリング	令和元年9月14・15日	麻生医療福祉&観光カレッジ	
乳児保育	令和元年9月～令和2年1月	麻生医療福祉&観光カレッジ	
保育・教職実践演習（幼稚園）	令和元年9月～令和2年1月	麻生医療福祉&観光カレッジ	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
令和2年度 社会的活動計画			
1. 他団体への協力 高等教育コンソーシアム久留米高等教育連絡部会 委員 職業実践専門課程委員会 委員 麻生医療福祉&観光カレッジ 2. 他大学への非常勤等 保育内容総論 令和2年4月～7月 九州大谷短期大学非常勤講師 保育・教職実践演習（幼稚園） 令和2年9月～1月 麻生医療福祉&観光カレッジ 保育実習応用B 令和2年9月～1月 麻生医療福祉&観光カレッジ			

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

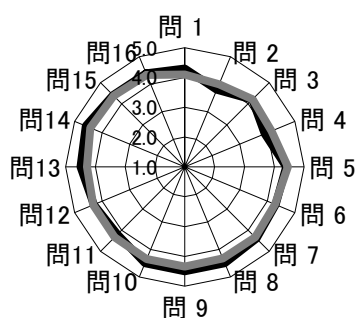
<質問項目>

- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない

キャリアガイダンス I

問 16 4.4

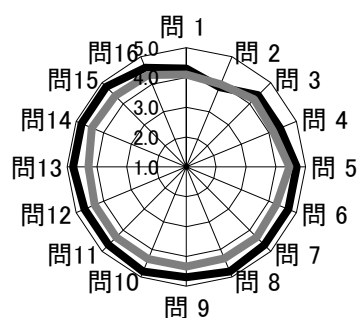


◆教科平均

■学科平均

教職基礎論

問 16 4.6

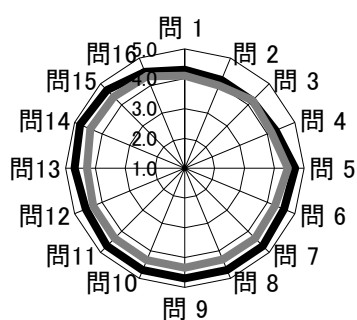


◆教科平均

■学科平均

教育課程論

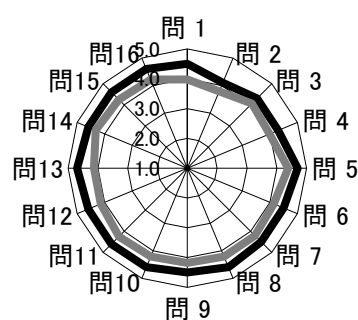
問 16 4.5



教科平均 学科平均

保育内容総論

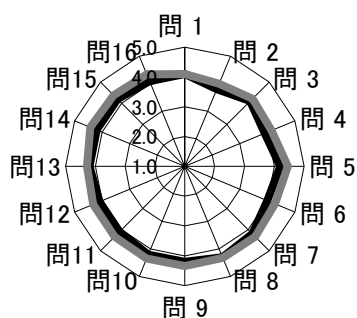
問 16 4.6



教科平均 学科平均

キャリアガイダンスⅡ

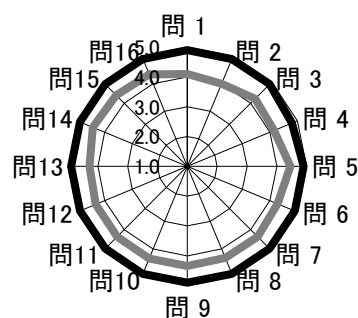
問 16 4.1



教科平均 学科平均

チャイルドプロジェクト

問 16 4.9



教科平均 学科平均

	問 17 あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
キャリアガイダンスⅠ（幼１）	26	12	3	0	2
教職基礎論（幼１）	22	15	7	1	2
教育課程論（幼１）	22	24	6	0	1
保育内容総論（幼１）	19	23	4	3	1
キャリアガイダンスⅡ（幼２）	42	7	2	0	1
チャイルドプロジェクト(幼２)	6	6	1	0	0

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
キャリアガイダンスⅠ（幼１）	1	2	23	1	1	16
教職基礎論（幼１）	2	9	31	5	2	10
教育課程論（幼１）	2	8	21	16	0	13
保育内容総論（幼１）	3	10	33	2	2	9
キャリアガイダンスⅡ（幼２）	1	2	10	1	0	34
チャイルドプロジェクト(幼２)	0	1	8	0	0	5

所属学科	職名	氏名
幼児教育	講師	内野 香
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
基礎造形Ⅰ 基礎造形Ⅱ 造形表現 チャイルドプロジェクト	幼児教育学科 1 年 幼児教育学科 1 年 幼児教育学科 2 年 幼児教育学科 2 年	卒業必修・免許必修・資格選択必修 卒業必修・資格選択必修 卒業選択・免許・資格必修 卒業必修・資格選択必修
研究分野		
1. 美術・造形教育の分野 作品制作において、感じたことを表現するための技術・技法の向上をいかに図るかを、研究のテーマとしている。 2. 保育者養成の分野 保育者として、自身の感性を高めるとはどういうことなのか、及びその必要性についての研究を行っている。 3. 作品制作の分野 セザンヌとフランシス・ベーコンの作品を比較検討し、類似、相違点を検討することによって、自身の制作の方向性を考える。		

令和元年度 研究報告	
令和元年度の研究の概要	
1. 美術・造形教育の分野 造形の授業において「感じる」とはどういうことなのか、言葉によって引き出すことで理解し、技術技法を用いて感じたことを表現する喜びを体得できるのではないかと考察した。	
2. 保育者養成の分野 教員免許更新講習での受講者及び保育園の職員等とのディスカッションで、生き生きとした造形活動の必要性をさらに感じ、保育者自身も表現者であるべきという認識を更につよくした。	
3. 作品制作の分野 ドゥルーズの書籍を読み込むと同時に、美術史の流れの中でセザンヌ・ベーコンがどう位置づけられ現代にいたっているかを考察し、制作する中で模索した。	
令和元年度の研究の成果	
報告	
1. 「久留米信愛菓一地元和菓子店と学生の協働による新商品の企画・開発―」共著 令和元年 9 月 『久留米信愛短期大学研究紀要』	
平成 30 年度及び 29 年度の研究の成果	
本教員の主たる研究の成果（5 編以内）	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
なし	
令和 2 年度 研究計画	
1. 美術・造形教育の分野 中学・高校での美術教育と、保育における造形教育の違いについて、授業の実践の中で考察し、表現することの基本的意味を探る。	
2. 保育者養成の分野 保育者自身の感性を高める必要性を、美術・造形以外の芸術分野（音楽・演劇・文学等）を含めて考え、その方法を探る。	
3. 作品制作の分野 昨年に引き続きセザンヌとベーコンについて考察する。	

令和元年度 教育活動報告（ティーチング・ポートフォリオ）		
担当科目の成績評価		
科目名	成績評価の内訳	平均
基礎造形Ⅰ	AA：17名，A：40名，B 1名，C 1名，D 0名	4.2
基礎造形Ⅱ	AA：19名，A：33名，B 1名，C 3名，D 0名	4.2
造形表現	AA：20名，A：40名，B 2名，C 2名，D 0名	4.2
チャイルドプロジェクト	AA： 3名，A： 6名，B 0名，C 0名，D 0名	4.3
	AA： 名，A： 名，B 名，C 名，D 名	
	AA： 名，A： 名，B 名，C 名，D 名	
	AA： 名，A： 名，B 名，C 名，D 名	
	AA： 名，A： 名，B 名，C 名，D 名	
	AA： 名，A： 名，B 名，C 名，D 名	
	AA： 名，A： 名，B 名，C 名，D 名	
	AA： 名，A： 名，B 名，C 名，D 名	
	AA： 名，A： 名，B 名，C 名，D 名	
各授業の評価		
科目名	対象	必修・選択
基礎造形Ⅰ	幼児教育学科1年	卒業必修・資格選択必修
前年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	【宣言】 感性を高め、造形の楽しさを実感することで、学習意欲、技術の向上をはかる。 【計画】 自然・様々な芸術・文化にふれる機会を多くつくる。	
学生の授業評価を踏まえた自己評価	科目の平均が 4.6 という結果であり、ある程度の理解と興味をもつことができているように思う。しかし、問4は 4.3 であり、さらに深く学んでいこうとする意欲がたりないようだ。視聴覚機器の利用を全くしていないので、鑑賞などに使用したり、学生の意欲をもっと引き出すために効果的に利用することを考える必要がある。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と教育力向上に向けての計画	【宣言】 造形に対する更なる興味を引き出し、作品の質をたかめる。 【計画】 DVDなどを利用し、美術・造形に対する理解と興味を深め、積極的に授業に取り組む姿勢をつくる。	

科目名	対象	必修・選択
造形表現	幼児教育学科 1 年	卒業選択・免許・資格必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	【宣言】 学生各々の感性を高める。造形教育の指導力向上。 【計画】 感じたことや、考えたことを学生自身の表現として制作し、 造形にしかできない表現の力を感じとる。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	教科平均 4.7 という結果から、授業に対する理解と興味はある程度得 ることができたように思う。問 1 に関しては、4.1 と低く反省の余地 があり、居眠り・私語をしないような授業の工夫が必要である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	【宣言】 授業に集中できる環境と課題作りをする。 【計画】 学生に、積極的に発言や発表をする機会を多く与え、授業に リズムを作る。	
科目名	対象	必修・選択
基礎造形Ⅱ	幼児教育学科 2 年	卒業・資格選択必修
前年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	【宣言】 学生各々の感性を高める。制作における技術の向上をはる。 【計画】 様々な芸術・文化・自然と触れ合う機会を多く持つことで、表現 意欲を高める。技術向上の重要性を認識し努力につなげる。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	教科平均 4.7 から、全体に楽しみながら課題に取り組んでいるように 思う。積極的に学ぼうとする学生もわずかだが見受けられるように なった。しかし問 2 から、今一つ積極性にかけるようにもみられる。自 発的に質問等ができる授業を考えなければならない。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場面でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT 等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度の FD 宣言と 教育力向上に向けての計画	【宣言】 学生の授業に対する積極性をよりひきだす。 【計画】 課題の充実を今以上に図る。学生の発言できる機会を多くする。	

科目名	対象	必修・選択
チャイルドプロジェクト	幼児教育学科2年	卒業必修・資格選択必修
前年度のFD宣言と 教育力向上に向けての計画	【宣言】 授業に沿った課題を見つけ、学生にとって意味あるものにする。 【計画】 子どもたちとふれ合う機会を持ち、その経験を幼児教育の学びにいかす。	
学生の授業評価を踏まえた 自己評価	教科平均は4.2という結果で、この教科の意図をうまく伝えきれなかったように思う。後期に、教員側から少々無理に課題を与えた感があり、それが問6・7の平均に表れているように思う。学生の自主性を尊重し、育む努力が必要である。	
授業についての自己評価		←できた できなかった→
最新の知見や動向をふまえて講義ノートを更新した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
教授内容が実際の社会や実践場でどのように機能しているかを伝えた		5・ <u>4</u> ・3・2・1
自身の研究活動での具体的成果等を通じて教授・指導した		5・4・ <u>3</u> ・2・1
ICT等を用いた参加型・発信型・実践型のアクティブ・ラーニングを取り入れた		5・4・3・ <u>2</u> ・1
振り返り用紙や小テスト等を用いて学生の到達度を確認しながら授業を行った		5・ <u>4</u> ・3・2・1
厳格な授業評価を実施した		5・ <u>4</u> ・3・2・1
次年度のFD宣言と 教育力向上に向けての計画	【宣言】 学生の自主性を尊重しつつ、より積極的に授業に取り組める課題を学生と共に考える。 【計画】 学生自身が課題の計画案を作り、実行するという授業の進め方をする。	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
・教員免許状更新講習	令和元年8月28日	久留米信愛短期大学	久留米信愛短期大学
・信愛つどいの広場子育て支援講座「虫さんと遊ぼう」	令和元年9月21日	久留米信愛短期大学	久留米信愛短期大学
・信愛つどいの広場子育て支援講座「クレパスはお友達」	令和元年10月5日	久留米信愛短期大学	久留米信愛短期大学
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
その他特記事項			
内容		年 月 日	
令和2年度 社会的活動計画			

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果

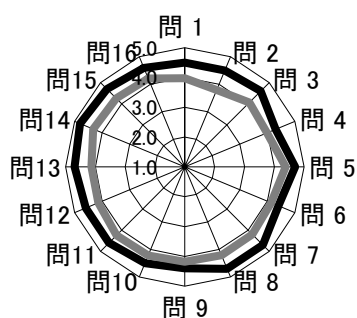
<質問項目>

- 問 1 私はこの授業中、居眠り・私語・メールをすることが少なかった。
- 問 2 私はわからない時には質問したり、自分で調べたりした。
- 問 3 私は授業の内容を理解することができた（または実力がついた）。
- 問 4 私はこの授業に関して、さらに進んだ勉強をしたいと思う。
- 問 5 授業はほぼ時間通りに始まり、ほぼ時間通りに終わった。
- 問 6 先生はこの科目の目標や他の科目との関連をわかりやすく説明した。
- 問 7 毎回の授業に関するテーマや目的はわかりやすかった。
- 問 8 先生の話し方は明瞭で、聞き取りやすかった。
- 問 9 先生の板書の仕方や視聴覚機器（ビデオなど）の利用が効果的であった。
- 問 10 教科書、参考書、配布資料（プリント・楽譜など）は、授業を理解するのに役立った。
- 問 11 この授業（科目）の成績評価の方法について、予めきちんと説明があった。
- 問 12 先生は授業中、学生が質問したり意見を述べられるように配慮をしていた。
- 問 13 先生は学生の私語や授業態度について、適切に注意していた。
- 問 14 先生は熱意を持って授業を行っていた。
- 問 15 先生は学生に対して愛情と尊敬の念を持って、授業を行っていた。
- 問 16 この授業を総合的に評価すると5点満点で何点になりますか。

5. そう思う
4. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
2. どちらかといえばそう思わない
1. そうは思わない

基礎造形Ⅰ

問 16 4.6

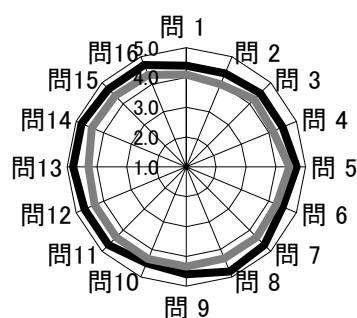


◆教科平均

■学科平均

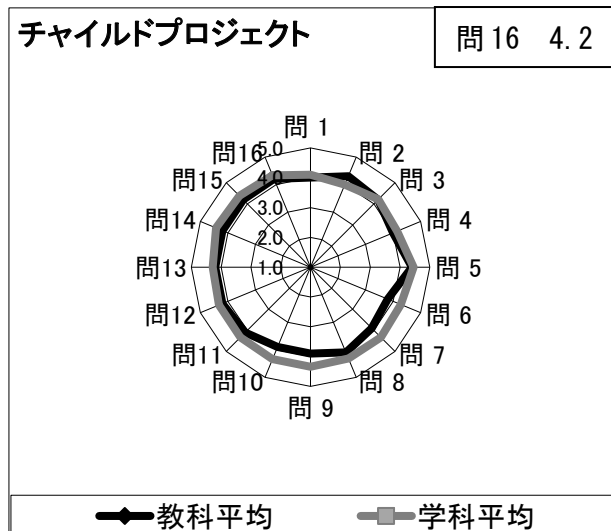
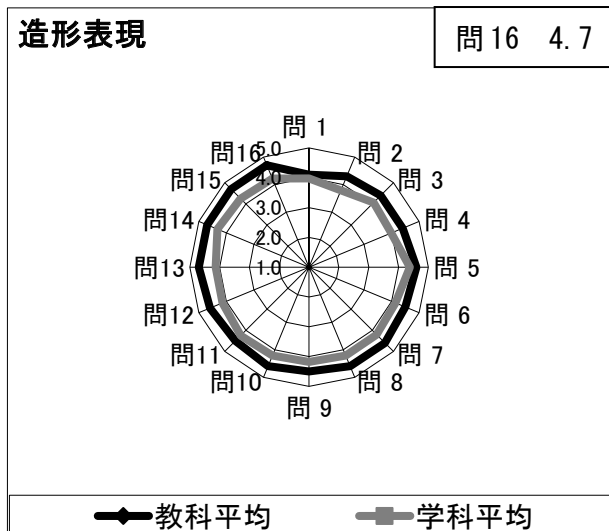
基礎造形Ⅱ

問 16 4.7



◆教科平均

■学科平均



	問 17 あなたはこの授業のために一週間当たり何分学習しましたか。				
科 目 名	0 分	1～30 分	31～60 分	61～90 分	91 分以上
基礎造形Ⅰ（幼１）	35	11	1	1	0
基礎造形Ⅱ（幼１）	27	12	3	0	1
造形表現（幼２）	34	5	3	2	2
チャイルドプロジェクト（幼２）	6	2	0	0	0

	問 18 あなたは授業時間以外にどのような学習（技術・技能の習得も含みます）を行いましたか。（複数回答可）					
科 目 名	予習	復習	課題	試験	自発的	行っていない
基礎造形Ⅰ（幼１）	2	1	21	0	0	23
基礎造形Ⅱ（幼１）	1	1	18	0	1	22
造形表現（幼２）	0	2	11	1	1	31
チャイルドプロジェクト（幼２）	0	0	1	0	0	6

所属学科	職名	氏名
フードデザイン学科	助手	眞谷 智美
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
研究分野		
1. 幼児・子どもの健康と食生活に関する調査研究 久留米市食育プランへの取り組みの一環としてアンケート調査を実施 子どもの食育に関する事業の推進を図り保護者に対する健康教育に活用する基礎資料作成 2. 地域特産物を利用した食育教材開発 久留米市内の保育園・幼稚園児の保護者、保育施設、地域社会と連携し、食と農に関する教育と健全な食生活への理解を促進する目的で地域農作物を使った食育教材作成 3. 行事食に関する調査研究 栄養士・保育士養成課程の学生へ年中行事や通過儀礼の認知度・経験、その際の行事食について、喫食経験、喫食状況、調理状況、食べ方などの喫食経験等をアンケート調査 食文化の継承に繋がる食教育法についての資料として調査研究を実施 4. 地域特産物を活用した食教育の効果検証 久留米市食育推進プランにおける食育事業への参画および農業団体や食品関連事業者等との協力活動を通して食育を実践 その成果を踏まえ栄養士養成カリキュラムにおける「地産農産物を活用した食教育」への取り組みを行った 5. 栄養士としての資質向上に向けての取り組み 栄養士養成の立場で学生が栄養士養成課程に必要な知識および技術に関する基本的事項を習得するために学科全教員でガイドブックを作成 本学科独自の学習支援および進路支援を実施 6. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関するアンケート調査 久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際について把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするためアンケート調査を実施 7. 乳幼児とその保護者への食育に関する研究 「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習を実施、その食育の取り組みについて報告 8. 学生の調理関連科目の習熟度についてアンケートを実施 学生が栄養士になるための基本的な知識と技術について習熟度を確認し、今後の指導内容について方向性の検討を行った		

令和元年度 研究報告	
令和元年度の研究の概要	
1. 栄養士としての資質向上に向けての取り組み	栄養士養成の立場で学生が栄養士養成課程に必要な知識および技術に関する基本的事項を習得するために学科全教員でガイドブックを作成 本学科独自の学習支援および進路支援を実施
2. 学生の調理関連科目の習熟度についてアンケートを実施	学生が栄養士になるための基本的な知識と技術について習熟度を確認し、今後の指導内容についての方向性の検討を行った
令和元年度の研究の成果	
(研究ノート)	
1. 『「学生の成長」の可視化のころみ (2) ～ループブリックの評価項目の再考について～』 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第42号』 (49-55)	
(報告)	
1. 「フードプロジェクト活動の報告～調理学の観点から～」共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第42号』 (79-84)	
(その他)	
1. 『入学から卒業までのガイドブック第10号』 共著 平成31年4月 久留米信愛短期大学フードデザイン学科	
平成30年度及び29年度の研究の成果	
(論文)	
1. 「栄養士養成研究 (5) 生活実態が学習支援効果に及ぼす影響-2」 共著 平成29年7月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第40号』 (25-34)	
2. 「栄養士養成研究 (6) 6年間の学習支援取り組みの総括」 共著 平成30年9月 『久留米信愛短期大学研究紀要 第41号』 (19-26)	
(発表)	
1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」 共同 平成29年9月17日 第43回福岡県栄養改善学会 ナースプラザ福岡	
(研究ノート)	
1. 「調理学関連科目の習熟度について 第1報」 共著 平成29年7月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第40号』 (95-101)	
2. 「調理学関連科目の習熟度について 第2報」 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第41号』 (27-33)	
3. 『「学生の成長」可視化のころみ (1) ーフードプロジェクト活動を通してー』 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第41号』 (35-42)	
(その他)	
1. 『入学から卒業までのガイドブック第8号』 共著 平成29年4月 久留米信愛女学院短期大学フードデザイン学科	
2. 『入学から卒業までのガイドブック第9号』 共著 平成30年4月 久留米信愛短期大学フードデザイン学科	

本教員の主たる研究の成果（5編以内）	
なし	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会 日本調理科学会 日本家政学会	第66回日本栄養改善学会学術総会参加 日本調理科学 2019 年度大会参加 大会等不参加
令和2年度 研究計画	
1. 栄養士養成に関する研究 『入学から卒業までのガイドブック第11号』 共著 久留米信愛短期大学フードデザイン学科改定予定 2. 「学習成果の可視化に向けて」 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第43号』 投稿予定 3. 「信愛ひらく 食育・保育教材」の開発 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第43号』 投稿予定	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
なし			
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
J Aくるめ広報誌「With You」レシピ掲載	平成 31 年 1 月～令和 2 年 3 月	J Aくるめ	
グリーンコープへレシピ掲載	平成 31 年 1 月～令和 2 年 3 月	グリーンコープ	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
なし			
その他特記事項			
内容		年 月 日	
久留米大学「食と健康」調理実習 助手		令和元年5月25日 10月26日	
令和 2 年度 社会的活動計画			
1. 「信愛つどいの広場」子育て支援講座 講師 2. J Aくるめ広報紙「With You」へ久留米農産物を使った料理レシピ掲載 3. ふるさとくるめ農業まつりへの協力 4. 久留米大学「食と健康」調理実習 助手 5. グリーンコープへの料理レシピ掲載			

所属学科	職名	氏名
フードデザイン	助手	高松 幸子
担当科目		
科目名	対象	必修・選択
研究分野		
1. 栄養士養成に関する研究 学科全教員でガイドブックを作成し、栄養士としての資質向上に向けての取り組み等を研究している。 2. 乳幼児とその保護者への食育に関する研究 「子育て支援講座」において乳幼児の保護者およびその関係者へ望ましい食習慣を確立することを目的とし講座・調理実習内容等を研究している。 3. 調理学関連科目の習熟度に関する研究 学生が身に付けた基本的な知識や技術、シラバスの目標達成度等を把握し、今後の課題や指導の方向性を検討するために調査研究している。 4. 行事食に関する調査研究 栄養士・保育士養成課程の学生へ福岡県の郷土料理の喫食経験等をアンケート調査し、食文化の継承に繋がる食教育法について調査研究している。 5. 幼児・子どもの健康と食生活に関する調査研究 久留米市子どもの健康と食生活に関する実態調査を受けて、基礎資料の作成や朝食摂取とその他の要因の関連について研究している。 6. 幼稚園・保育園・認定こども園における食育に関する研究 久留米市の保育園、幼稚園、認定こども園、各園における食育推進の実際についてアンケート調査による把握を行い、「久留米市食育推進プラン」への次期策定および改善に向けての基礎資料とするための研究をしている。		

令和元年度 研究報告
令和元年度の研究の概要
1. 栄養士養成に関する研究 栄養士の資質向上に向けての取り組みとして、学科全教員で『入学から卒業までのガイドブック』の内容検討し作成した。 2. 乳幼児とその保護者への食育に関する研究 講義・調理実習内容等についての検討を行い、試作し実際に実施するための研究を継続した。 3. 調理学関連科目の習熟度に関する研究 学生へのアンケートを実施し、集計等を行った。
令和元年度の研究の成果
(研究ノート) 1. 「学生の成長」可視化のころみ (2) ～ループリックの評価項目の再考について～ 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第42号』(49－55) (報告) 1. 久留米信愛菓－地元和菓子店と学生の協働による新商品の企画・開発－ 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第42号』(75－78) 2. フードプロジェクト活動の報告～調理学の観点から～ 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第42号』(79－84) (その他) 1. 『入学から卒業までのガイドブック第10号』 共著 平成31年4月 久留米信愛短期大学フードデザイン学科
平成30年度及び29年度の研究の成果
(論文) 1. 「栄養士養成研究 (5) 生活実態が学習支援効果に及ぼす影響-2」 共著 平成29年7月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第40号』(25－34) 2. 「栄養士養成研究 (6) 6年間の学習支援取り組みの総括」 共著 平成30年9月 『久留米信愛短期大学研究紀要 第41号』(19－26) (発表) 1. 「子育て支援講座における食育の取り組み」 共同 平成29年9月17日 第43回福岡県栄養改善学会 ナースプラザ福岡 (研究ノート) 1. 「調理学関連科目の習熟度について 第1報」 共著 平成29年7月 『久留米信愛女学院短期大学研究紀要 第40号』(95－101) 2. 「調理学関連科目の習熟度について 第2報」 共著 平成30年9月 『久留米信愛短期大学研究紀要 第41号』(27－33) 3. 「学生の成長」可視化のころみ (1) －フードプロジェクト活動を通して－ 共著 平成30年9月 『久留米信愛短期大学研究紀要 第41号』(35－42) (その他) 1. 『入学から卒業までのガイドブック第8号』 共著 平成29年4月 久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン学科 2. 『入学から卒業までのガイドブック第9号』 共著 平成30年4月 久留米信愛短期大学フードデザイン学科

本教員の主たる研究の成果（5 編以内）	
なし	
所属学会および参加状況	
所属学会	参加状況および役職等
日本栄養改善学会 日本調理科学会	第 66 回日本栄養改善学会学術総会参加 日本調理科学 2019 年度大会参加
令和 2 年度 研究計画	
1. 栄養士養成に関する研究 「入学から卒業までのガイドブック第 11 号」 共著 久留米信愛短期大学 フードデザイン学科 改定発行予定 2. 「学習成果の可視化」に向けて 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第 43 号』投稿予定 3. 「信愛ひらく 食育・保育教材」の開発 共著 『久留米信愛短期大学研究紀要 第 43 号』投稿予定	

令和元年度 社会的活動報告			
講演等			
題名	講演年月日	主催者	場所
なし			
他団体等への協力			
協力内容	協力期間	協力先	
J Aくるめ広報誌「With You」レシピ掲載 グリーンコープへレシピ掲載	平成 31 年 1 月～令和 2 年 3 月 平成 31 年 1 月～令和 2 年 3 月	J Aくるめ グリーンコープ	
他大学への非常勤等			
科目名	期間	出向先	
なし			
その他特記事項			
内容		年 月 日	
久留米大学「食と健康」調理実習 助手		令和元年 5 月 25 日 10 月 26 日	
令和 2 年度 社会的活動計画			
1. 「信愛つどいの広場」子育て支援講座 講師 2. J Aくるめ広報紙「With You」へ久留米農産物を使った料理レシピ掲載 3. グリーンコープへの料理レシピ掲載 4. 久留米大学「食と健康」調理実習 助手 5. ふるさとくるめ農業まつりへの協力			

令和元年度 第1回教員研修会

令和元年9月4日(水) 13:00~14:00

幼児教育学科 内野香

「セザンヌとベーコンが追い求めたもの―「感覚を描くこと」― (ジル・ドゥルーズ「フランシス・ベーコン 感覚の論理学」をテキストにして)」

今回の教員研究会における発表は、幼児教育における造形と直接的な関係がないように思われるが、「感覚を描くこと」についての考察は、「ゆたかな感性や表現する力を養う」ことを領域「表現」のねらいとしている幼児教育と、深いところで繋がっているはずである。突き詰めれば、「表現する」とはどういうことなのかを問うことであり、常に考えざるを得ない問いである。

セザンヌについては多くの画家や評論家が彼の作品から多くのインスピレーションを受け、その魅力の秘密を解き明かそうとしてきた。ベーコンは20世紀最高の画家の一人と言われ、一見するとその暴力的で不気味な作品から目をそらしたくなるが、セザンヌの作品と同様に何か不思議なエネルギーを感じさせる。そしてまったく違う二人の作品には同じ何かが存在するのである。その何かをジル・ドゥルーズ「フランシス・ベーコン 感覚の論理学」をテキストにして解き明かそうとする試みの一部を今回の研究会での発表とした。

まず、セザンヌ、ベーコン、ドゥルーズについての簡単な説明を行い、セザンヌ、ベーコンまでの美術史の流れ、それに続く近代以降の美術のあり方について述べた。それは、セザンヌ、ベーコンが「感覚」をどう捉えていたのか、そしてどのように表現しようとしたのかを考える上で重要なことであり、ひいては今日の美術を考えることでもある。彼らが目指したものは具象・抽象という二極化された近・現代の美術の動きの中にどう自分を位置付けるかということではなく、あくまでも「感覚を描くこと」であった。彼らの言う「感覚」とはリンゴは赤くて丸いというような「紋切型」の認識ではなく、リンゴそのものの中にある真の特性を意味しており、そしてそれを引っ張り出して「紋切型」の表現と格闘しながら画布の上に定着させることを「表現」とした。発表の後半はセザンヌ、ベーコンが「感覚」を「表現」にするまでの各々の闘いを述べた。

「感覚を描くこと」とはどういうことなのか。このことは長く自問自答してきたことであり、創作活動においても頭を悩ませてきたことである。「感覚を描くこと」についての考察はまだほんの入口でしかない。これからも考え続けていきたいと思っている。

令和2年 2月 19日 (水)

10:00～ 11:00

於：バイオレットホール

フードデザイン学科 氏名 安保 康治

ノリの生化学的品種判定

ノリ (*Porphyra*) の品種が葉体の形やサイズ、色などの形態的特性で判定されている現状より、養殖の種として管理されている 2n 体(Diploid)の糸状体(Conchocelis)を材料に制限酵素および PCR による DNA fragment の電気泳動パターンにより品種同定を試みた。

まず、DNA の分離方法を検討した結果、6 品種(ミノミアサクサ、アサクサ松川、ナラワスサビ、スサビ佐賀 10 号、スサビ緑芽、島原イチマツ)とも電気泳動的に 1 バンドであり、 A_{260}/A_{280} が 1.70～1.77 の純度の高い DNA が分離でき、その大きさは全品種とも約 18kbp であった。

15 種の制限酵素による消化をみると、例えば、BamH I (認識配列 GGATCC)はアサクサ 2 品種とスサビ 2 品種は消化され、ナラワスサビとイチマツは消化されなかった。EcoR I (GAATTC)はアサクサ 2 品種だけ消化されず、Xho I (CTCGAG)はイチマツだけ消化された。これらより、5 つの制限酵素(BamH I, EcoR I, Xho I, Msp I, Apa I)に対する 6 品種の DNA の消化の有無がどこか 1 点は異なったので、この 5 つの制限酵素でこの 6 品種は識別できることがわかった。

次に、アサクサ出水を加え 7 品種について、12 塩基配列のプライマー48 個で PCR による DNA の増幅を試み、その電気泳動パターンを確認したところ、48 個中 3 個のプライマーに増幅が確認された。Primer A06(GCCAGCTGTACG)は、全品種に増幅が認められたが、その DNA fragment はアサクサ種で 4kbp、スサビ種で 7kbp、イチマツ種で 12kbp と異なり、Primer A44(GACGGTTCAAGC)は、全品種に 1.8kbp の増幅が認められ、Primer A71(ACTCTTCTACAA)は、スサビ種では増幅が認められなかったが、アサクサ種には 6.5kbp、イチマツ種には 3kbp に認められた。これらより、A06 または A71 の Primer による PCR の増幅で、品種間は無理であるが、種間の判定は可能であることがわかった。

令和元年3月4日（ 水 ）

14：30～ 15：30

於：バイオレットホール

幼児教育学科 氏名 関 聡

研究生生活を振りかえりながら ～物語としての信愛～

I. はじめに

II. 20代 二極弁証法の時代

III. 30代 動的相対主義の時代

IV. 40代 信愛保育の時代

V. 物語としての信愛

VI. おわりに

学生時代から今日に至るまでの研究生生活を振りかえった。

修士論文の題は「T. リットにおける教育学的思考の特質」であり、リットの「二極弁証法」をもちいて、同じ価値をもつ相容れない二極が矛盾葛藤することによりお互いの価値を高めることを論じた。

本学に就職し保育の世界に足を踏み入れ、保育の世界では教師と子ども、教材と生活、学習と遊びが対立的でなく融合的なことを知る。そこで上田薫氏の教室の論理である「動的相対主義」に共感をもった。

学科長になり、「信愛の保育とはなにか」を問う時、「なぜ一人ひとりを大切にするのか」を学生に理解させる必要を感じた。宗教的バックボーンのない学生にどのように説けばいいのかが新しいテーマとなった。

信愛で学んだことが日々の生活や人生に繋がってほしいと願う。学修と人生の統合である。一人ひとりの人生の中に信愛で学んだことが生きること。その人の人生という物語のひとつに信愛があることを信じて教育に当たりたい。

学生の授業評価に基づく優秀科目

次の科目は「学生による授業評価アンケート」において、「総合評価」の評価が高かったので、「優秀科目」として称えます。(アンケート回答者数が5名以上の科目を表彰の対象とします)
同順の科目は回答者数の人数が多い順に掲載しています。

令和元年度前期

順位	科目	対象	指導形態	必修・選択	担当者	解答者数	総合評価点
1	モンテッソーリ教育法Ⅰ	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択 資格選択必修	関	5人	4.8
1	ピアノ演奏法	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択 資格選択必修	原	5人	4.8
3	造形表現	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択 免許・資格(選択)必修	内野	47名	4.7
4	基礎造形Ⅰ	幼児教育学科 1年	演習	卒業必修 免許(・資格選択)必修	内野	55名	4.6
4	保育内容総論	幼児教育学科 1年	演習	卒業選択 免許・資格必修	増田	55名	4.6
4	食品加工学実習	フードデザイン 学科2年	実習	卒業選択 免許必修	江越	19名	4.6
7	教育原理	幼児教育学科 1年	講義	卒業選択 免許・資格必修	関	55名	4.5
7	給食管理実習Ⅱ	フードデザイン 学科2年	実習	卒業選択 免許必修	石井	16名	4.5
7	臨床栄養学実習	フードデザイン 学科2年	実習	卒業選択 免許必修	石井	18名	4.5
10	生活とスポーツⅠ	幼児教育学科 1年	講義	卒業必修 免許・資格必修	新井	57名	4.4
10	保育内容 表現	幼児教育学科 1年	演習	卒業選択 免許・資格必修	椎山	56名	4.4
10	応用調理学実習Ⅰ	フードデザイン 学科2年	実習	卒業選択 免許必修	山村	19名	4.4
10	給食実務論	フードデザイン 学科2年	演習	卒業必修 免許必修	山村	18名	4.4
10	臨床栄養学概論	フードデザイン 学科2年	講義	卒業選択 免許必修	石井	19名	4.4

令和元年度後期

順位	科目	対象	指導 形態	必修・選択	担当者	解答 者数	総合 評価点
1	基礎造形Ⅱ	幼児教育学科 1年	演習	卒業必修 資格選択必修	内野	52名	4.7
2	教職基礎論	幼児教育学科 1年	講義	卒業選択 免許・資格必修	増田	52名	4.6
2	生活とスポーツⅡ	幼児教育学科 1年	実技	卒業必修 免許・資格必修	新井	54名	4.6
4	教育課程論	幼児教育学科 1年	講義	卒業選択 免許・資格必修	増田	58名	4.5
5	キャリア ガイダンスⅠ	幼児教育学科 1年	演習	卒業選択	増田	49名	4.4
5	体育	幼児教育学科 2年	演習	卒業必修 免許(・資格選択)必修	新井	44名	4.4
5	製菓・製パン演習	フードデザイン 学科1年	演習	卒業選択	山村	20名	4.4
8	身体表現	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択 免許・資格(選択)必修	新井	52名	4.3
8	保育・教職実践 演習(幼稚園)	幼児教育学科 2年	演習	卒業選択 免許・資格必修	椎山他	57名	4.3
8	食品衛生学実験	フードデザイン 学科1年	実験	卒業選択 免許必修	江越	21名	4.3
8	食品学各論	フードデザイン 学科1年	講義	卒業選択 免許必修	江越	21名	4.3

令和元年度 公開授業 実施一覧

敬称略

実施日	校時	担当者	科目	学科 学年	講義室等	参観者
7月3日(水)	2	石井	給食計画論	フード 1年	1301 教室	山下・安保・ 江越・原
7月9日(火)	4	江越	食品学実験	フード 1年	理化学実験室	石井・眞部・ 増田
7月11日(木)	3	山下	応用栄養学Ⅰ	フード 1年	1301 教室	山村・眞部・ 阿久根
10月28日(月)	1	眞部	栄養士情報処理演習	フード 1年	マルチメディア センターML	山村・原・ 増田・新井
10月29日(木)	4	山村	製菓・製パン演習	フード 1年	フードデザイン 室	山下・眞部・ 増田・内野
11月5日(火)	1	増田	教職基礎論	幼教 1年	1201 教室	新井・山下・ 山村
11月21日(木)	1	新井	生活とスポーツⅡ	幼教 1年	小ホール	阿久根・山下・ 眞部
11月26日(火)	4	阿久根	英語Ⅱ	幼教 1年	1403 教室	椎山・原・ 石井
11月27日(水)	3	重永	栄養士総合演習Ⅱ	フード 2年	1302 教室	原・内野
12月17日(火)	1	関	モンテッソーリ教育法Ⅱ	幼教 2年	M 教室	池田
12月19日(木)	2	原	ピアノⅡ	幼教 1年	音楽室	石井・増田
12月20日(金)	2	池田	発達心理学	幼教 1年	1201 教室	関・内野・ 眞部
1月7日(火)	3・4	安保	生化学実験	フード 2年	理化学実験室	石井・阿久根
1月8日(水)	2	椎山	器楽合奏	幼教 2年	音楽室	阿久根・新井・ 増田
1月14日(火)	1	内野	基礎造形Ⅱ	幼教 1年	美術室	山下・山村

幼教：幼児教育学科、フード：フードデザイン学科

令和元年度 教育と研究

令和2年 7月15日 印刷

令和2年 8月 1日 発行

発 行 所 久留米信愛短期大学

〒839-8508 福岡県久留米市御井町 2278-1

TEL: 0942-43-4532

FAX: 0942-43-2531

印 刷 所 服部印刷株式会社 〒830-0048 福岡県久留米市梅満町 410-1